

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書13

— 成田市名木鎌部遺跡 —

平成24年1月

国 土 交 通 省
財團法人 千葉県教育振興財団

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書13

—なりた　なぎかまべ
—成田市名木鎌部遺跡—



序 文

財団法人千葉県教育振興財團（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財團調査報告第672集として、国土交通省の首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴って実施した成田市名木鎌部遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、奈良・平安時代の集落跡、特殊遺構、塚状遺構など、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報告書が、学術資料として、また文化財の保護、普及のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力いただきました地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係機関、発掘調査から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成24年1月

財団法人 千葉県教育振興財團
理事長 赤 羽 良 明

凡　例

- 1 本書は、国土交通省による首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、成田市大字名木字鎌部663-5ほかに所在する名木鎌部遺跡遺跡コード(211-078)である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県教育庁教育振興部文化財課の指導のもと、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、財團法人千葉県教育振興財團が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本文の執筆・編集は、主席研究員 石倉亮治が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の作成に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所、成田市教育委員会、遠藤文雄氏（地元地権者）のご協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、次のとおりである。

第1図 下総町発行	1/2500地形図NO.13 (IX-KF 52-2)
第2図 国土地理院発行	1/50,000地形図(成田 NI-54-22-10)
	1/50,000地形図(佐原 NI-54-19-9)
- 8 本書で使用した航空写真は、次のとおりである。
図版1 京葉測量株式会社撮影(平成22年1月撮影)
- 9 本書で使用した図面の方位は座標北である。また、測量値は日本測地系を使用した。
- 10 遺物の色調は、農林水産省(財)日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」(日本色研事業株式会社発行)
- 11 掘図中の はトレンチャーによる搅乱を表す。
- 12 掘図中の は炉床を表す。

目 次

第1章 はじめに	
第1節 調査の経緯と経過	1
1 調査の経緯	1
2 調査の経過	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境	4
第2章 遺跡の調査と概要	7
第1節 調査の方法	7
第2節 遺構と遺物	7
1 堅穴住居跡	7
2 土坑	83
3 特殊遺構	85
4 塚状遺構	95
第3節 その他の遺物	96
第3章 まとめ	111
第1節 遺跡の特徴	111
第2節 遺構出土遺物の様相と年代	111
報告書抄録	卷末

表目次

第1表 調査の経過	3	第4表 特殊遺構出土土器の層位と様相	115
第2表 遺構出土土器観察表	103	第5表 主な墨書き土器	117
第3表 集落跡出土土器の編年	112		

挿図目次

第1図 名木鎌部遺跡の位置と関連遺跡	2	第9図 7号住居跡・出土遺物	17
第2図 名木鎌部遺跡の地形と調査範囲	5	第10図 8号住居跡・出土遺物	17
第3図 上層確認トレーナー配置図	8	第11図 9号住居跡・出土遺物	18
第4図 下層確認グリッド配置図	9	第12図 10号住居跡・出土遺物	19
第5図 遺構位置図	10	第13図 11号住居跡・出土遺物	19
第6図 1号住居跡・出土遺物	11	第14図 12号住居跡・出土遺物	21
第7図 2号・3号住居跡・出土遺物	13	第15図 13号住居跡・出土遺物	22
第8図 4号・5号・6号住居跡・出土遺物	15	第16図 14号住居跡・出土遺物	24

第17図	15号住居跡・出土遺物	26	第47図	40号住居跡・出土遺物（1）	62
第18図	16号住居跡	27	第48図	40号住居跡・出土遺物（2）	64
第19図	17号住居跡・出土遺物	29	第49図	41号住居跡・出土遺物	66
第20図	18号住居跡・出土遺物	31	第50図	42号住居跡・出土遺物	68
第21図	19号住居跡・出土遺物（1）	32	第51図	43号住居跡	68
第22図	19号住居跡・出土遺物（2）	33	第52図	44号住居跡・出土遺物（1）	70
第23図	20号住居跡・出土遺物	35	第53図	44号住居跡・出土遺物（2）	72
第24図	21号住居跡・出土遺物	37	第54図	45号住居跡・出土遺物	74
第25図	22号住居跡・出土遺物	37	第55図	46号住居跡・出土遺物	76
第26図	23号住居跡・出土遺物	39	第56図	47号住居跡・出土遺物	78
第27図	24号住居跡・出土遺物	39	第57図	48号住居跡・出土遺物	78
第28図	25号住居跡・出土遺物	41	第58図	49号住居跡	80
第29図	26号住居跡・出土遺物	41	第59図	50号住居跡・出土遺物	82
第30図	27号住居跡	43	第60図	51号住居跡・出土遺物	84
第31図	28号住居跡・出土遺物（1）	44	第61図	1号・2号土坑・出土遺物	84
第32図	28号住居跡・出土遺物（2）	46	第62図	特殊遺構（平成20年度調査）	86
第33図	29号住居跡・出土遺物	46	第63図	特殊遺構（平成20年度調査）出土遺物（1）	
第34図	30号住居跡	48			89
第35図	31号住居跡・出土遺物	48	第64図	特殊遺構（平成20年度調査）出土遺物（2）	
第36図	32号住居跡	50			91
第37図	33号住居跡	50	第65図	特殊遺構（平成20年度調査）出土遺物（3）	
第38図	32号・33号住居跡・出土遺物	52			93
第39図	34号住居跡・出土遺物	52	第66図	塹状遺構（平成20年度調査）（1）	97
第40図	35号住居跡・出土遺物（1）	54	第67図	塹状遺構（平成20年度調査）（2）	98
第41図	35号住居跡・出土遺物（2）	55	第68図	塹状遺構（平成20年度調査）出土遺物	99
第42図	36号住居跡・出土遺物（1）	56	第69図	遺構外出土遺物（1）	101
第43図	36号住居跡・出土遺物（2）	58	第70図	遺構外出土遺物（2）	101
第44図	37号住居跡・出土遺物	58	第71図	遺構外出土遺物（3）	102
第45図	38号住居跡	59	第72図	遺構外出土遺物（4）	102
第46図	39号住居跡・出土遺物	60			

図版目次

図版1	遺跡周辺航空写真（京葉測量株式会社撮影）	図版4	1号住居跡・2号住居跡・3号住居跡・
図版2	名木鎌部遺跡全景（ラジコンヘリコプター 撮影）		4号住居跡・5号住居跡
図版3	遺跡全景・下層層序	図版5	6号住居跡・7号住居跡・8号住居跡
		図版6	8号住居跡・9号住居跡・10号住居跡

- 図版7 11号住居跡・12号住居跡・13号住居跡
- 図版8 14号住居跡・15号住居跡・16号住居跡・
17号住居跡・18号住居跡
- 図版9 16号住居跡・17号住居跡・18号住居跡
- 図版10 20号住居跡・21号住居跡・22号住居跡
- 図版11 23号住居跡・24号住居跡・25号住居跡
- 図版12 26号住居跡・27号住居跡・28号住居跡・
29号住居跡
- 図版13 30号住居跡・31号住居跡
- 図版14 32号住居跡・33号住居跡・34号住居跡
- 図版15 35号住居跡・36号住居跡・37号住居跡
- 図版16 38号住居跡・39号住居跡
- 図版17 40号住居跡
- 図版18 40号住居跡・41号住居跡・42号住居跡
- 図版19 42号住居跡・43号住居跡・44号住居跡
- 図版20 45号住居跡・46号住居跡・47号住居跡
- 図版21 48号住居跡・49号住居跡・50号住居跡
- 図版22 50号住居跡・51号住居跡・特殊遺構
- 図版23 塚状遺構・1号土坑・2号土坑
- 図版24 遺構出土遺物（1号住居跡～15号住居跡）
- 図版25 遺構出土遺物（17号住居跡～20号住居跡）
- 図版26 遺構出土遺物（23号住居跡～35号住居跡）
- 図版27 遺構出土遺物（35号住居跡～40号住居跡）
- 図版28 遺構出土遺物（40号住居跡～41号住居跡）
- 図版29 遺構出土遺物（44号住居跡～46号住居跡）
- 図版30 遺構出土遺物（46号住居跡～特殊遺構）
- 図版31 遺構出土遺物（特殊遺構）
- 図版32 遺構出土遺物（特殊遺構）
- 図版33 遺構出土遺物（特殊遺構）
- 図版34 出土遺物（転用硯・土製品・軽石）
- 図版35 出土遺物（鉄製品）
- 図版36 出土遺物（鉄製品・スラグ）
- 図版37 出土遺物（瓦）
- 図版38 出土遺物（瓦）
- 図版39 出土遺物（瓦）
- 図版40 墨書き器（1）
- 図版41 墨書き器（2）
- 図版42 墨書き器（3）
- 図版43 墨書き文字集成（1）
- 図版44 墨書き文字集成（2）
- 図版45 墨書き文字集成（3）
- 図版46 その他の遺物（1）
- 図版47 その他の遺物（2）

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と経過

1 調査の経緯

名木鎌部遺跡の調査は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所による首都圏中央連絡自動車道（以下圏央道と略称する）建設工事に伴う埋蔵文化財調査として平成20年度及び21年度に実施された。

圏央道は、千葉県内では国土交通省と現東日本高速道路株式会社によって、横浜・厚木・八王子・川越・つくば・成田・木更津などの都市を結ぶ首都圏の環状道路として計画され、茨城・千葉県境から東関東自動車道大栄JCT（仮称）までの工事区間は国土交通省常総国道事務所が事業主体となった。国土交通省常総国道事務所は、該当する工事区間に所在する埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて千葉県教育委員会と協議を行い現状保存が困難な包蔵地について記録保存の措置を講じることとなり、財団法人千葉県教育振興財団が発掘調査を実施することになった。

2 調査の経過

圏央道国土交通省常総国道事務所に関わる埋蔵文化財調査は、平成17年から開始され現在に至っている。発掘調査及び整理作業の経過の状況は以下のとおりである。第1表は平成17年度～23年度までの発掘調査の経過で、18遺跡27地点の埋蔵文化財調査の進捗状況である。

国土交通省常総国道事務所管内では『成田市名木馬場遺跡・名木的場台遺跡』（1）の調査報告書が既に刊行されており、本調査報告書は2冊目となる。

（1）現地における埋蔵文化財の調査は以下の組織と担当により実施された。

平成20年度

調査期間：平成20年12月1日～平成21年1月30日

組織：調査研究部長 大原正義 北部調査事務所長 豊田佳伸 担当 上席研究員 井上哲郎

平成21年度

調査期間：平成21年6月1日～平成21年9月30日

組織：調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄 担当 主席研究員 石倉亮治

（2）名木鎌部遺跡の整理作業は以下の組織と担当により実施された。

平成22年度

整理期間：平成22年4月1日～平成22年9月30日、平成23年1月17日～平成23年3月31日

作業内容：記録整理～挿図・図版作成の一部

組織：調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄 担当 主席研究員 石倉亮治

平成23年度

整理期間：平成23年4月1日～平成23年7月31日

作業内容：挿図・図版作成の一部～報告書刊行

組織：調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄 担当 主席研究員 石倉亮治



一利一

首都面中央連絡官邸事務

- <img alt="A detailed map of the Japanese railway network in the Kanto region, specifically around Tokyo and Yokohama. The map shows various rail lines, stations, and geographical features. Key locations labeled include: 海岸白鳥線 (Kaiyō Shiratori Line) at the top; 湘南 (Shonan) and 鎌倉 (Kamakura) on the coast; 小田急電鉄 (Odakyū Electric Railway) lines branching from central Tokyo; and numerous local stations like 1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3, 4, 5, 6(1), 6(2), 7(1), 7(2), 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 409, 410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 418, 419, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 449, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 456, 457, 458, 459, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479, 479, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 499, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538, 539, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 549, 550, 551, 552, 553, 554, 555, 556, 557, 558, 559, 559, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 569, 570, 571, 572, 573, 574, 575, 576, 577, 578, 579, 579, 580, 581, 582, 583, 584, 585, 586, 587, 588, 589, 589, 590, 591, 592, 593, 594, 595, 596, 597, 598, 598, 599, 599, 600, 601, 602, 603, 604, 605, 606, 607, 608, 609, 609, 610, 611, 612, 613, 614, 615, 616, 617, 618, 619, 619, 620, 621, 622, 623, 624, 625, 626, 627, 628, 629, 629, 630, 631, 632, 633, 634, 635, 636, 637, 638, 639, 639, 640, 641, 642, 643, 644, 645, 646, 647, 648, 649, 649, 650, 651, 652, 653, 654, 655, 656, 657, 658, 659, 659, 660, 661, 662, 663, 664, 665, 666, 667, 668, 669, 669, 670, 671, 672, 673, 674, 675, 676, 677, 678, 679, 679, 680, 681, 682, 683, 684, 685, 686, 687, 688, 689, 689, 690, 691, 692, 693, 694, 695, 696, 697, 698, 698, 699, 699, 700, 701, 702, 703, 704, 705, 706, 707, 708, 709, 709, 710, 711, 712, 713, 714, 715, 716, 717, 718, 719, 719, 720, 721, 722, 723, 724, 725, 726, 727, 728, 729, 729, 730, 731, 732, 733, 734, 735, 736, 737, 738, 739, 739, 740, 741, 742, 743, 744, 745, 746, 747, 748, 749, 749, 750, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 766, 767, 768, 769, 769, 770, 771, 772, 773, 774, 775, 776, 777, 778, 779, 779, 780, 781, 782, 783, 784, 785, 786, 787, 788, 789, 789, 790, 791, 792, 793, 794, 795, 796, 797, 798, 798, 799, 799, 800, 801, 802, 803, 804, 805, 806, 807, 808, 809, 809, 810, 811, 812, 813, 814, 815, 816, 817, 818, 819, 819, 820, 821, 822, 823, 824, 825, 826, 827, 828, 829, 829, 830, 831, 832, 833, 834, 835, 836, 837, 838, 839, 839, 840, 841, 842, 843, 844, 845, 846, 847, 848, 849, 849, 850, 851, 852, 853, 854, 855, 856, 857, 858, 859, 859, 860, 861, 862, 863, 864, 865, 866, 867, 868, 869, 869, 870, 871, 872, 873, 874, 875, 876, 877, 878, 879, 879, 880, 881, 882, 883, 884, 885, 886, 887, 888, 889, 889, 890, 891, 892, 893, 894, 895, 896, 897, 898, 898, 899, 899, 900, 901, 902, 903, 904, 905, 906, 907, 908, 909, 909, 910, 911, 912, 913, 914, 915, 916, 917, 918, 919, 919, 920, 921, 922, 923, 924, 925, 926, 927, 928, 929, 929, 930, 931, 932, 933, 934, 935, 936, 937, 938, 939, 939, 940, 941, 942, 943, 944, 945, 946, 947, 948, 949, 949, 950, 951, 952, 953, 954, 955, 956, 957, 958, 959, 959, 960, 961, 962, 963, 964, 965, 966, 967, 968, 969, 969, 970, 971, 972, 973, 974, 975, 976, 977, 978, 979, 979, 980, 981, 982, 983, 984, 985, 986, 987, 988, 989, 989, 990, 991, 992, 993, 994, 995, 996, 997, 998, 998, 999, 999, 1000, 1001, 1002, 1003, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1009, 1009, 1010, 1011, 1012, 1013, 1014, 1015, 1016, 1017, 1018, 1019, 1019, 1020, 1021, 1022, 1023, 1024, 1025, 1026, 1027, 1028, 1029, 1029, 1030, 1031, 1032, 1033, 1034, 1035, 1036, 1037, 1038, 1039, 1039, 1040, 1041, 1042, 1043, 1044, 1045, 1046, 1047, 1048, 1049, 1049, 1050, 1051, 1052, 1053, 1054, 1055, 1056, 1057, 1058, 1059, 1059, 1060, 1061, 1062, 1063, 1064, 1065, 1066, 1067, 1068, 1069, 1069, 1070, 1071, 1072, 1073, 1074, 1075, 1076, 1077, 1078, 1079, 1079, 1080, 1081, 1082, 1083, 1084, 1085, 1086, 1087, 1088, 1089, 1089, 1090, 1091, 1092, 1093, 1094, 1095, 1096, 1097, 1098, 1098, 1099, 1099, 1100, 1101, 1102, 1103, 1104, 1105, 1106, 1107, 1108, 1109, 1109, 1110, 1111, 1112, 1113, 1114, 1115, 1116, 1117, 1118, 1119, 1119, 1120, 1121, 1122, 1123, 1124, 1125, 1126, 1127, 1128, 1129, 1129, 1130, 1131, 1132, 1133, 1134, 1135, 1136, 1137, 1138, 1139, 1139, 1140, 1141, 1142, 1143, 1144, 1145, 1146, 1147, 1148, 1149, 1149, 1150, 1151, 1152, 1153, 1154, 1155, 1156, 1157, 1158, 1159, 1159, 1160, 1161, 1162, 1163, 1164, 1165, 1166, 1167, 1168, 1169, 1169, 1170, 1171, 1172, 1173, 1174, 1175, 1176, 1177, 1178, 1179, 1179, 1180, 1181, 1182, 1183, 1184, 1185, 1186, 1187, 1188, 1189, 1189, 1190, 1191, 1192, 1193, 1194, 1195, 1196, 1197, 1198, 1198, 1199, 1199, 1200, 1201, 1202, 1203, 1204, 1205, 1206, 1207, 1208, 1209, 1209, 1210, 1211, 1212, 1213, 1214, 1215, 1216, 1217, 1218, 1219, 1219, 1220, 1221, 1222, 1223, 1224, 1225, 1226, 1227, 1228, 1229, 1229, 1230, 1231, 1232, 1233, 1234, 1235, 1236, 1237, 1238, 1239, 1239, 1240, 1241, 1242, 1243, 1244, 1245, 1246, 1247, 1248, 1249, 1249, 1250, 1251, 1252, 1253, 1254, 1255, 1256, 1257, 1258, 1259, 1259, 1260, 1261, 1262, 1263, 1264, 1265, 1266, 1267, 1268, 1269, 1269, 1270, 1271, 1272, 1273, 1274, 1275, 1276, 1277, 1278, 1279, 1279, 1280, 1281, 1282, 1283, 1284, 1285, 1286, 1287, 1288, 1289, 1289, 1290, 1291, 1292, 1293, 1294, 1295, 1296, 1297, 1298, 1298, 1299, 1299, 1300, 1301, 1302, 1303, 1304, 1305, 1306, 1307, 1308, 1309, 1309, 1310, 1311, 1312, 1313, 1314, 1315, 1316, 1317, 1318, 1319, 1319, 1320, 1321, 1322, 1323, 1324, 1325, 1326, 1327, 1328, 1329, 1329, 1330, 1331, 1332, 1333, 1334, 1335, 1336, 1337, 1338, 1339, 1339, 1340, 1341, 1342, 1343, 1344, 1345, 1346, 1347, 1348, 1349, 1349, 1350, 1351, 1352, 1353, 1354, 1355, 1356, 1357, 1358, 1359, 1359, 1360, 1361, 1362, 1363, 1364, 1365, 1366, 1367, 1368, 1369, 1369, 1370, 1371, 1372, 1373, 1374, 1375, 1376, 1377, 1378, 1379, 1379, 1380, 1381, 1382, 1383, 1384, 1385, 1386, 1387, 1388, 1389, 1389, 1390, 1391, 1392, 1393, 1394, 1395, 1396, 1397, 1398, 1398, 1399, 1399, 1400, 1401, 1402, 1403, 1404, 1405, 1406, 1407, 1408, 1409, 1409, 1410, 1411, 1412, 1413, 1414, 1415, 1416, 1417, 1418, 1419, 1419, 1420, 1421, 1422, 1423, 1424, 1425, 1426, 1427, 1428, 1429, 1429, 1430, 1431, 1432, 1433, 1434, 1435, 1436, 1437, 1438, 1439, 1439, 1440, 1441, 1442, 1443, 1444, 1445, 1446, 1447, 1448, 1449, 1449, 1450, 1451, 1452, 1453, 1454, 1455, 1456, 1457, 1458, 1459, 1459, 1460, 1461, 1462, 1463, 1464, 1465, 1466, 1467, 1468, 1469, 1469, 1470, 1471, 1472, 1473, 1474, 1475, 1476, 1477, 1478, 1479, 1479, 1480, 1481, 1482, 1483, 1484, 1485, 1486, 1487, 1488, 1489, 1489, 1490, 1491, 1492, 1493, 1494, 1495, 1496, 1497, 1498, 1498, 1499, 1499, 1500, 1501, 1502, 1503, 1504, 1505, 1506, 1507, 1508, 1509, 1509, 1510, 1511, 1512, 1513, 1514, 1515, 1516, 1517, 1518, 1519, 1519, 1520, 1521, 1522, 1523, 1524, 1525, 1526, 1527, 1528, 1529, 1529, 1530, 1531, 1532, 1533, 1534, 1535, 1536, 1537, 1538, 1539, 1539, 1540, 1541, 1542, 1543, 1544, 1545, 1546, 1547, 1548, 1549, 1549, 1550, 1551, 1552, 1553, 1554, 1555, 1556, 1557, 1558, 1559, 1559, 1560, 1561, 1562, 1563, 1564, 1565, 1566, 1567, 1568, 1569, 1569, 1570, 1571, 1572, 1573, 1574, 1575, 1576, 1577, 1578, 1579, 1579, 1580, 1581, 1582, 1583, 1584, 1585, 1586, 1587, 1588, 1589, 1589, 1590, 1591, 1592, 1593, 1594, 1595, 1596, 1597, 1598, 1598, 1599, 1599, 1600, 1601, 1602, 1603, 1604, 1605, 1606, 1607, 1608, 1609, 1609, 1610, 1611, 1612, 1613, 1614, 1615, 1616, 1617, 1618, 1619, 1619, 1620, 1621, 1622, 1623, 1624, 1625, 1626, 1627, 1628, 1629, 1629, 1630, 1631, 1632, 1633, 1634, 1635, 1636, 1637, 1638, 1639, 1639, 1640, 1641, 1642, 1643, 1644, 1645, 1646, 1647, 1648, 1649, 1649, 1650, 1651, 1652, 1653, 1654, 1655, 1656, 1657, 1658, 1659, 1659, 1660, 1661, 1662, 1663, 1664, 1665, 1666, 1667, 1668, 1669, 1669, 1670, 1671, 1672, 1673, 1674, 1675, 1676, 1677, 1678, 1679, 1679, 1680, 1681, 1682, 1683, 1684, 1685, 1686, 1687, 1688, 1689, 1689, 1690, 1691, 1692, 1693, 1694, 1695, 1696, 1697, 1698, 1698, 1699, 1699, 1700, 1701, 1702, 1703, 1704, 1705, 1706, 1707, 1708, 1709, 1709, 1710, 1711, 1712, 1713, 1714, 1715, 1716, 1717, 1718, 1719, 1719, 1720, 1721, 1722, 1723, 1724, 1725, 1726, 1727, 1728, 1729, 1729, 1730, 1731, 1732, 1733, 1734, 1735, 1736, 1737, 1738, 1739, 1739, 1740, 1741, 1742, 1743, 1744, 1745, 1746, 1747, 1748, 1749, 1749, 1750, 1751, 1752, 1753, 1754, 1755, 1756, 1757, 1758, 1759, 1759, 1760, 1761, 1762, 1763, 1764, 1765, 1766, 1767, 1768, 1769, 1769, 1770, 1771, 1772, 1773, 1774, 1775, 1776, 1777, 1778, 1779, 1779, 1780, 1781, 1782, 1783, 1784, 1785, 1786, 1787, 1788, 1789, 1789, 1790, 1791, 1792, 1793, 1794, 1795, 1796, 1797, 1798, 1798, 1799, 1799, 1800, 1801, 1802, 1803, 1804, 1805, 1806, 1807, 1808, 1809, 1809, 1810, 1811, 1812, 1813, 1814, 1815, 1816, 1817, 1818, 1819, 1819, 1820, 1821, 1822, 1823, 1824, 1825, 1826, 1827, 1828, 1829, 1829, 1830, 1831, 1832, 1833, 1834, 1835, 1836, 1837, 1838, 1839, 1839, 1840, 1841, 1842, 1843, 1844, 1845, 1846, 1847, 1848, 1849, 1849, 1850, 1851, 1852, 1853, 1854, 1855, 1856, 1857, 1858, 1859, 1859, 1860, 1861, 1862, 1863, 1864, 1865, 1866, 1867, 1868, 1869, 1869, 1870, 1871, 1872, 1873, 1874, 1875, 1876, 1877, 1878, 1879, 1879, 1880, 1881, 1882, 1883, 1884, 1885, 1886, 1887, 1888, 1889, 1889, 1890, 1891, 1892, 1893, 1894, 1895, 1896, 1897, 1898, 1898, 1899, 1899, 1900, 1901, 1902, 1903, 1904, 1905, 1906, 1907, 1908, 1909, 1909, 1910, 1911, 1912, 1913, 1914, 1915, 1916, 1917, 1918, 1919, 1919, 1920, 1921, 1922, 1923, 1924, 1925, 1926, 1927, 1928, 1929, 1929, 1930, 1931, 1932, 1933, 1934, 1935, 1936, 1937, 1938, 1939, 1939, 1940, 1941, 1942, 1943, 1944, 1945, 1946, 1947, 1948, 1949, 1949, 1950, 1951, 1952, 1953, 1954, 1955, 1956, 1957, 1958, 1959, 1959, 1960, 1961, 1962, 1963, 1964, 1965, 1966, 1967, 1968, 1969, 1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974, 1975, 1976, 1977, 1978, 1979, 1979, 1980, 1981, 1982, 1983, 1984, 1985, 1986, 1987, 1988, 1989, 1989, 1990, 1991, 1992, 1993, 1994, 1995, 1996, 1997, 1998, 1998, 1999, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2

第1図 名木鎌部遺跡の位置と関連遺跡

(150000) 2.5km

第1表 調査の経過

地圖 名	道路名	道路コード	測量年 度	調査対象面積(㎡)	補正測定(㎡)		本測定(㎡)		組織
					上層	下層	上層	下層	
1	名水馬場古墳群A・B	341-011	17		1096	0	古墳A基 350	0	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
2	名水の塙白道跡A・B	341-012	17		122	0	0	0	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
3	名水南城岱跡(1)・(2)	211-080	22 (1) (2)	3330 (1) 5430 (2)	334 (1) 542 (2)	24 (1) 28 (2)	0 (1) 3400 (2)	0 (1) 3400 (2)	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
4	名水火神白道跡	211-081	22	1850	190	36	630		〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
5	名水長峰道路	23	970	970	38	200			〇 (平成22年度測定予定)
6	名水難尾北道路(1)・(2)	211-083	22 (1) (2)	2360 (1) 4420 (2)	249 (1) 442 (2)	36 (1) 176 (2)	480 (1) 3000 (2)	480 (1) 3000 (2)	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
7	名水雄鹿道路(1)・(2)	211-078	20 (1) (2)	1750 (1) 4140 (2)	193 (1) 410 (2)	24 (1) 84 (2)	340 (1) 3380 (2)	340 (1) 3380 (2)	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
8	名水内野北道路(1)・(2)・(3)	211-068	18 (1) (2) (3)	11350 (1) 2880 (2) 4842 (3)	1187 (1) 368 (2) 586 (3)	474 (1) 100 (2) 220 (3)	0 (1) 1070 (2) 0 (3)	0 (1) 1070 (2) 0 (3)	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
9	名水高台道路	211-082	22	1030	95	20	0		〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
10	名水内野南道路(1)・(2)・(3)	211-070	18 (1) (2) (3)	5480 (1) 370 (2) 9410 (3)	594 (1) 38 (2) 940 (3)	248 (1) 8 (2) 248 (3)	290 (1) 0 (2) 520 (3)	290 (1) 0 (2) 520 (3)	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
11	青山小峰道路(1)・(2)	211-073	18 (1) (2)	2160 (1) 740 (2)	220 (1) 740 (2)	116 (1) 29 (2)	0 (1) 148 (2)	0 (1) 148 (2)	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
12	成井原山道路(1)・(2)・(3)	211-069	18 (1) (2) (3)	11380 (1) 3120 (2) 6610 (3)	1100 (1) 312 (2) 776 (3)	450 (1) 64 (2) 172 (3)	4600 (1) 2700 (2) 0 (3)	4600 (1) 2700 (2) 0 (3)	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
	成井原山向道路	23		5260	526	105			△ 調査研究員長 △ 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
13	成井原穴道跡	211-079	21	3360	420	28	275		〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
14	大室右神道路	211-074	19	5280	520	316	1300		〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
15	足向三道跡(1)・(2)	211-079	19 (1) (2)	9220 (1) 250 (2)	941 (1) 16 (2)	248 (1) 0 (2)	520 (1) 0 (2)	520 (1) 0 (2)	〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
16	芝西新田跡	211-076	19	6000	600	121	1850		〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
17	芝東新田道路	211-071	18	8800	1180	180	0		〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助
18	福尚山道分合道路	211-084	23	2670	767	306	2000		153 〇 調査研究員長 〇 調査研究員兼副所長 △ 当任 上級研究員 △ 当任 上級研究員兼副所長 △ 当任 大助

第2節 遺跡の位置と歴史的環境

成田市名木鎌部遺跡は、房総半島北部、北総台地の北端部に位置する。本遺跡は、大須賀川と尾羽根川にはさまれ、さらに小河川によって開拓された谷津上流部の標高38mの台地縁部に立地している。鎌部の集落は、旧香取郡下総町の版図に属したが、平成18年の平成の大合併により大栄町とともに成田市に編入された。旧下総町は滑河村、小御門村、高岡村が昭和30年に合併して発足した経緯があるが、名木鎌部遺跡は藤原師賢を主祭神とする小御門神社（2）のある旧小御門村に属している。また、小御門村は明治22年町村制施行に伴い、名古屋村、成井村、七沢村、高倉村、倉水村、青山村、名木村、中里村、冬父村、地蔵原新田の旧村落が合併し発足した。

國央道に関わる国土交通省常総国道事務所の千葉県内の工事区は、旧小御門村内の各村落をほぼ南北に貫いており、埋蔵文化財の包蔵地もこれらの村落を中心に調査対象となった（3）。

名木鎌部遺跡は、利根川に向かって北方に流路を取る小河川の支流により形成された小支谷沿いの標高38mの台地の縁部に位置する。名木鎌部遺跡の東に隣接して名木庵寺跡が所在する。昭和58年の名木庵寺跡の調査では、規模の小さな基壇1基が検出され、基壇の下から検出された竪穴住居跡の年代から基壇の構築時期を8世紀中葉から後半頃としている（4）。

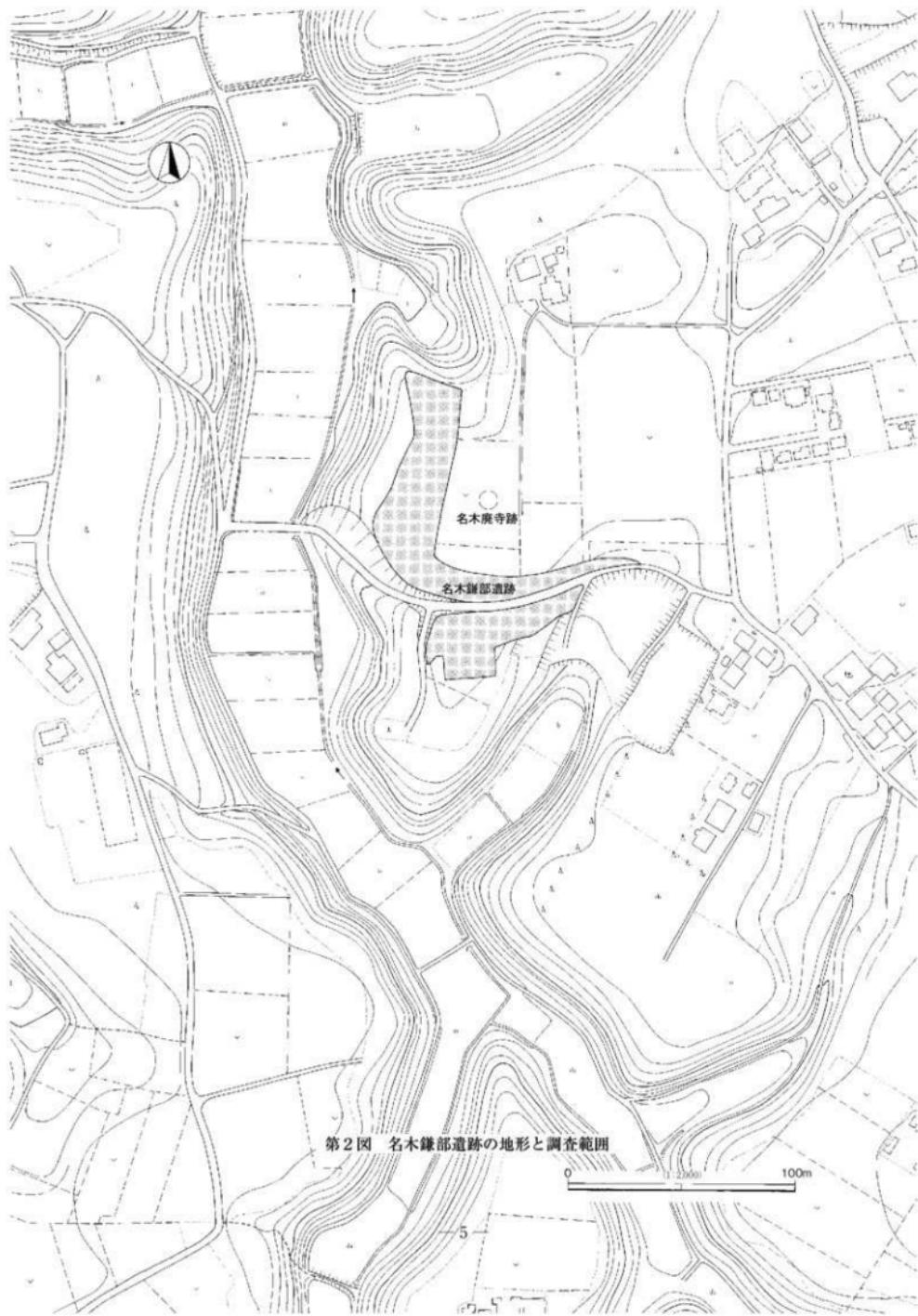
名木庵寺跡では、地権者の遠藤氏が採集した鎧瓦片が房総風土記の丘資料館に保管されている。この鎧瓦は先学の調査研究により栄町龍角寺のものと酷似することが判明している。また、滑河所在の龍正院境内で採集された鎧瓦も同系統の鎧瓦である。利根川河岸に近い龍正院周辺には瓦窯が確認されており、龍正院瓦窯跡1号窯から均正唐草文字瓦と山田寺系鎧瓦が出土している。名木庵寺跡や名木鎌部遺跡からは滑河龍正院出土の布目瓦と類似のものが出土しており、名木庵寺跡と龍正院の関わりが注目される。

名木鎌部遺跡の周辺には名木鎌部古墳群が所在し、今回の調査においても塚状遺構の頂部付近から2枚の石板が検出されており、古墳の埋葬施設から抜き去られたものと考えられる。また、名木鎌部遺跡の南東に位置する台地斜面には名木鎌部製鉄跡が所在する。今回調査された遺構内からも鉄釘やスラグが多数検出されている。

このほか、名木鎌部遺跡のある旧香取郡西部地域には（財）香取郡文化財センターにより多くの奈良・平安時代の遺跡が調査されている（5）。香取市多田飛行内所在の吉原遺跡は、8世紀中頃の土師器赤彩杯墨書「石井」、9世紀中頃から後半土師器杯墨書「野邊」、平安時代以降の土師器墨書「寺」が出土している。香取郡神崎町大貫字仲台所在の仲台遺跡は、奈良・平安時代の竪穴住居跡9軒、掘立柱建物跡2棟などが検出されている。成田市名木大台所在の名木大台遺跡、成田市中里所在の中里曲田上遺跡・中里紙敷口遺跡・名木的台場遺跡・名木不光寺遺跡（6）及び中里原遺跡、成田市滑川所在の滑川觀音台遺跡、成田市青山富ノ木遺跡（7）、香取市津宮所在の津宮遺跡群においても奈良・平安時代の集落跡の所在が明らかとなっている。なお、名木大台遺跡は（財）千葉県教育振興財團により昭和62年度及び63年度に、中里調査が実施されている（8）。

註 （1）2009『成田市名木馬場遺跡・名木的台場遺跡』千葉県教育振興財團調査報告第612集 首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書9

（2）小御門神社は、旧下総町名古屋に所在し藤原師賢を主祭神とする。藤原師賢は鎌倉時代末期1331年の後醍醐天皇による鎌倉幕府倒幕行動（元弘の乱）に際し、後醍醐天皇の身代わりとし



て挙兵し敗戦後当地に配流された。藤原師賢は当地で没したが、幕府崩壊後に配流先の隱岐島から凱旋した後醍醐天皇により没後ではあるが、異例の太政大臣を贈位され文貞公の謚号を与えた。小御門神社は明治15年藤原師賢墓所跡に別格官幣社「小御門神社」として竣工された。

- (3) 第1図名木鎌部遺跡の位置と関連遺跡及び第1表調査の経過参照。
- (4) 1983『下総町名木庵寺跡確認調査報告書』財團法人千葉県文化財センター
- (5) 1992~2005『事業報告I~XIII』財團法人香取都市文化財センター
- (6) 2006『下総町道中里名木線埋蔵文化財発掘調査報告書』財團法人香取都市文化財センター
- (7) 1999『下総町青山富ノ木遺跡・鎌部長峯遺跡』千葉県教育振興財團調査報告第370集 主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅸ
- (8) 1998『下総町名木大台遺跡』千葉県文化財センター調査報告第319集 主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

第2章 遺跡の調査と概要

第1節 調査の方法

名木鎌部遺跡は、路線の埋蔵文化財調査のため調査区が狭長となる。したがって、調査区全域を網羅する方眼グリッドの最大単位は20m×20mとし、その中をさらに100等分した2m×2mの小グリッドを最小単位の調査グリッドとして遺構の調査及び遺物取上げの際の基準とした。基準杭は日本測地系の基準点測量により設置し、おもな基準杭の測定値は次のとおりである。

座標と標高			
グリッド	X	Y	標高(m)
19L00	-15680.000	50740.000	36.621
20L00	-15700.000	50740.000	38.466
21L00	-15720.000	50740.000	38.681
22L00	-15740.000	50740.000	38.627
23L00	-15760.000	50740.000	38.168
23M45	-15768.000	50770.000	38.593
23M35	-15786.000	50770.000	38.611
25M05	-15800.000	50770.000	38.365
26M05	-15820.000	50770.000	36.145

調査グリッドの呼称

00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20		22							
30			33						
40				44					
50					55				
60						66			
70							77		
80								88	
90									99

名木鎌部遺跡の調査は、平成20年12月1日から平成21年1月30日までの期間と、平成22年6月1日から9月30日までの期間について行われた。調査対象面積は平成20年度分1,750m²、平成21年度4,140m²の合計5,890m²である。上層の確認調査は幅2mのトレチナ50か所と塚状遺構の墳丘範囲確認用トレチナ4か所の計603m²について実施し、遺構の包蔵地3,720m²と塚状遺構1基の本調査を実施した。下層の確認調査は、2m×2mグリッドを標準とする確認グリッド27か所108m²について実施し、石器などの遺物は検出されなかつたため確認調査で終了した。

なお、下層の基本層序（図版3：下層層序）は浅い耕作土層、Ⅱb層～Ⅲ層、クラックの顯著なⅣ層、白色バミスを多量に含むⅥ層に続き、全体的に黒褐色で硬質のⅦ層～Ⅸ層の堆積がみられが色調及び土質の差異は明瞭でなく層位の細分は困難であった。

第2節 遺構と遺物

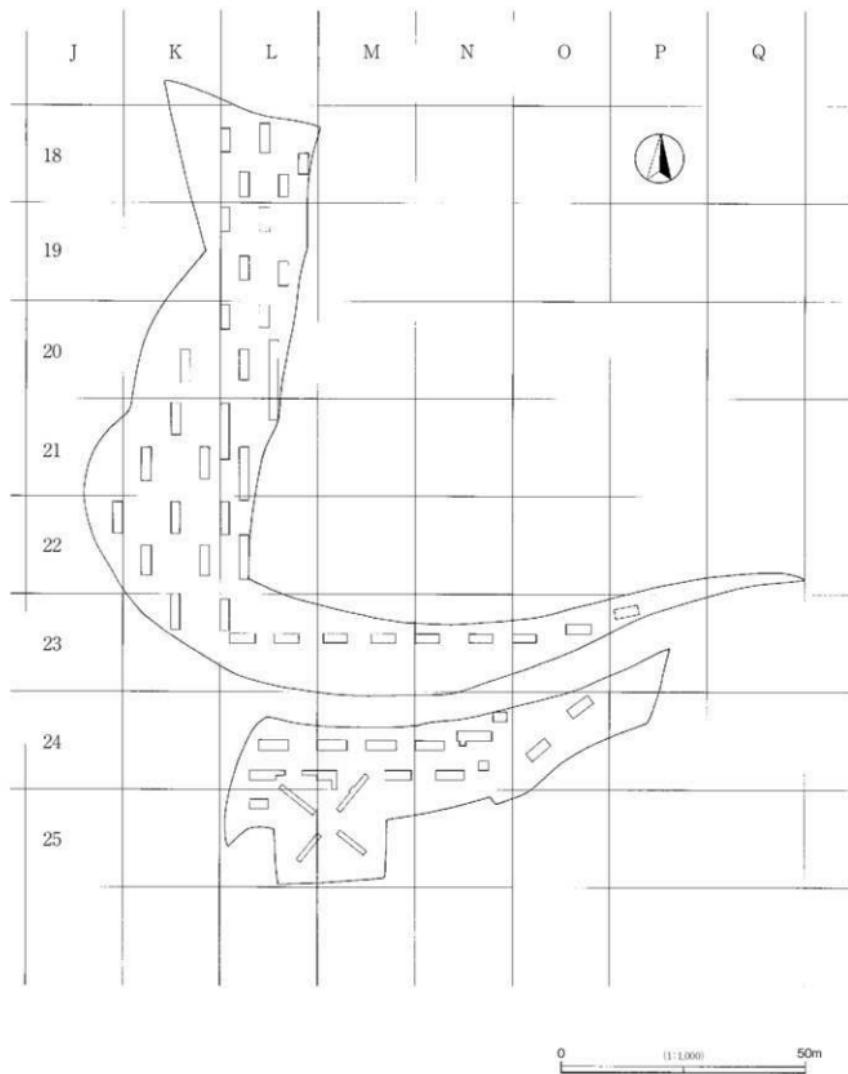
名木鎌部遺跡は、調査の結果検出された遺構はいずれも奈良・平安時代に該当することが判明しており、本節で記載した遺構と遺物はすべて奈良・平安時代のものである。

なお、各遺構の概要のうち竪穴住居跡及び土坑については、それぞれの遺構名の後の（ ）内にSI及びSKに続く調査時の3桁の番号をそれぞれ付記した。

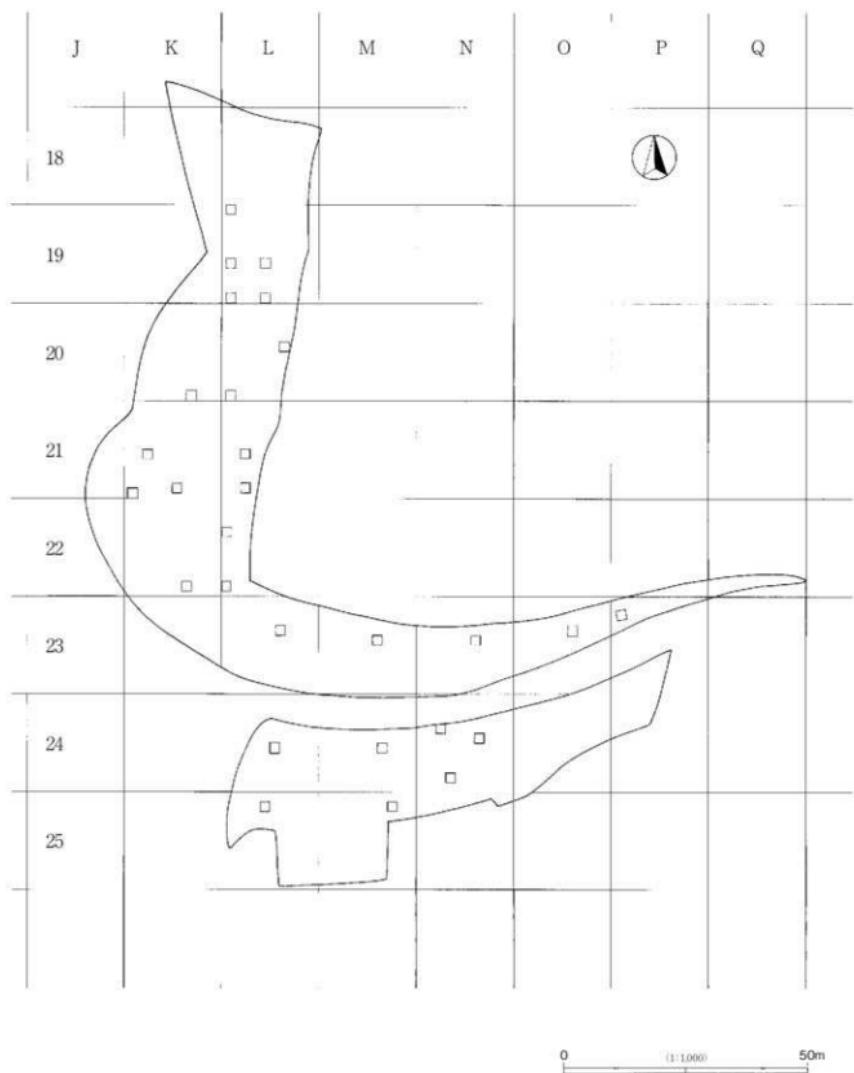
1 竪穴住居跡

1号住居跡 (SI001)

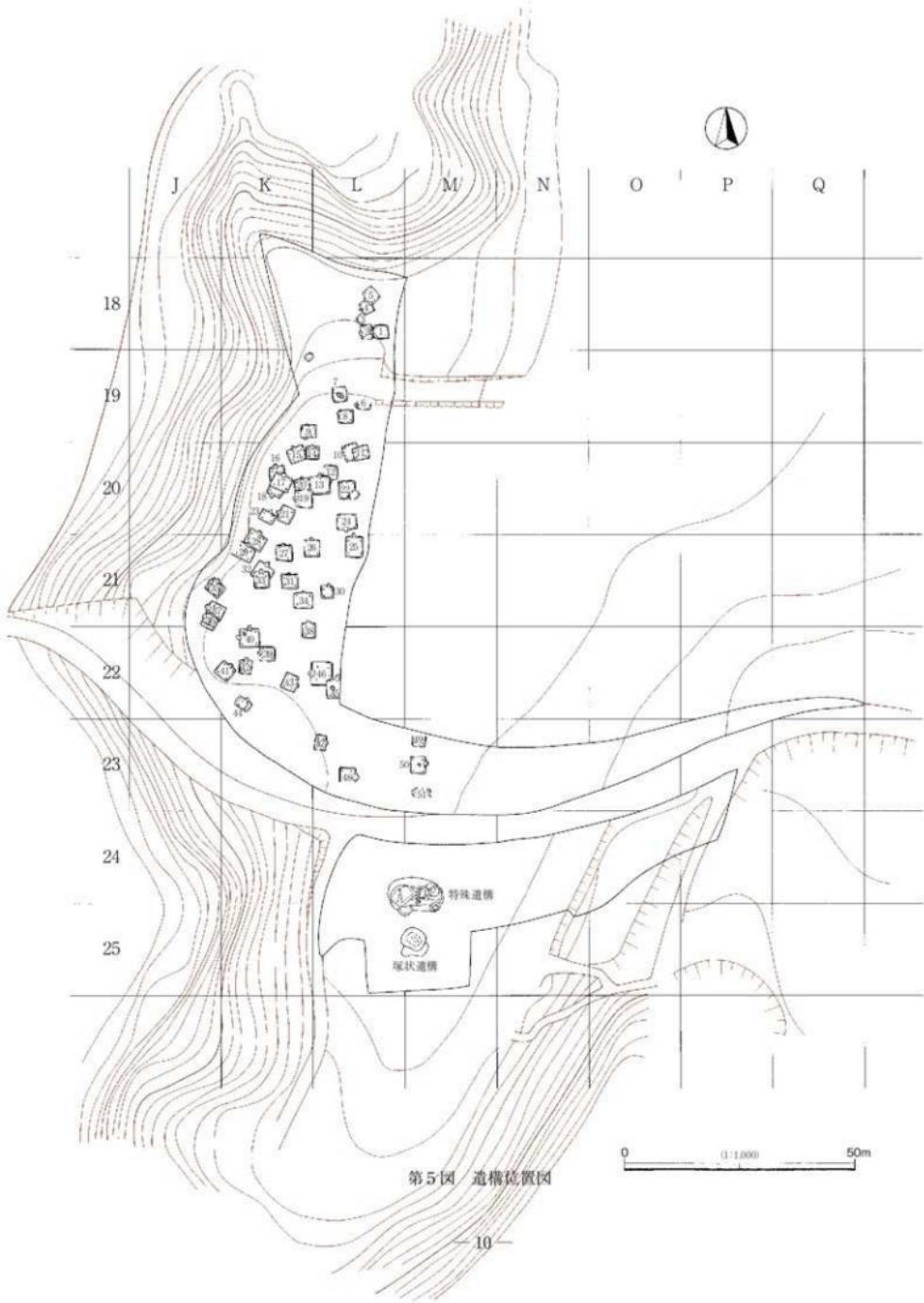
本住居跡は、遺跡北端の一段低い緩やかな傾斜地の18L97付近に位置する。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は3.2m×3.0m。床面は平坦だが北端で5cm、南端で20cmほどの壁高が計測され溝状の搅

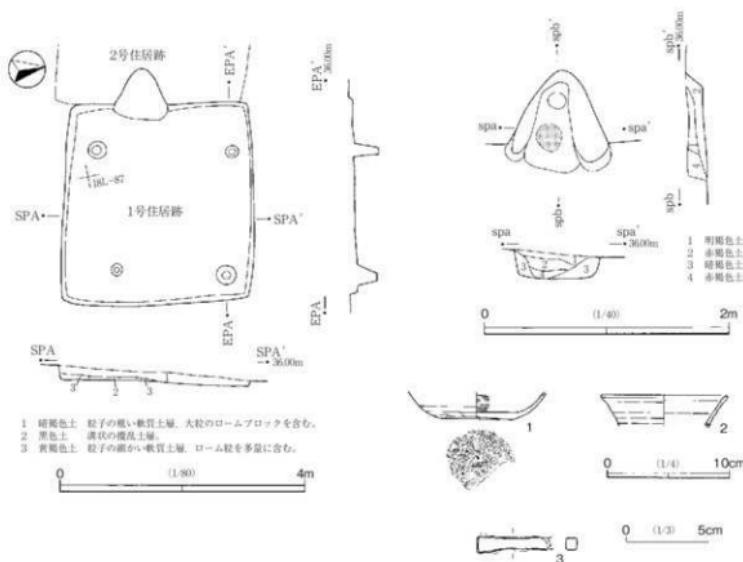


第3図 上層確認トレンチ配置図



第4図 下層確認グリッド配置図





第6図 1号住居跡・出土遺物

乱が床面の一部に検出された。柱穴は4本で30cmほどの深さがあり、各柱穴の間隔は2mほどである。住居跡の覆土のうち1層暗褐色土・2層黒色土は本住居に伴うものであるが、3層黄褐色土は本住居を東西に横切る溝状の搅乱で床面を削り込んでいる。1層及び3層はいずれも自然堆積であるが壁高も低く斜面に位置することから住居跡上部が流出している可能性もある。

カマドは西壁中央よりやや南寄り部分に1基検出された。1層は天井部の残存部分、2層は煙道部内の崩落土、3層は袖部、4層は燃焼部で、カマドの本体は壁面を削り込み両側には袖部が残存する。カマドの燃焼部には焼土の堆積が確認され、焼き口付近には少量の炭化物も検出された。

出土遺物は、1は底部付近のみ遺存する土師器杯で、遺存する器高約2.3cmである。胎土には細かい白色粒を多量に含み黒色粘土粒を少量含む。体部外面ロクロナデ、底部は回転糸切り後の回転ヘラケズリとなっている。2は底部付近を欠損する土師器杯。口縁部は10.3cmほどで遺存する器高約2.6cm。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデとなっている。3は鉄製品で、長さ4.5cm、幅0.8cm、厚さ0.7cm、重さ8.9gの刀子または鏃のナカゴ付近と思われる。

2号住居跡 (SI002A)

本住居跡は、遺跡北端の傾斜地に位置する1号住居跡の西に隣接し、1号住居跡のカマドによって住居

の東壁中央部分が損壊されている。このことから2号住居跡は1号住居跡よりも古いことがわかる。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は2.5m×3.0m。床面は平坦だが北端で10cm、南端で20cmほどの壁高が計測され床面はほぼ平坦である。柱穴は4本で20cmほどの深さがあり、各柱穴の間隔は2mほどである。住居跡の覆土は1層（暗褐色土）、2層（黄褐色土）、3層（黄色土）、4層（暗褐色土）の順に埋没しており、自然堆積であるが壁高も低く斜面に位置することから住居跡上部が流出している可能性もある。

カマドは西壁中央よりやや南寄り部分に1基検出された。1層は天井部の残存部分、2層は煙道部内の崩落土、3層は袖部、4層は燃焼部で、カマドの本体は西側壁面を削り込み両側の袖部は僅かに残存する。カマドの燃焼部には焼土の堆積が確認され、焚き口付近には多量の炭化物も検出された。また、カマドの焚き口から煙出しに至る煙道は比較的遺存状態は良好で、底部には焼土の堆積が観察された。

出土遺物は、1はカマド内から被損した状態で出土した支脚で、長さ（推定）26.2cm、幅（推定）6.1cm、厚さ（推定）4.2cm、重量（現状）153.9gである。焼成は良好であるが、使用による損壊が著しく、カマドの燃焼部付近に転倒状態で検出された。

3号住居跡（SI002B）

本住居跡は2号住居跡の北側に隣接し、覆土は1層（暗褐色土）のみの堆積で、床面は平坦であるが2号住居跡と重複する南側と東側斜面によりその大半を消失しており、壁高は西側で5cmほどが遺存している。柱穴は深さは20cmほどのものが1本のみ検出された。3号住居跡は2号住居跡よりも古いと考えられる。

出土遺物は、2は土製の獣脚で、長さ（現状）5.4cm、幅3.0cm、厚さ3.6cm、重量54gである。表面はへラ状の工具で丁寧に成形されており、断面はほぼ円形で、堅く焼きしめられている。獣の脚を模したもので肉球に相当する足の裏は平坦であり、仏具の火舎の脚である可能性が考えられる。獣脚は本来3脚または5脚で1組となって火舎の支えとなる部分である。近年古代寺院跡や官衙跡でも発見が相次いでいる。

4号住居跡（SI003）

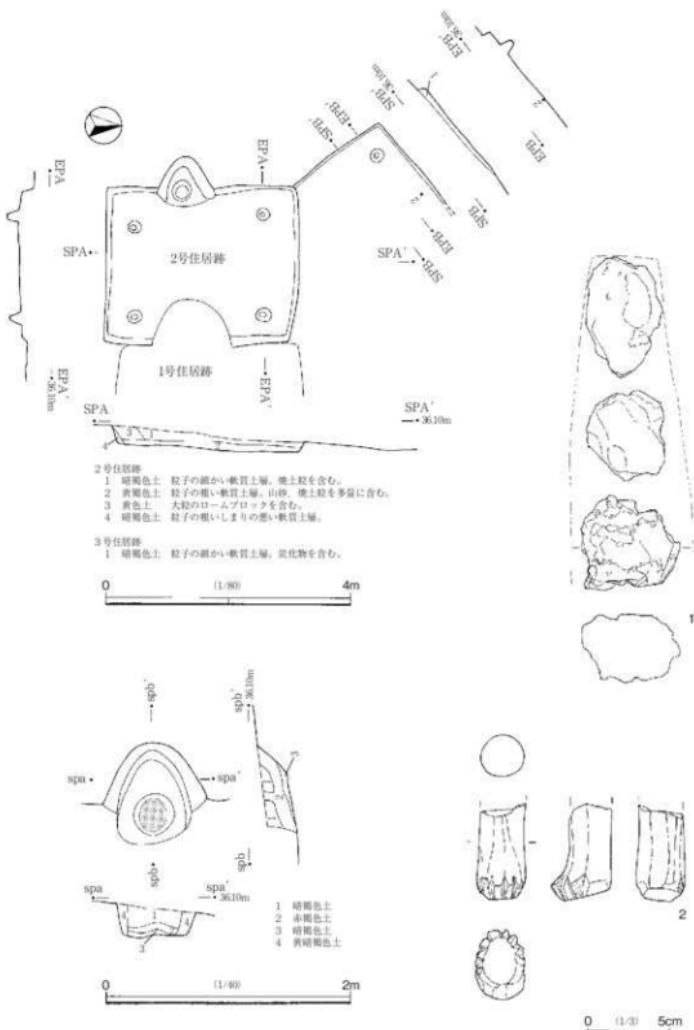
本住居跡は、遺跡北端の一段低い緩やかな傾斜地の18L47付近に位置する。形状はW25°S方向に主軸のある方形で、規模は2.6m×2.7m。床面は平坦だが北端で2cm、南端で10cmほどの壁高が計測され床面はほぼ平坦である。柱穴は検出されたものは3本でそれぞれ20cm～25cmほどの深さがあり、各柱穴の間隔は2mほどである。住居跡の覆土は1層（暗褐色土）のみの堆積で、自然堆積であるが壁高も低く斜面に位置することから住居跡上部が流出している可能性もある。

カマドは西壁中央に1基検出された。カマドの本体は西側壁面を削り込んで構築されているが遺存状態が悪く主要部分が崩落しており、両側の袖部は僅かに残存する。カマドの燃焼部には少量の焼土の堆積が確認され、焚き口付近には少量の炭化物も検出された。

出土遺物のうち実測可能なものは無い。

5号住居跡（SI004）

本住居跡は、遺跡北端の傾斜地に位置する4号住居跡の北に隣接し、4号住居跡とは北東角付近で重複する。形状はW40°S方向に主軸のある方形で、規模は2.6m×3.4m。床面は平坦だが覆土はきわめて浅く



第7図 2号・3号住居跡・出土遺物

1層（暗褐色土）のみの堆積である。柱穴は検出されたものは5本で、それぞれ15cm～20cmほどの深さがあり、各主柱穴の間隔は2mほどであるが、南東壁沿いの主柱穴の間には補助の柱穴が存在する。住居跡の覆土は1層（暗褐色土）のみの堆積で、自然堆積であるが壁高も低く斜面に位置することから住居跡上部が流出している可能性もある。

カマドは南西壁中央に1基検出されたが、痕跡のみで詳細は不明である。

出土遺物は、長さ6.4cm、幅0.8cm、厚さ0.3cm、重量2.5gの刀子状の鉄製品の柄部が検出された。

6号住居跡（SI005）

本住居跡は、遺跡北部の19L65付近に位置し、1号～5号住居跡のある斜面部より一段高い台地縁部に所在するため北側半分は既に消失している。形状は東西方向に主軸のある方形と思われ、規模は3.0m×1.5m以上である。床面は平坦覆土はきわめて浅く1層（暗褐色土）のみの堆積である。柱穴は検出されおらず、南壁付近で12cmほどの壁高となっている。

カマドの遺存状態は良好で、1層（黄褐色土）は天井部、2層（暗褐色土）は煙道部内の堆積土、3層（赤褐色土）は内壁が燃焼により焼土化した袖部。燃焼部には焼土の堆積が観られた。

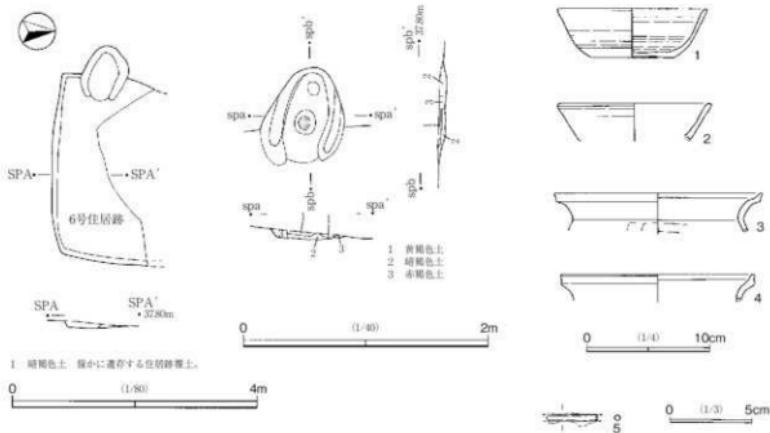
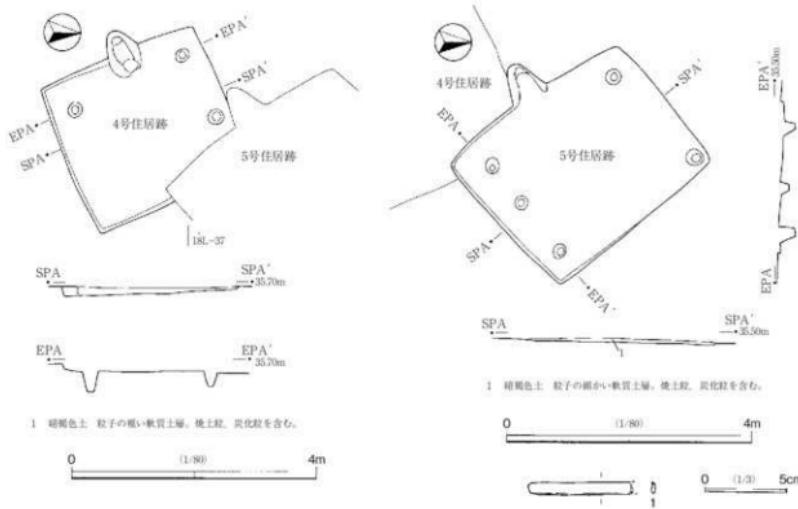
出土遺物はカマド周辺の覆土中から出土しており、1は体部が緩やかに外反する土師器杯。口縁部径は約12.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切り後のヘラケズリとなっている。2は体部が直線的に外傾する土師器杯。口縁部径は約12.3cmである。胎土には細かい白色粒及び黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデとなっている。3は口縁部のみ遺存する土師器甕である。口縁部径は約16.9cm、口縁部高は3.3cm、胎土には細かい長石粒及び赤色粘土粒を含む。口縁部内外面はヨコナデ、口縁部に続く体部は外面ヘラケズリとなっている。4は土師器甕の口縁部。口縁部径は約15.8cmで、胎土には細かい長石粒及び赤色粘土粒を含む。口縁部内外面はヨコナデとなっている。5は鉄製品のナカゴ部分で、長さ3.1cm、幅0.4cm、厚さ0.4cm、重量1.1gである。

7号住居跡（SI006）

本遺構は、遺跡北部の19L65付近の傾斜地に位置し、形状は方形で規模は3.2m×3.2mである。台地縁部に位置するため覆土は大半が流失したものと思われ1層（暗褐色土）のみの堆積であり、床面は南から北に若干傾斜している。柱穴は4本検出され、深さはそれぞれ25cm～30cmであり、柱穴の間隔はほぼ2.4mである。

カマドは付帯せず、中央に土坑状の掘り込みが検出された。形状はN45°Wの長軸のある梢円形の土坑が2基重なった状況で、南東の土坑よりも北西の土坑が0.5mほど深くなっている。全体の規模は長軸1.92m、短軸1.0m、深さは最も深いところで0.6mである。土坑の南東隅には大量の焼土堆積が検出され、炉として使用されたと考えられる。本遺構は以上の観察結果から通常の住居跡ではなく、工房的な性格のものである可能性が高い。

出土遺物は、1の土師器甕は土坑中から出土している。口縁部は約20.0cm、遺存する口縁部高約6.9cmで約4.8cmほどの胴部が続く。口唇部の先端は小さく外につまみ出されている。胎土には長石粒及び赤色粘土粒を含む。口縁部内外面はヨコナデ、胴部外面はヘラケズリとなっている。胴部下半を欠くことから甕として使用されたものではなく、炉の付帯設備の一部として使用された可能性が高い。



第8図 4号・5号・6号住居跡・出土遺物

8号住居跡（SI007）

本住居跡は、遺跡北部の19L83付近の台地上に位置し、形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は3.5m×2.9m。床面は平坦だが覆土は浅く、焼土粒を含む1層（暗褐色土）及び焼土粒・炭化物を含む2層（黄褐色土）からなる。覆土は自然堆積で、耕作によるトレントレーナー痕が東西方向に並行して4条走っている。柱穴は4本で、深さはそれぞれ15cm～20cmであり、柱穴の間隔は南北方向が1.8m、東西方向が2.4mである。

カマドは、西壁の北寄りに1基検出された。カマドの中央と煙出し部分は南北方向に走るトレントレーナーにより擾乱を受けているが、火床部は燃焼部の一部を除き擾乱を受けず遺存していた。1層（暗褐色土）は白色粘土と暗褐色土が混ざった状態のカマド天井部で、2層（赤褐色土）は煙道内に堆積した焼土を主体とする燃焼部、3層（暗褐色土）は火床部、4層（黄褐色土）は袖部で一部をトレントレーナーで削平されているが他の部分の遺存状態は良好である。

出土遺物1はスラグで、カマド内の袖部付近から検出された。重量6.4gである。

9号住居跡（SI008）

本住居跡は、遺跡北部の19L91付近の台地上に位置し、形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は2.8m×3.4m。床面は平坦で、東壁付近で50cm、西壁付近で20cmほどの深さとなっている。覆土は、焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い2層（暗褐色土）、焼土粒を多量に含む粒子の細かい軟質の3層（赤褐色土）、焼土粒・炭化物及びローム粒を多量に含む軟質の4層（黄褐色土）である。また、東西方向に並行に走るトレントレーナーにより覆土の一部は擾乱を受けている。

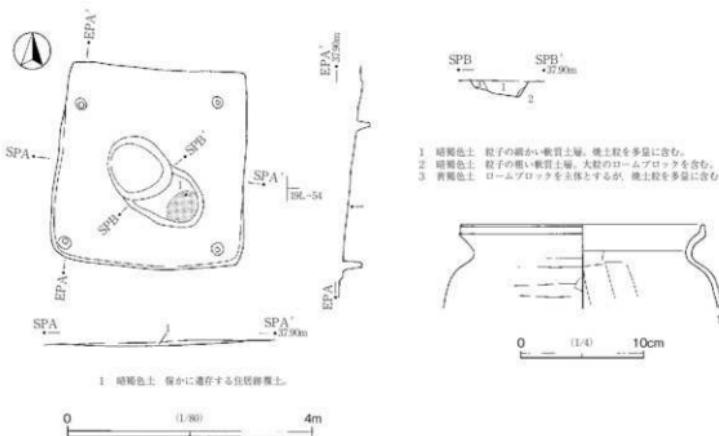
柱穴は4本で、深さはそれぞれ40cm～50cmであり、柱穴の間隔は南壁側で約1.5m、北壁側で約2.6mである。北壁付近には出入り口の梯穴と思われる柱穴状のピットが検出された。

カマドは、南壁の東よりに1基検出された。カマド前面焼き口付近は損壊しているが、他の部分は比較的良好な遺存状態である。1層（黄褐色土）は山砂・白色粘土を混入する天井部、2層（赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む煙道内部の堆積土層、3層（暗褐色土）は煙道部下部に堆積した炭化物を主体とする堆積土層、4層（暗褐色土）は焼土塊・炭化物を含む火床部、5層（灰褐色土）は山砂・灰白色粘土から構成された袖部である。

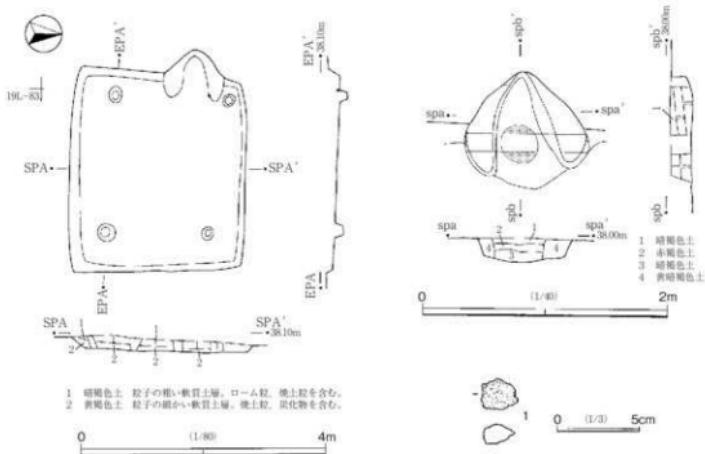
出土遺物はカマド周辺を中心に出土しており、1は南東角付近の覆土で検出された土師器杯。口縁部は約11.3cm、器高3.0cm、底径5.8cmで、口縁部が底部のほぼ倍となるやや広口で扁平の器形である。焼成は良好で胎土に細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はクロナデ、底部は多方向の手持ちヘラケズリとなっている。2はカマド付近で検出された、底部付近のみ遺存の土師器杯で底部は約8.4cm、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は多方向の手持ちヘラケズリとなっている。3は土製の獸脚の一部。現存する規模は長さ2.9cm、幅3.3cm、重量18.1gで焼成は良好だが多くの部分を欠損する。3号住居跡からも獸脚は出土しているが、詳細を観察した結果別個体のものと思われる。4は厚さ約1.9cm、重量22gの瓦片で、裏面には目の細かい布目痕が見られる。

10号住居跡（SI009A）

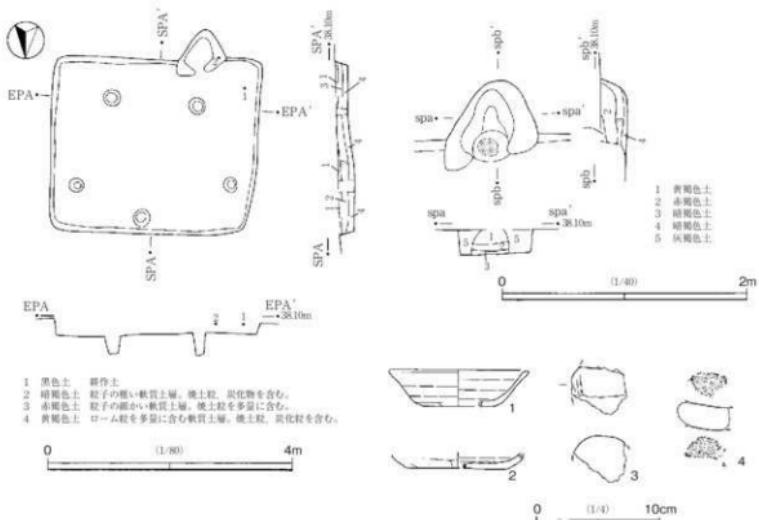
本住居跡は、遺跡中央部の20L04付近の台地上に位置し、形状はN70°E方向に主軸のある方形で、規模は3.4m×3.6m。床面は平坦で、北壁付近で50cm、南壁付近で30cmほどの深さとなっている。覆土は、



第9図 7号住居跡・出土遺物



第10図 8号住居跡・出土遺物



第11図 9号住居跡・出土遺物

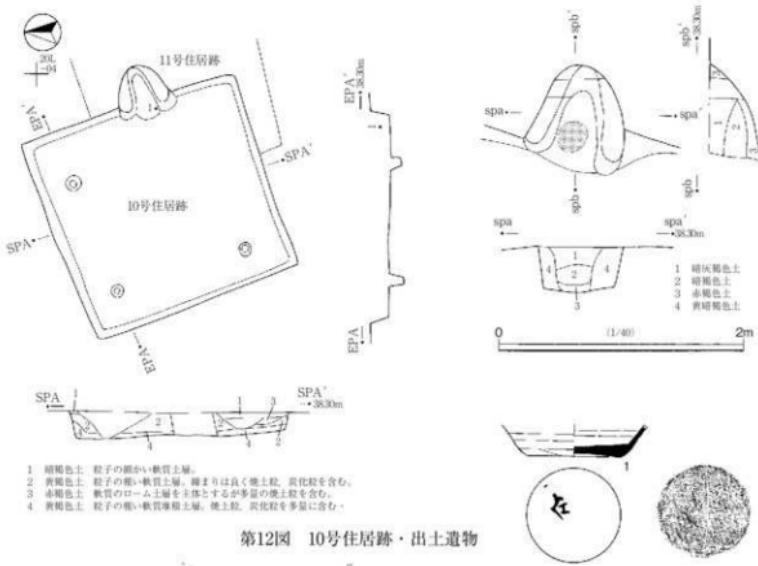
1層(暗褐色土)は粒子の細かい軟質土で耕作土、2層(黄褐色土)は焼土粒・炭化粒を含むしまりの良い軟質土層、3層(赤褐色土)は多量の焼土粒を含む軟質のローム土層、4層(黄褐色土)は焼土粒・炭化粒を多量に含む粒子の粗い軟質土層である。また、東西方向に並行に走るトレンチャーにより覆土の主要部分は搅乱を受けている。

また、本住跡の床面精査中に南東角付近で重複する11号住跡が検出された。検出の経緯から11号住跡廃絶後に本住居を構築したものと考えられる。

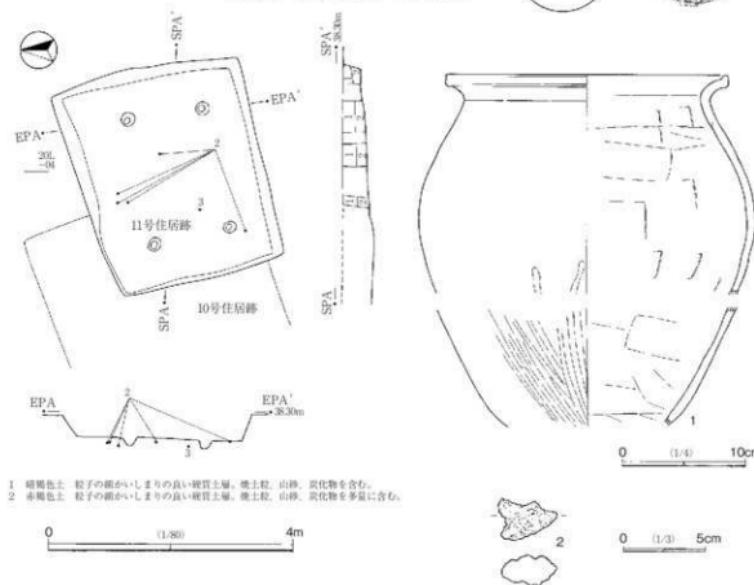
柱穴は3本で、深さはそれぞれ30cm～40cmであり、柱穴の間隔は約2.0mである。

カマドは、東壁のほぼ中央に1基検出された。カマドの煙出し部分は南北に走るトレンチャーにより搅乱されているが、他の部分の遺存状態は良好である。1層（暗灰褐色土）は山砂・白色粘土からなる天井部、2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む煙道部内の堆積土層。3層（赤褐色土）は多量の焼土が堆積する火床部。4層（黄暗褐色土）は山砂・白色粘土を含む袖部である。また、掛け口の直下には多量の焼土が堆積する燃焼部が検出された。

出土遺物1はカマド付近で検出された須恵器杯。底部径7.5cmで胎土に細かい石英粒を含む。体部内外面はロクロナデ。底部付近はヘラケズリ、底部も一方向のヘラケズリとなっている。なお、底部には墨書き「庄」が観られる。



第12図 10号住居跡・出土遺物



第13図 11号住居跡・出土遺物

11号住居跡（SI009B）

本住居跡は、遺跡中央部の20L04付近の台地上に位置し、10号住居跡の床面精査中に検出された。形状は方形で、規模は3.5m × 3.2m。床面は平坦であるが東側でやや浅くなる。北壁付近で耕作面から約50cm、10号住居跡の床面よりもさらに10cmほど深くなっている。本住居跡廃絶後に埋め立て10号住居跡を構築したものと考えられる。覆土は、1層（暗褐色土）は焼土粒・山砂・炭化物を含む粒子の細かいしまりの良い硬質土層、2層（赤褐色土）は焼土粒・山砂・炭化物を多量に含む粒子の細かいしまりの良い硬質土層である。

柱穴は4本で、深さはそれぞれ10cm～20cmであり、柱穴の間隔は東西方向が約2.0m、南北方向が約1.2mである。

カマドの存在を示す痕跡は残っておらず、カマドは設置されていなかった可能性が高い。

出土遺物は床面上に飛散した土師器の甕が検出された。1は口唇部は大きく外反後先端をほぼ真上に摘み上げられた常総型の甕である。口縁部径は約23.0cm、胴部最大径推定27.6cm。口縁部外面はヨコナデ、胴部上半外面は横位のヘラケズリ、下半は細かい縱位のヘラケズリとなっている。2はスラグで、床面から検出された。重量は16.5gである。

12号住居跡（SI010）

本住居跡は、遺跡中央部の20L32付近に位置し南西角付近で13号住居跡と重複している。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は3.0m × 3.0m。床面は平坦であるがやや北に傾斜し、深さは15cmで比較的浅い。覆土は、1層（黄褐色土）は山砂・焼土粒・炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層、2層（暗褐色土）は大粒の焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。

柱穴は2本で、深さはそれぞれ10cm～20cmであり、柱穴の間隔は約2.0mである。

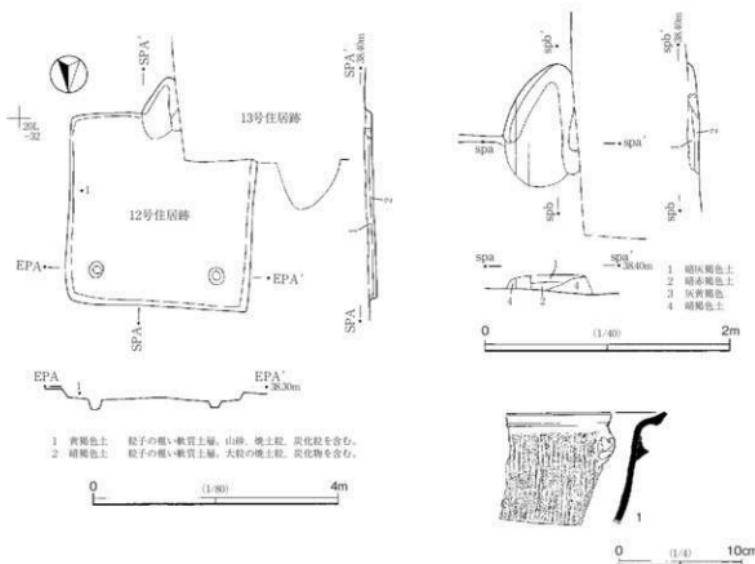
カマドは、南壁のはば中央に1基検出されたが1/3程を13号住居跡で損壊されている。また、袖の一部を南北方向に走るトレンチャーにより搅乱されている。1層（暗灰褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部、2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む火床部、3層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部の崩落土層、4層（暗褐色土）は山砂を多量に含む袖部である。

出土遺物は1点で、1は床面直上から検出された須恵器瓶片。口縁部は大きく直角に外反し口唇部は斜め上方に摘み上げられている。胎土には細かい石英粒を含み、胴部外面はタタキ目、内面はナデとなっている。

13号住居跡（SI012）

本住居跡は、遺跡中央の平坦部20K49付近に位置し南西角付近で19号住居跡と、北東角付近で12号住居跡と重複している。13号住居跡は北東角付近で12号住居跡を切り取る状況で構築しており、南西角付近で19号住居跡に切り取られている状況が確認された。したがって、13号住居跡は12号住居跡よりも後に構築され、19号住居跡よりも先に構築されたことがわかる。

形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は3.9m × 4.4m。床面は平坦で、深さは20cmで比較的浅いが、東西方向に並行に走るトレンチャーにより搅乱が著しい。覆土は、1層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の細かい軟質土層、2層（暗赤褐色土）は山砂・焼土粒・炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層、



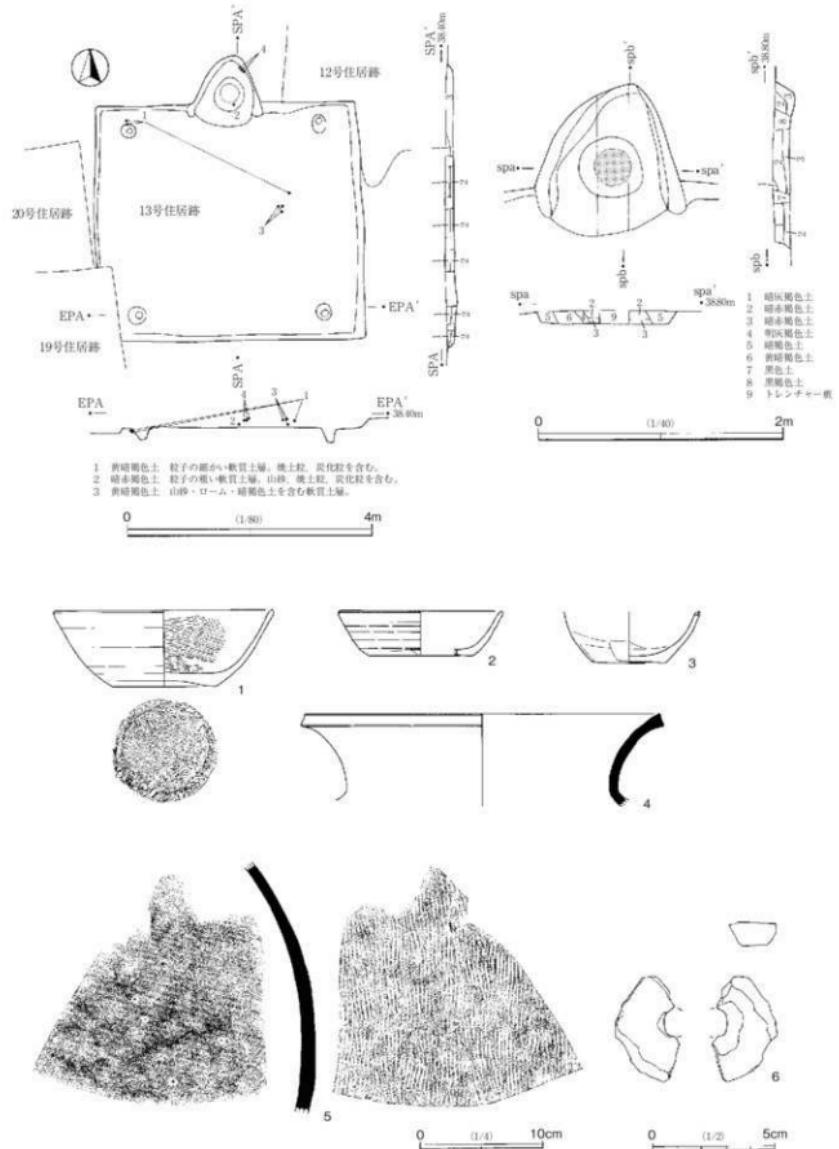
第14図 12号住居跡・出土遺物

3層（黄暗褐色土）は山砂・ローム・暗褐色土を含む軟質土層である。

柱穴は4本で、深さはそれぞれ15cm～30cmであり、柱穴の間隔は東西・南北両方向とも約3.0mである。

カマドは、北壁中央に1基検出された。1層（暗灰褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部内の堆積土層。3層（暗赤褐色土）は焼土塊・炭化物を多量に含む火床部。4層（明灰褐色土）は山砂・白色粘土塊を主体とする天井部の崩落土層。5層（暗褐色土）は山砂を含む袖部。6層（黄暗褐色土）は山砂・焼土粒を含む天井部の崩落土層。7層（黒色土）及び8層（黒褐色土）は粒子の粗いしまりの良い軟質土層。9層（トレンチャー痕）はカマドのほぼ中央を南北に走るトレンチャーによる搅乱土層。9層の直下には焼成により硬化した燃焼部が搅乱下に僅かにその痕跡を残している。

出土遺物は、1は住居跡北西角を中心に検出された土師器碗。体部は緩やかに内湾ぎみに立ち上がり、底部は若干上げ底で口縁部径は17.8cm、器高6.2cmと大型の器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、内面は丁寧なミガキ、底部はやや上げ底で回転糸切り後の手持ちハラケズリとなっている。2はカマド内出土の土師器杯。口縁部径約13.3cm、底部径約8.5cmで、やや扁平な器形で体部は真直ぐ外傾する。胎土には細かい白色粒及び黒色粘土粒を含む。体部外面はロク



第15図 13号住居跡・出土遺物

ロナデ。内面は丁寧なナデ、底部は回転糸切りとなっている。3は床面直上出土の土師器甕の胴部下半。底部径約6.0cmほどで小型の甕である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面へラケズリ、内面ナデ、底部へラケズリとなっている。4は須恵器甕で、口縁部付近のみ遺存する。口縁部径約29.0cm、遺存する口縁部高約7.5cmで大型の甕である。胎土には細かい石英粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。5は大型の須恵器甕の胴部破片であるが、4の須恵器甕口縁部と同一個体のものか特定はできない。胎土には細かい石英粒を含む。胴部外面はタタキ目、内面には当て具の押さえ痕が見られる。6は土師器甕の底部を再利用した紡錘車片。法量は遺存する最大径4.3cm、厚さ1.0cm、重量9.3gである。

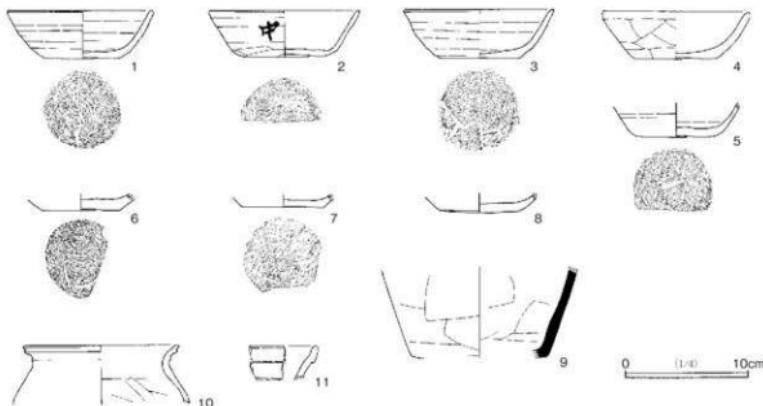
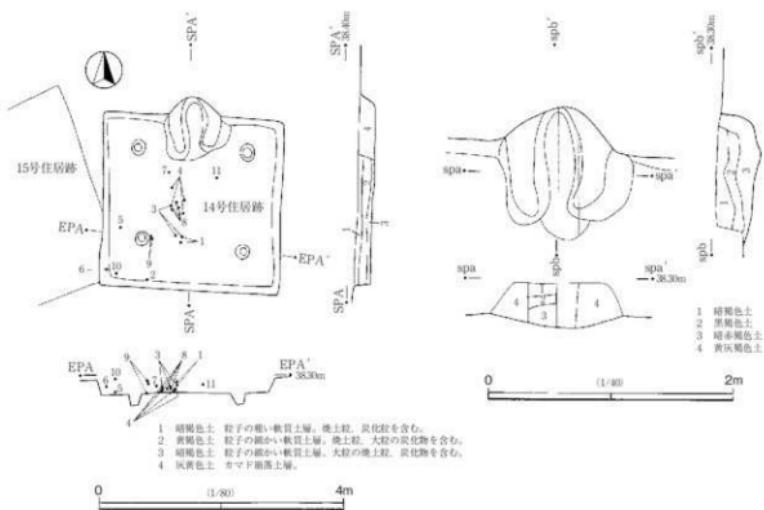
14号住居跡（SI011）

本住居跡は、遺跡中央の平坦部20L10付近に位置し南西角で15号住居跡と重複する。14号住居跡は15号住居跡南東角付近を切り取っており、14号住居跡は15号住居跡より新しい。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は2.9m×2.9m。床面はほぼ平坦で、深さは30cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層、2層（黄褐色土）は焼土粒・大粒の炭化物を含む粒子の細かい軟質土層、3層（暗褐色土）は大粒の焼土粒・炭化物を含む粒子の細かい軟質土層である。4層（灰黄色土）は山砂・白色粘土からなるカマドの流出土層。

柱穴は4本で、深さはそれぞれ20cm～30cmであり、柱穴の間隔は東西方向が約1.7m、南北方向が約1.5mである。

カマドは、北壁の中央に1基検出された。カマドの中央は南北に走るトレンチャーより搅乱を受けているが、他の部分の遺存状態は良好である。1層（暗褐色土）は山砂・白色粘土を含む天井部、2層（黒褐色土）は炭化粒・焼土粒を主体とする煙道内堆積土層、3層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層、4層（黄灰褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする袖部である。

出土遺物は、1は床面直上で検出された土師器杯。口縁部径は約11.9cmで、体部は内湾ぎみに立ち上がっている。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、底部は回転糸切り後端部回転ヘラケズリとなっている。2は土師器杯で、口縁部径は約12.3cmで、体部は直線的に外傾して立ち上がっている。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、底部は回転糸切り後端部回転ヘラケズリとなっている。また、体部外面には『中』の墨書がある。3は床面直上で検出された土師器杯。体部は内湾気味に継やかに立ち上がり、口唇部が小さく外反している。口縁部径は12.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、底部は回転糸切りとなっている。4は床面直上で検出された土師器杯。体部は底部から角張った立ち上がりをしており、外反する体部は口縁部付近で上方に小さく摘み上げられている。口縁部径は12.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、体部外面へラケズリ、内面ナデ、底部手持ちヘラケズリとなっている。5は床面直上で検出され、口縁部付近を欠損する土師器杯。遺存する器高は約2.8cm、底部径6.4cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。6は覆土中から検出された土師器杯の底部付近。底部径6.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。7は覆土中で検出された土師器杯の底部付近。底部径6.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切り後のヘラケズリとなっている。8は床面直上で検出された土師器杯の底部付近。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は手持ちヘラケズリである。9は床面上



第16図 14号住居跡・出土遺物

で検出された須恵器甕。遺存する器高約7.5cm、底部径は推定11.2cmである。胎土には細かい石英粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。10は覆土中から検出された胴部上半部のみ遺存する土師器甕。口縁部径は約12.8cm、遺存する器高約4.8cmである。胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。11は覆土中から検出された土師器甕の口縁部片。口縁部は口唇部直下で「く」字状の屈曲部を有する。胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。

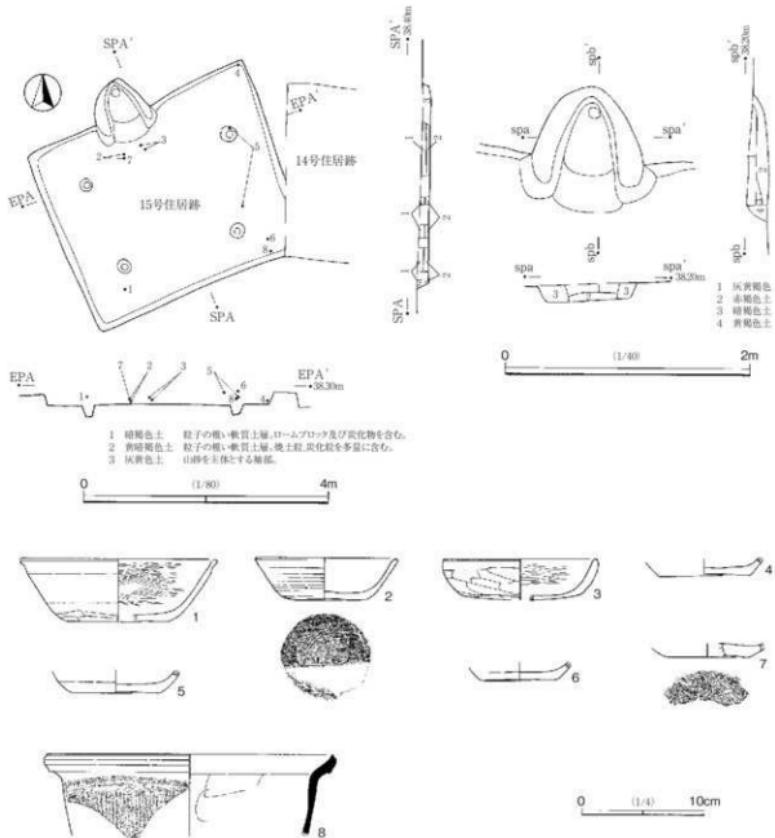
15号住居跡 (SI013)

本住居跡は、遺跡中央の平坦部20K27付近に位置し、南東角付近を14号住居跡に切り取られている。したがって、15号住居跡は14号住居跡よりも前に構築されていたことが解る。形状はN20°W方向に主軸のある方形で、規模は3.2m×3.9m。床面はほぼ平坦で、深さは20cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）はロームブロック・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層、2層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層、3層（灰黄色土）は山砂を主体とする袖部である。また、覆土は東西方向に走るトレーナーによる搅乱が著しい。

柱穴は4本で、深さはそれぞれ20cm～30cmであり、柱穴の間隔は北壁よりが約2.5m、南壁よりが約2.0mである。

カマドは、北壁のやや西寄りに1基検出され、遺存状態は良好である。1層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部。2層（赤褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む火床部堆積土層。3層（暗褐色土）は山砂を多量に含む袖部。4層（黄褐色土）は山砂・白色粘土を多量に含む天井部の流出土層。

出土遺物は、1は覆土中から検出された土師器杯。口縁部径推定16.0cm、底部径推定8.2cmで体部は直線的に外傾して立ち上がり口唇部作り出しにより厚みが絞られる。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、内面は黒色処理に加え丁寧なミガキ、底部は手持ちヘラケズリとなっている。2は床面直上から検出された土師器杯。体部は直線的に外反して立ち上がるが、口唇部がやや丸みを帯びて厚みがある。口縁部径は11.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデ、底部は回転糸切り後の端部手持ちヘラケズリとなっている。3は床面直上から検出された土師器杯。口縁部径は約12.4cm、底部径推定9.6cmで、口縁部径と底部径にあまり差の無い扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面は全面ロクロナデ、内面はミガキ、底部はヘラケズリとなっている。4は床面直上から検出された土師器杯の底部付近。底部径7.4cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は手持ちヘラケズリとなっている。5は覆土中から検出された土師器杯の底部付近。底部径7.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は手持ちヘラケズリとなっている。6は覆土中から検出された土師器杯の底部付近。底部径は6.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切り後の手持ちヘラケズリとなっている。7は床面直上から検出された土師器杯の底部付近。底部径は約6.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。8は床面直上から検出された須恵器甕の胴部上半部。口縁部は体部からさらに外反し、折り返しにより厚みを作り出しており、口唇部は鋭利に尖った稜線状となっている。最大径を口縁部に有し約23.4cmである。口縁部内外面はヨコナデ、胴部外面は並行タタキ目、内面はヘラナデとなっている。

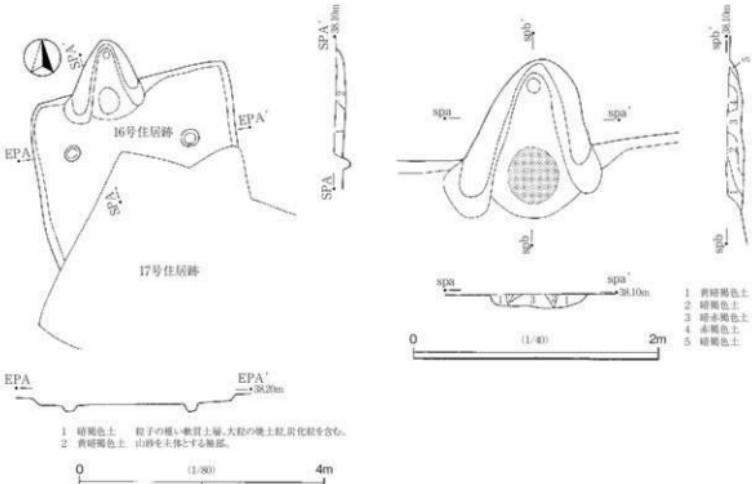


第17図 15号住居跡・出土遺物

16号住居跡 (SI014)

本住居跡は、遺跡中央西端部の20K26付近に位置し南側半分程を17号住居跡に切り取られている。形状はN15°W方向に主軸のある方形で、規模は2.6m×3.4m。床面はほぼ平坦で、深さは30cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は大粒の焼土粒・炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層、2層（黄暗褐色土）は山砂を主体とするカマド袖部。

柱穴は2本で、深さはそれぞれ約20cmであり、柱穴の間隔は約2.0mである。



第18図 16号住居跡

カマドは、北壁のやや西寄りに1基検出され、遺存状態は良好である。1層（黄暗褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする袖部及び天井部の流出土層。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む煙道内崩落土層。3層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む煙道内堆積土層。4層（赤褐色土）は焼土粒を多量に含む掛け口部周辺の堆積土層。掛け口部の直下には焼成により赤色化したロームと大量の焼土が堆積する燃焼部が検出された。

出土遺物のうち実測可能なものは無い。

17号住居跡 (SI015)

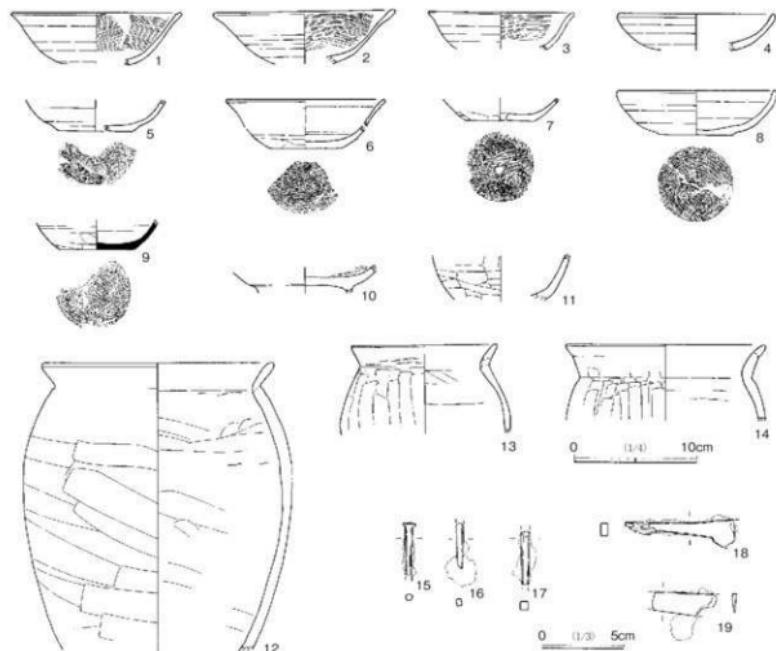
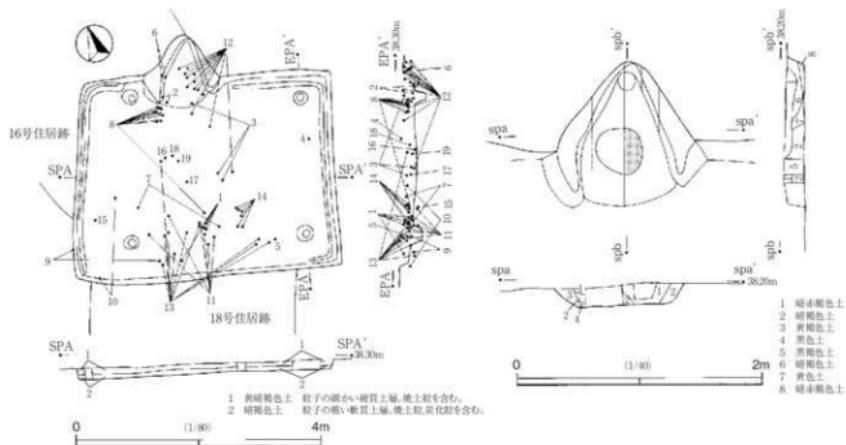
本住居跡は、遺跡中央部の20K37付近に位置し北壁側で16号住居跡を、さらに南壁側で18号住居跡をそれぞれ切り取る状況で構築されている。形状はN30°E方向に主軸のある方形で、規模は3.3m×4.4m。床面はほぼ平坦で、深さは25cm～30cmである。覆土は、1層（黄暗褐色土）は焼土粒を含む粒子の細かい硬質土層。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層である。覆土は南北方向に並行して走るトレンチャーにより擾乱を受けている。東西の両壁とカマドのある北壁沿いには腰溝が巡らされている。

柱穴は4本で、深さはそれぞれ約20cmであり、柱穴の間隔は約2.0mである。

カマドは、北壁のやや西寄りに1基検出された。南北に走るトレンチャーによりカマドの主要部分を擾乱されている。1層（暗赤褐色土）は焼土粒を含む粒子の粗い軟質土層。2層（暗褐色土）及び3層（黄

褐色土)は山砂・白色粘土粒を含む袖部。4層(黒色土)は炭化物を主体とする堆積土層。5層(黒褐色土)はローム粒・山砂・炭化粒を含む袖部の流出土層。6層(暗褐色土)は焼土粒・炭化粒を含む煙道内堆積土層。7層(黄色土)はローム及び炭化物を含む火床部上に堆積した崩落土層。8層(暗赤褐色土)は焼土粒・炭化粒を主体とする火床部の堆積土層。

出土遺物は、1～3は底部付近を欠損するが台付杯と思われる。1は床面直上で検出された土師器の台付杯。体部は緩やかに内湾しながら口唇部付近ではやや外反する。口縁部径は推定18.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、内面は黒色処理に加えミガキとなっている。2はカマド焚き口付近の床面直上で検出された土師器の台付杯。口縁部径は推定17.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、内面は黒色処理に加えミガキとなっている。3は床面直上及び覆土中から検出された土師器の台付杯。口縁部径は推定12.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。4は覆土中から検出された土師器杯。口縁部径は推定13.0cm、器高3.0cmで浅く扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、内面ミガキとなっている。5は床面直上から検出された口縁部付近を欠損する土師器杯。底部と体部の境目は段状のくびれが観られる。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部は体部内外面はロクロナデ、底部は回転糸切りとなっている。6は床面直上から検出された土師器杯。体部下半は内湾、上半は外反する。口縁部は推定12.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、内面ミガキとなっている。7は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は推定5.7cmで、底部中央には直径約1.0cmの穴が穿たれている。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、底部付近はヘラケズリ、底部は回転糸切り後手持ちヘラケズリとなっている。8は床面直上から検出された土師器杯。口縁部径は13.2cm、底部径6.2cmで、やや扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、底部は回転糸切りとなっている。9は床面直上から検出された口縁部付近を欠損する須恵器杯。底部径6.0cmで、胎土には細かい石英粒を含む。体部外面はロクロナデ、底部付近はヘラケズリ、底部は回転糸切り、端部ヘラケズリとなっている。10は床面直上から検出された底部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。底部径は約8.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、内面ミガキ、底部は回転ヘラケズリとなっている。11は床面直上から検出された底部付近のみ遺存する土師器甕。法量は遺存する器高3.8cmである。焼成は良好で、胎土に細かい長石粒を多量に含み小粒の赤色粘土粒を少量含む。胴部外面はヘラケズリ、内面ナデとなっている。12は床面直上から検出された底部付近を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から短く外反し、口縁部と胴部の境目には小さな段を有する。口縁部径は推定19.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面は横位のヘラケズリ、内面ナデとなっている。13は床面直上から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から短く立ち上がり小さく外反する。口縁部径は推定12.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面は縦位のヘラケズリ、内面ナデとなっている。14は床面直上から検出された胴上半部1/3のみ遺存する土師器甕。厚みのある口縁部は胴部から外反する。口縁部径は推定16.4cmで、胎土には細かい長石粒小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面ナデとなっている。15は床面直上から検出された鉄釘で、遺存する長さ3.2cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、



第19図 17号住居跡・出土遺物

重量2.2gである。16は床面上から検出された鉄釘で、遺存する長さ2.8cm、幅0.4cm、厚さ0.5cm、重量3.3gである。17は床面上から検出された鉄釘で、遺存する長さ2.8cm、幅0.4cm、厚さ0.5cm、重量3.3gである。18・19は床面上から検出された刀子片であるが別個体の刀子である。18は遺存する長さ6.8cm、幅0.8cm、厚さ0.5cm、重量8.2gである。19は遺存する長さ3.9cm、幅1.2cm、厚さ0.3cm、重量6.9gである。

18号住居跡（SI029）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の20K66付近に位置し北半分程が17号住居跡に切り取られる状況で構築されている。したがって、18号住居跡は17号住居跡よりも前に構築されていることが解る。形状はS23°W方向に主軸のある方形で、規模は1.7m×3.3m。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く18cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は大粒の炭化物・焼土粒を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黒褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む軟質土層である。3層（灰黄褐色土）は山砂を主体とするカマドの袖部。覆土は東西方向に走るトレッチャにより搅乱を受けている。東西の両壁とカマドのある南壁沿いには壁溝が巡らされている。

柱穴は2本で、深さはそれぞれ約20cmであり、柱穴の間隔は約2.4mである。

カマドは、南壁のやや西寄りに1基検出された。カマドは東西方向と南北方向のトレッチャにより搅乱を受けている。1層（暗赤褐色土）は焼土粒を含む天井部。2層（明茶褐色土）は山砂・焼土粒・炭化粒を含む天井部の崩落土層。3層（明茶褐色土）は多量の焼土粒・炭化物を含む煙道部内の堆積土層。4層（暗褐色土）は山砂・白色粘土を含む袖部。5層（黄暗褐色土）は山砂・白色粘土・焼土粒を含む天井部の流出土層。また、カマドの中央部には多量の焼土が堆積した燃焼部が検出された。

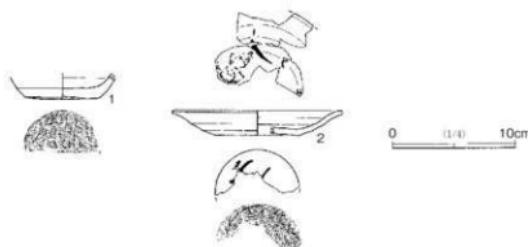
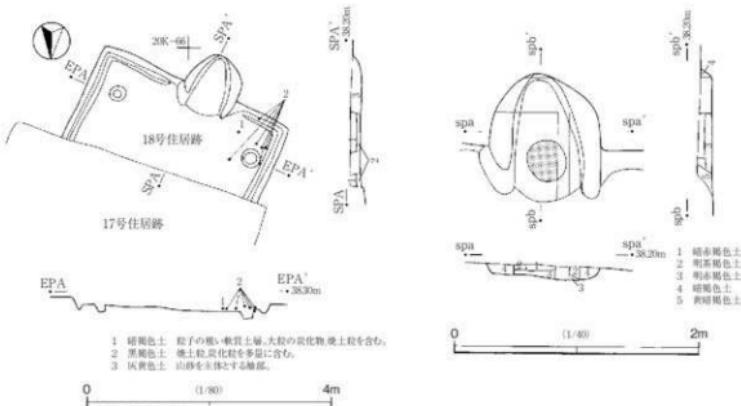
出土遺物は、1は床面上から検出され体部下半のみ遺存する土師器杯。遺存する底部径は約6.0cmで、胎土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面クロナデ、底部回転糸切りとなっている。2は床面上から検出された土師器の小型皿。口縁部径は推定14.1cm、底部径は推定7.0cmで非常に扁平で浅い器形である。胎土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面クロナデ、底部回転糸切り後の手持ちヘラケズリとなっている。また、底部内面及び外面には墨書きが観られるが主要部分を欠いており判読は不可である。

19号住居跡（SI016）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の20L60付近に位置し北壁付近で20号住居跡を切り取る状況で構築されている。したがって、19号住居跡は20号住居跡より後に構築されていることが解る。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は3.7m×4.1m。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く28cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は大粒の炭化物・焼土粒を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黒褐色土）は大粒の焼土粒・炭化粒を多量に含む粒子の粗い軟質土層である。3層（暗赤褐色土）は大量の焼土粒・大粒の炭化物を含む流入土層。4層（赤褐色土）は大量の焼土粒・大粒の炭化物を含む軟質土層。覆土は東西方向に走るトレッチャにより搅乱を受けている。また、カマドのある西壁及び南北の両壁には壁溝が巡らされ、東壁沿いの壁溝は南半分程のみ検出された。

柱穴は4本で、深さはそれぞれ約20cmであり、柱穴の間隔は東西方向で約2.4m、南北方向で約2.7mである。

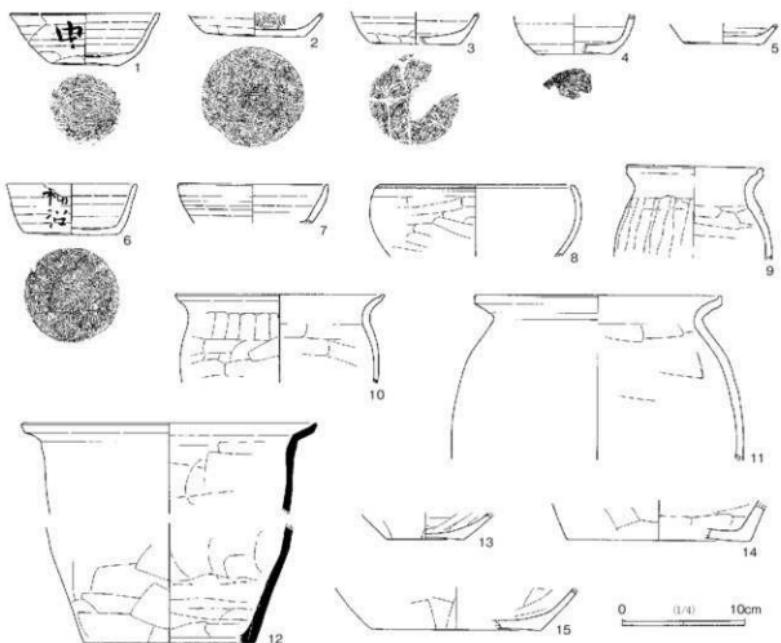
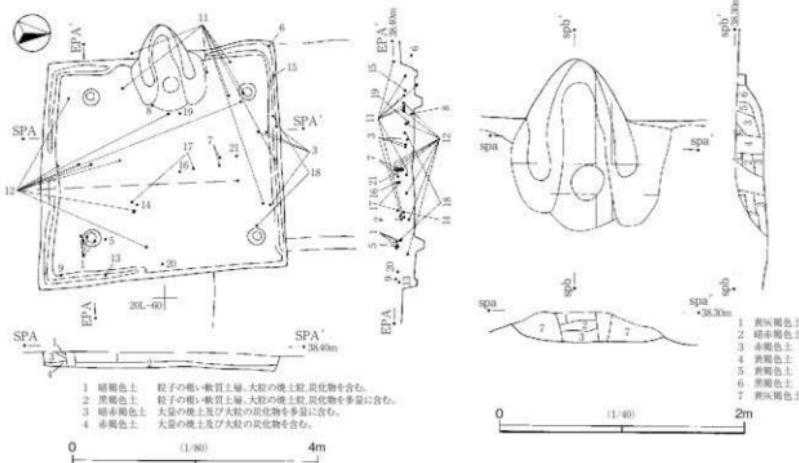
カマドは、西壁の中央に1基検出された。カマドは南北方向のトレッチャにより搅乱を受けている。



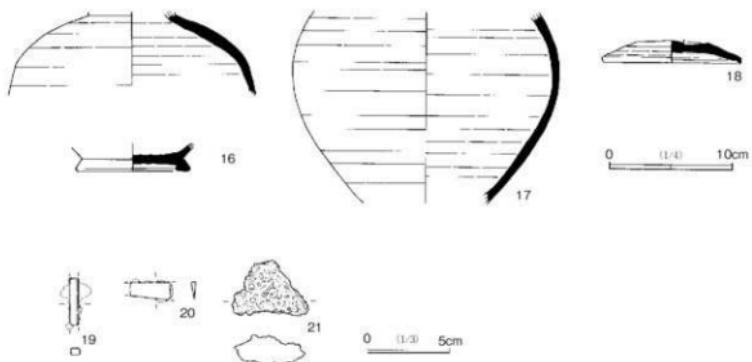
第20図 18号住居跡・出土遺物

1層（黄灰褐色土）は山砂・白色粘土を含む天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む煙道部の崩落土層。3層（赤褐色土）は多量の焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。4層（黄褐色土）は山砂・白色粘土・ローム粒を含む掛け口部内の堆積土層。5層（黄暗褐色土）は山砂・白色粘土・焼土粒を含む天井部の流出土層。6層（黒褐色土）は煙道部の煙出し付近に堆積した炭化物を含む軟質土層。また、カマドの中央部には多量の焼土が堆積した燃焼部が検出された。

出土遺物は、1は覆土中から検出された土師器杯。体部は底部から直線的に外反する。口縁部径は12.2cmで、胎土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切りとなっており、体部外面には墨書「中」が観られる。2は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は8.2cmで、胎土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、内面黑色処理、底部回転糸切り後の端部手持ちヘラケズリとなっている。3は覆土中から検出された口縁部付近を欠損する土師器杯。底部径は7.4cmで、胎



第21図 19号住居跡・出土遺物（1）



第22図 19号住居跡・出土遺物（2）

土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後の端部手持ちヘラケズリとなっている。4は覆土中から検出された口縁部付近を欠損する一括遺物の土師器杯。底部径は6.0cmで、胎土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後の端部手持ちヘラケズリとなっている。5は覆土中から検出された口縁部付近を欠損する土師器杯。底部径は6.6cmで、胎土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切りとなっている。6は本住居跡北西角の壁溝から検出されたほぼ完形の土師器杯。口縁部径10.6cmに対して底部径7.8cmとあまり差がなく、いわゆる箱形の器形となっている。胎土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後の端部手持ちヘラケズリとなっている。また、体部外面には墨書『稻治』が観られる。7は覆土中から検出された底部付近を欠損する土師器杯。口縁部径は推定12.1cmで、胎土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を少量含む。体部内外面ロクロナデとなっている。8はカマド周辺の床面直上から検出された土師器鉢。口縁部は推定16.0cmで体部中ほどに最大径を有し17.5cmである。胎土には粒子の細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒をに含む。体部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。9は覆土中から検出された口縁部付近を欠損する土師器小型甕。口縁部は胴部から短く立ち上がり口唇部を上に摘み上げている。口縁部径は推定11.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面は縱位のヘラケズリ、内面は横位のヘラナデとなっている。10は覆土中から検出された口縁部付近を欠損する一括遺物の土師器甕。口縁部は胴部から短く立ち上がり外反する。口縁部径は推定17.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面縱位のヘラケズリ後下半部は横位のヘラケズリ、内面横位のヘラナデとなっている。11はカマド周辺の床面直上及び覆土中から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部は胴部に比べて小さく、外反した後口唇部付近を上に摘み上げている。口縁部径は推定17.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘

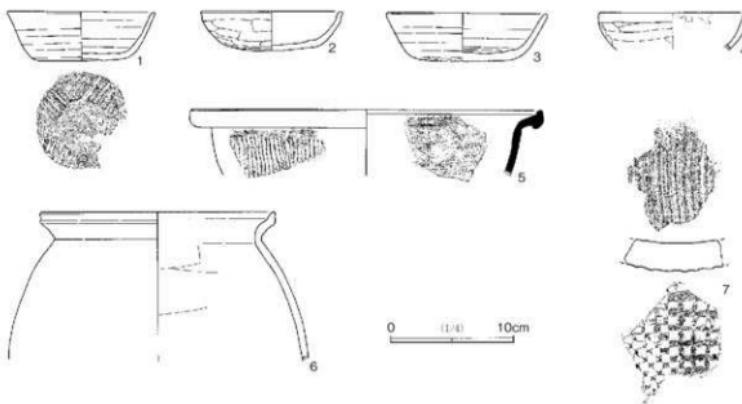
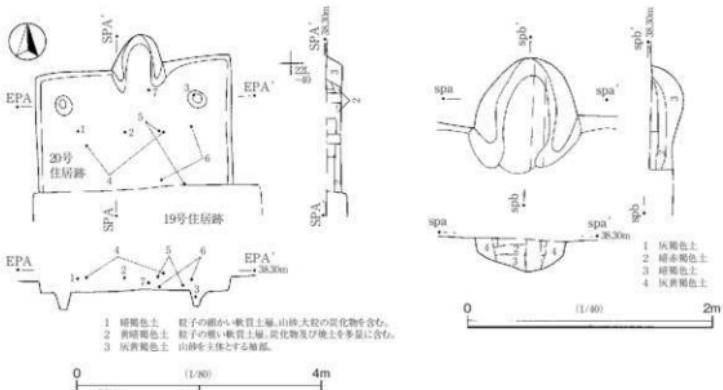
土粒を含む。口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。12は床面直上及び覆土中から検出された須恵器壺。法量は口縁部推定24.0cm³、遺存する器高約18.0cm、底部径推定14.0cmである。焼成は良好で、胎土に粒子の細かい白色粒を多量に含み小粒の赤色粘土粒を少量含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面タタキ目、胴下半部はヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。13は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する土師器壺。底部径は6.4cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面ヘラケズリ、内面ナデ、底部ヘラケズリとなっている。14は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する土師器壺。底部径は推定15.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面底部付近ヘラケズリ、内面ナデ、底部ヘラケズリとなっている。15は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する土師器壺。底部径は推定14.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面底部付近ヘラケズリ、内面ナデ、底部ヘラケズリとなっている。16は覆土中から検出された口縁部と胴下半部を欠損する須恵器壺。口縁部付近と胴下半部を欠損しており、胎土には細かい石英粒を含む。胴部内外面ロクロナデとなっている。底部には高台が付いている。17は覆土中から検出された口縁部と底部を欠損する須恵器壺。胴部中央付近に最大径を有し推定18.0cmである。胎土には細かい石英粒を含む。胴部内外面は滑らかなロクロナデとなっている。18は覆土中から検出された宝珠部を欠損する須恵器杯蓋。外周部径は約11.2cmで、胎土には細かい石英粒を含む。蓋部外面回転ヘラナデ、内面ナデとなっている。また、外周部には下側に小さく折れ曲がったカエリが観られる。19はカマド周辺の覆土中から検出された鉄釘。法量は遺存する長さ2.9cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重量3.1gである。20は覆土中から検出された鉄製刀子。法量は遺存する長さ2.6cm、幅1.0cm、厚さ0.3cm、重量2.3gである。21は覆土中から検出されたスラグ。重量2.3gである。

20号住居跡（SI030）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の22K49付近に位置し南壁付近を19号住居跡により切り取られている。したがって20号住居跡は19号住居跡よりも前に構築されていたことが解る。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は2.1m×3.2m。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く24cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は山砂・大粒の炭化物を含む粒子の細かい軟質土層。2層（黄暗褐色土）は炭化物・焼土を多量に含む粒子の粗い軟質土層である。3層（灰黄褐色土）は山砂を主体とするカマドの袖部。覆土は東西方向に走るトレンチャーにより搅乱を受けている。柱穴は2本で、深さはそれぞれ約25cm～30cmであり、柱穴の間隔は約2.3mである。

カマドは、北壁の中央に1基検出された。カマドは南北方向のトレンチャーにより搅乱を受けている。1層（灰褐色土）は山砂・白色粘土を含む天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む煙道部の崩落土層。3層（暗褐色土）は多量の焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。4層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土を含む袖部。

出土遺物は、1は覆土中から検出された土師器杯。口縁部径は12.0cm、底部径は8.1cmであり差がなく箱形の器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後の端部手持ちヘラケズリとなっている。2は覆土中から検出された丸底の土師器杯。口縁部径は11.5cm、器高3.2cmで浅く扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。3は柱穴内の堆積土から検出された土師器杯。



第23図 20号住居跡・出土遺物

口縁部径は13.0cm、底部径は8.6cmで浅く扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリとなっている。4は覆土中から検出された底部附近を欠損する土師器杯。口縁部径は12.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。5は床面直上及び覆土中から検出された口縁部付近のみ遺存する須恵器瓶。口縁部は大きく外反し、口縁部は厚く折り重ね、口唇部はやや丸みを帯びた調整となっている。口縁部径は推定28.6cmで、胎土には細かい石英粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面は並行タタキ目、内面は當て具痕をナデで消している。6は床面直上及び覆土中から検出された胴

下半部を欠損する土師器甕。口縁部は短く外反し、口唇部は小さく上に摘み上げられている。口縁部径は19.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。7は凸面に正格子タタキ目、凹面に布目のある平瓦。遺存する法量は長さ11.2cm、幅8.2cm、厚さ2.3cm、重量194gである。

21号住居跡（SI017）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の20K98付近に位置している。形状はN70°W方向に主軸のある方形で、規模は3.0m×3.6m。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く18cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は焼土粒を含む粒子の細かい軟質土層。2層（暗黒褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層である。3層（黄褐色土）はソフトロームの流入土層。4層（黄褐色土）はカマドの崩落出土層。覆土は南北方向に並行に走るトレンチャーにより搅乱を受けている。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約35cm～40cmであり、柱穴の間隔は西壁側で約2.4m、東壁側で約1.8mである。

カマドは、西壁の中央に1基検出された。カマドは南北方向のトレントレッサーにより搅乱を受けている。1層（暗褐色土）は山砂・白色粘土を含む天井部。2層（黒褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部の崩落土層。3層（暗褐色土）は多量の炭化物を含む火床部上の堆積土層。4層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。5層（黄灰褐色土）は山砂・白色粘土を含む袖部。カマド本体上部は削平されており、天井部は大部分を失っている。

出土遺物は、1は南壁沿いの床面直上から検出された縁軸のかかった陶器片で、器形は杯と思われる。

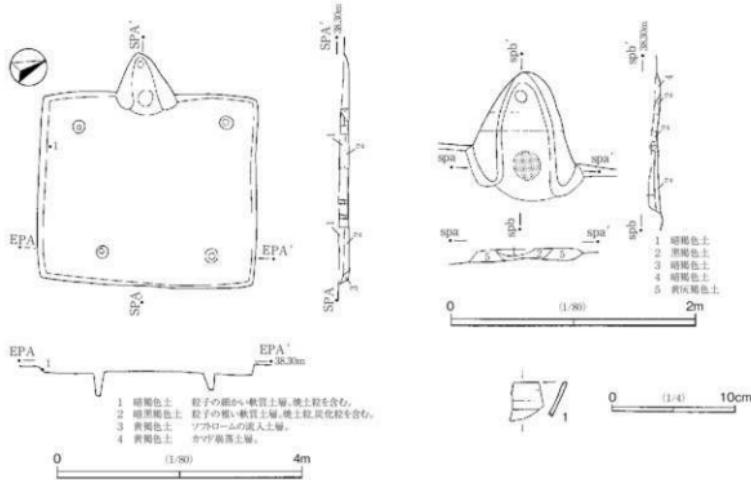
22号住居跡（SI018）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の20L55付近に位置している。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は3.7m×3.9m。床面はほぼ平坦で、深さは40cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層。2層（暗黄褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の細かい軟質土層である。3層（黄褐色土）は大粒の焼土粒・炭化粒を含む粒子の細かいしまりの良い軟質土層。覆土は東西方向に並行に走るトレントレッサーにより搅乱を受けている。柱穴は6本で、深さはそれぞれ約20cm～30cmであり、柱穴の間隔は南北方向で約2.8m、東西方向で約1.2mである。

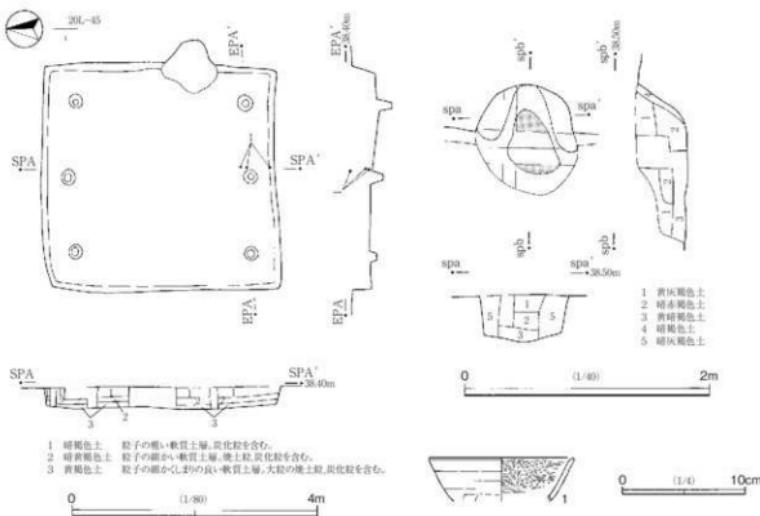
また、本住居跡東壁のカマド付近では、カマド精査後に直下から本住居跡構築以前に存在した2号土坑（003）が検出されている。

カマドは、東壁のやや南寄りに1基検出された。カマドは東西・南北に走るトレントレッサーにより大きく搅乱を受けている。1層（黄灰褐色土）は山砂・白色粘土を含む天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部の崩落土層。3層（黄暗褐色土）はローム・多量の炭化物を含む火床部上の堆積土層。4層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む煙道部内の堆積土層。5層（暗灰褐色土）は山砂・白色粘土を含む袖部。火床部には比較的範囲の広い焼成箇所があり燃焼部と思われる。

出土遺物は、1は床面直上及び覆土中から検出された底部付近を欠損する土師器杯。体部は内湾気味に外傾しており台付杯の可能性もある。口縁部径は11.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面ロクロナデ、内外面黒色処理のうえ内面はミガキとなっている。



第24図 21号住居跡・出土遺物



第25図 22号住居跡・出土遺物

23号住居跡（SI019）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の20K76付近に位置している。形状はN30°E方向に主軸のある東西に長い方形で、規模は2.2m×3.2m。床面はほぼ平坦で、深さは非常に浅く15cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は焼土粒を含む粒子の細かい硬質土層。2層（黄褐色土）は大粒の焼土粒・炭化粒を含む粒子の細かい軟質土層。3層（黄暗褐色土）は山砂・ローム・暗褐色土を主体とするしまりの良い軟質土層。覆土は東西方向に並行に走るトレンチャーにより搅乱を受けている。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約20cm～25cmであり、柱穴の間隔は南北方向で約1.0m、東西方向で約2.0mである。

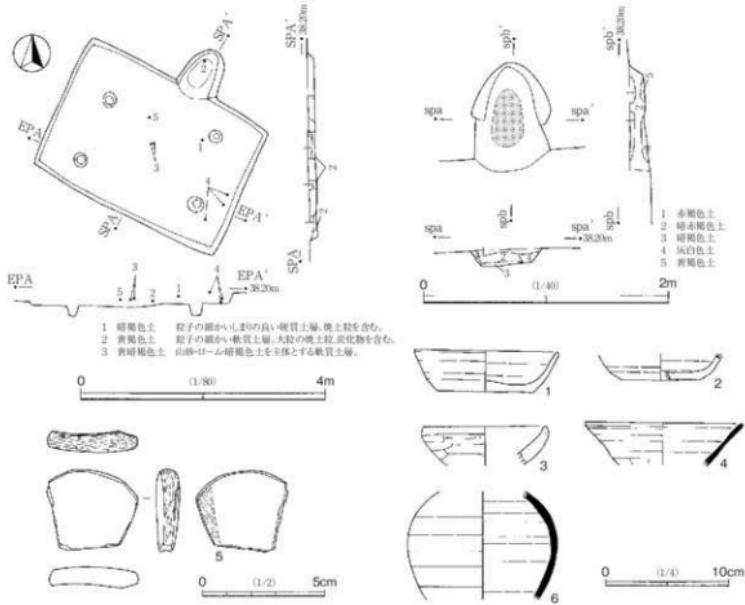
カマドは、北壁のやや東寄りに1基検出された。1層（赤褐色土）は山砂・焼土粒・炭化粒を含む天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部内の崩落土層。3層（暗褐色土）は多量の焼土・炭化物を含む火床部上の堆積土層。4層（灰白色土）は山砂・白色粘土を主体とする袖部であるが、遺存状態はきわめて悪い。5層（黄褐色土）は山砂・ロームを含む袖部の流出土層。火床部には比較的範囲の広い焼成箇所があり燃焼部と思われる。

出土遺物は、1は覆土中から検出された土師器杯。口縁部径は11.7cm、底部径は7.8cmでその差は僅かであり箱形の器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリとなっている。2はカマド内から検出された口縁部付近を欠損する土師器杯。底部径は6.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後の端部手持ちヘラケズリとなっている。3は覆土中から検出された底部付近を欠損する土師器杯。口縁部径は10.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。4は床面上直上及び覆土中から検出された底部付近を欠損する須恵器杯。体部は直線的に外傾し、口縁部は大きく開口する。口縁部径は推定12.8cmで、胎土には細かい石英粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリとなっている。5は覆土中から検出された土製品。土器片を再利用したものと考えられ、破断面は丁寧に擦られているが使途は不明である。法量は長さ3.4cm、幅3.3cm、厚さ1.0cm、重量12.4gである。6は口縁部付近及び底部付近を欠損する一括取上げの須恵器壺。胎土には細かい石英粒を含む。胴部外面は滑らかなロクロナデとなっている。

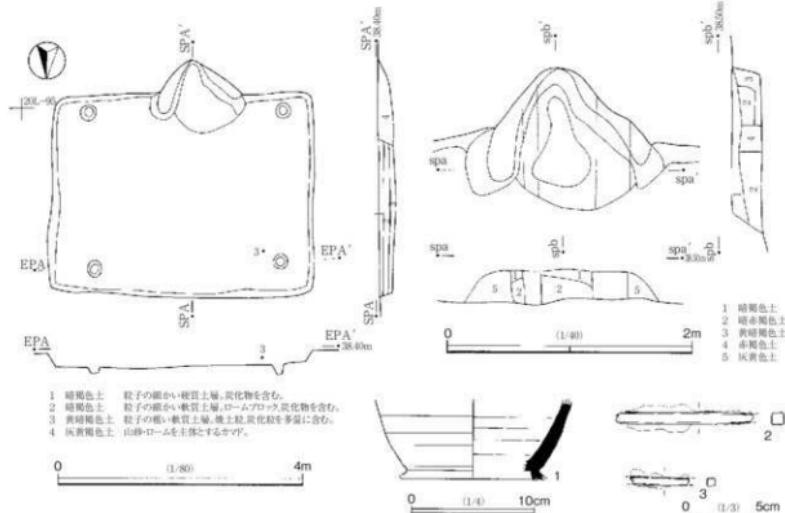
24号住居跡（SI020）

本住居跡は、遺跡中央平坦部20L95付近に位置する。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は3.4m×4.3m。床面はほぼ平坦で、深さは30cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は炭化物を含む粒子の細かい硬質土層。2層（暗褐色土）はロームブロック・炭化粒を含む粒子の細かい軟質土層。3層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む粒子の粗い軟質土層。4層（灰黄褐色土）は山砂・ロームを主体とするカマド。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約15cm～25cmであり、柱穴の間隔は南北方向で約2.6m、東西方向で約3.2mである。

カマドは、南壁のほぼ中央に1基検出された。カマドは南北に走るトレンチャーにより搅乱を受けているが、比較的遺存状態は良好である。1層（暗褐色土）は山砂・炭化粒を含む天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部内の崩落土層。3層（黄暗褐色土）は多量の焼土・炭化物・ロームを含む煙道部の堆積土層。4層（赤褐色土）は大量の焼土と炭化物を含む掛け口部直下の堆積土層。5層（灰黄色土）は山砂・白色粘土を主体とする袖部である。



第26図 23号住居跡・出土遺物



第27図 24号住居跡・出土遺物

出土遺物は、1は胴上半部を欠損する一括取上げの須恵器台付壺。底部径は推定12.4cmで底部には「ハ」字状に開く低い高台が付いている。胎土に細かい石英粒を含む。体部外面回転ヘラケズリとなっている。2・3は名称不明の鉄製品でいずれも断面は正方形である。2の法量は遺存する長さ約8.4cm、幅0.7cm、厚さ0.7cm、重量20.8g。3の法量は遺存する長さ約3.6cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、重量3.2g。

25号住居跡（SI021）

本住居跡は、遺跡中央平坦部21L16付近に位置する。形状は南北方向に主軸のある南北方向にやや長い方形で、規模は4.5m×3.7m。床面はほぼ平坦で、深さは30cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は粒子の細かい縮まりの良い硬質土層。2層（黒褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の細かい軟質土層。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約25cm～30cmであり、柱穴の間隔は約2.6mである。覆土は南北方向に並行に走るトレングレーによって搅乱を受けている。

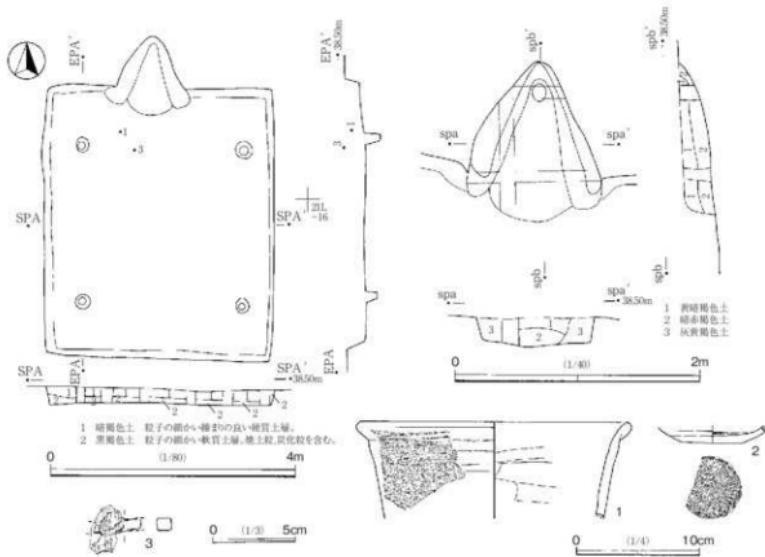
カマドは、北壁のやや西よりに1基検出された。カマドは東西及び南北方向のトレングレーにより格子状に搅乱を受けている。1層（黄暗褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む煙道内の堆積土層。3層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする袖部。

出土遺物は、1は覆土中から検出された胴下半部を欠損する土師器瓶。器形は、逆「ハ」字形に直線的に開いた胴部の先端に、折り返しにより若干厚みを増した短い口縁部が続く。口縁部は推定22.0cmで、胎土には細かい長石粒及び中粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。2は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は5.2cmで、胎土には細かい白色粒及び中粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切りとなっている。3は鉄製刀子の柄部。遺存する長さは約2.9cm、幅0.8cm、厚さ0.9cm、重量は7.7gである。

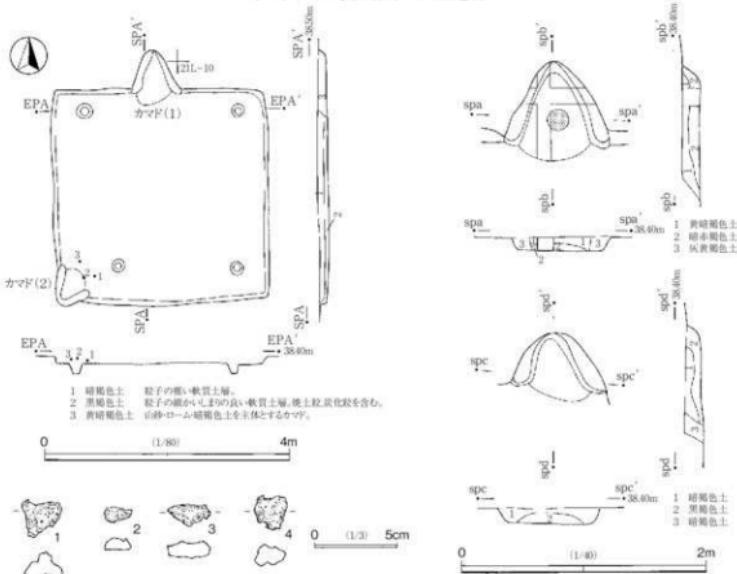
26号住居跡（SI022）

本住居跡は、遺跡中央平坦部21L10付近に位置する。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は3.5m×3.5m。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く20cmほどである。覆土は、1層（暗褐色土）は粒子の粗い軟質土層。2層（黒褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の細かい縮まりの良い軟質土層。3層（黄暗褐色土）は山砂・ローム・暗褐色土を主体とするカマド。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約20cm～25cmであり、覆土は南北方向に並行に走るトレングレーによって搅乱を受けている。柱穴の間隔は北壁側で約2.6m、南壁側で約2.0mである。

本住居跡には2基のカマドが検出されている。北壁のほぼ中央に第1カマド、南西角に第2カマドが検出された。第1カマドは、東西方向及び南北方向のトレングレーにより搅乱を受けているが遺存状態は良好である。1層（黄暗褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む煙道部内の堆積土層。3層（灰黄褐色土）は山砂・ローム・白色粘土を主体とする袖部。掛け口部直下と思われる火床部には焼土化したロームと大粒の炭化物の堆積が観られ燃焼部と思われる。第2カマドは、1層（暗褐色土）は山砂・ローム・炭化粒を含む硬質土層。2層（黒褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む煙道部内の堆積土層。3層（暗褐色土）は大粒の炭化物を含む軟質土層で、焚き口部の流出土層。第2カマド周辺からはスラグが出土しており、第1カマドと使途が異なる可能性が考えられ



第28図 25号住居跡・出土遺物



第29図 26号住居跡・出土遺物

る。

出土遺物は、4点すべて第2カマドの周辺から検出されたスラグである。重量は1は6.7g、2は1.9g、3は4.9g、4は5.5gである。

27号住居跡（SI023）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の21K16付近に位置する。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は3.3m × 3.6m。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く20cmほどである。覆土は、1層（黄褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の細かい締まりのよい軟質土層。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の細かい軟質土層。覆土は南北方向に並行に走るトレントレーナーによって搅乱を受けている。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約20cm～30cmであり、柱穴の間隔は北壁側で約2.0m、南壁側で約2.3mである。

カマドは、南北方向のトレントレーナーにより搅乱を受けているが遺存状態は良好である。1層（暗褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む煙道部内の堆積土層。3層（灰黄褐色土）は山砂・ローム・白色粘土を主体とする袖部。掛け口部直下と思われる火床部には焼土化したロームと大粒の炭化物の堆積が観られ燃焼部と思われる。

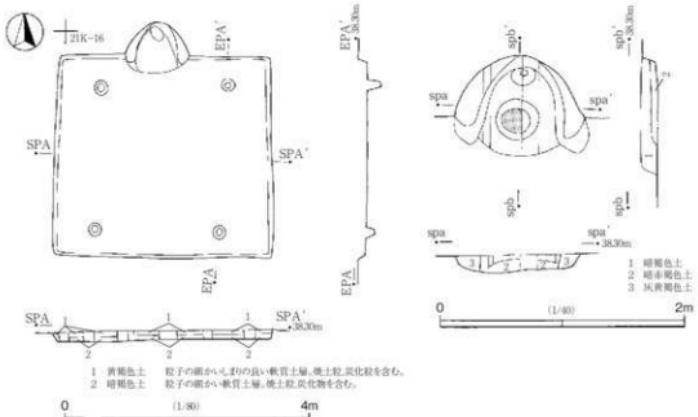
出土遺物は実測可能なものは無い。

28号住居跡（SI024）

本住居跡は、遺跡中央の台地西端部の21K05付近に位置し南西角付近で隣接する29号住居跡のカマドによって壁及び床の一部が損壊されている。このことから、28号住居跡は29号住居跡よりも前に構築されたことが解る。形状はN35°E方向に主軸のある方形で、規模は3.5m × 4.2m。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く20cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約30cm～40cmであり、柱穴の間隔は東西方向は約3.0m、南北方向は約2.5mである。壁溝は本住居跡の壁面沿いに全周する。覆土は、1層（明黄褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む山砂を主体とする硬質土層。2層（暗褐色土）は大粒の焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。3層（暗黃褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む粒子の細かい軟質土層。

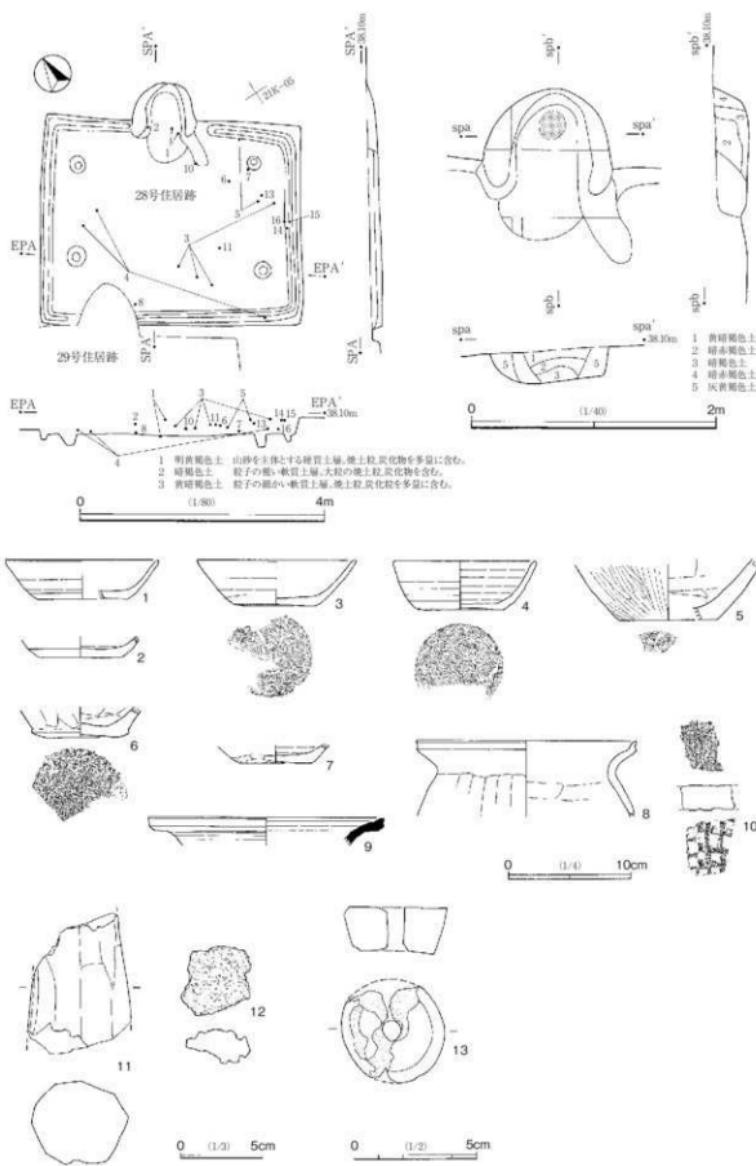
カマドは、東西方向及び南北方向のトレントレーナーにより搅乱を受けているが遺存状態は良好である。1層（黄暗褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む煙道部内の堆積土層。3層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。4層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む煙道部の奥壁付近の堆積土層。5層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする袖部。煙道部直下と思われる火床部には大量に焼土と大粒の炭化物の堆積が観られる。

出土遺物は、1はカマド内から検出された土師器杯。口縁部は推定12.5cm、器高3.3cmで浅く扁平な器形で体部は直線的に外傾する。胎土には細かい白色粒及び赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部ヘラケズリとなっている。2はカマド内出土で底部付近のみ遺存する土師器杯。体部は直線的に外傾する。器高3.3cm、底部径6.8cmである。胎土には細かい白色粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデ、底部回転ヘラケズリとなっている。3は覆土中から検出された土師器杯。体部は1と同様に直線的に外傾するが、1よりも器高がやや高い器形である。口縁部径は推定13.0cm、器高3.8cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転



第30図 27号住居跡

糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。4は床面直上から検出された土師器杯。口縁部径は推定11.6cm、底部径7.2cmでその差は僅かであり箱形の器形である。胎土には細かい白色粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面クロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。5は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する土師器甕。底部径は推定8.0cmで、胎土には細かい長石粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面細かいヘラケズリ、内面ヘラナデ。底部に木葉痕が観られる。6は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する土師器甕。底部径は推定8.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。胴部外面は粗いヘラケズリ、内面ヘラナデ。底部はやや上げ底気味で木葉痕が観られる。7は床面直上から検出された土師器杯。底部径は5.8cmで、胎土には細かい白色粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面クロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。8は床面直上から検出された胴上半部1/3ほど遺存する土師器甕。口縁部は「く」字状に大きく外反し口唇部は上に小さく摘み上げられている。口縁部径は推定19.8cmで、胎土には細かい長石粒及び中粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。9は覆土中から検出された口縁部付近のみ遺存する一括取上げの須恵器甕。口唇部は折り重ねによりやや厚みのある造りで、先端部は軽く上に摘み上げられている。口縁部径は推定19.2cmで、胎土には細かい石英粒を含む。口縁部クロナデとなっている。10はカマドの袖部の押さえに使われていた平瓦で、凸面に正格子タタキ目。凹面は布目となっている。法量は遺存する長さ4.1cm、幅5.2cm、厚さ2.0cm、重量46.0gである。11は覆土中から検出された土製支脚。表面は丁寧にヘラケズリで面取りされている。断面は密で焼成も堅固となっている。法量は遺存する長さ8.6cm、幅6.3cm、厚さ5.1cm、重量140.0gである。12は覆土中から検出された一括取上げのスラグで、重量は46.0gである。13は覆土中から検出された土製の紡錘車。一部を欠損するが遺存状態は良好である。法量は長径部4.2cm、短径部4.0cm、厚さ1.9cm、重量27.4gである。14～



第31図 28号住居跡・出土遺物（1）

16は東壁の壁際から検出された鉄製鎌でいずれも曲刃の鎌である。14の法量は長さ7.4cm、幅3.0cm、厚さ0.4cm、重量31.2g。15の法量は長さ7.7cm、幅2.9cm、厚さ0.4cm、重量29.4g。16は3本の鎌が鍔で密着しており、16aは長さ7.2cm、幅1.9cm、厚さ0.3cmのもの、16bは長さ10.7cm、幅2.7cm、厚さ0.4cmのもの、16cは長さ14.8cm、幅2.6cm、厚さ0.4cmのもので、3本の総重量は84.1gである。

29号住居跡（SI028）

本住居跡は、遺跡中央の台地西端部21K02付近に位置し28号住居跡の南壁及び床面の一部を切り取る状況で構築されている。したがって、29号住居跡は28号住居跡より後に構築されたことが解る。また、本住居跡の西壁付近は西側の谷津に張り出した台地の縁辺部の影響を受け流失している。形状はN28°E方向に主軸のある方形で、規模は3.4m×4.4m。床面はほぼ平坦で、深さは非常に浅く12cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約20cm～40cmであり、柱穴の間隔は東西方向は約2.6m、南北方向は約1.8mである。覆土は、1層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黄暗褐色土）は山砂・ローム・暗褐色土を主体とする軟質土層。

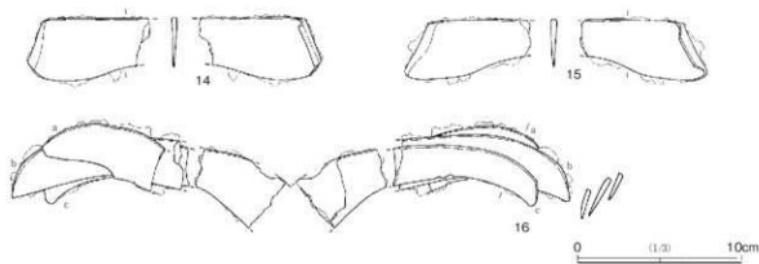
カマドは、北壁に1基検出された。北側に隣接する28号住居跡の壁と床面の一部を切り取る状況で構築されている。1層（暗褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は多量の焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。3層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする袖部。

出土遺物は、1は東壁際の床面直上から検出された底部付近のみ遺存する高台付杯。台部は短く「ハ」字に開く。底部径6.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面ロクロナデ、底部付近回転ヘラケズリ、内面ミガキで黒色処理され、底部は回転糸切り後のナデとなっている。2は床面直上から検出された体部上半を欠損する土師器杯。底部径は6.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面ロクロナデ、底部付近回転ヘラケズリ、内面ミガキで黒色処理され、底部は回転糸切りとなっている。3はカマド付近の覆土中から検出された土師器杯。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、口唇部付近で小さく外反する。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。4は覆土中から検出された一括取上げの砥石。遺存する法量は長さ4.4cm、幅3.4cm、厚さ3.5cm、重量53.8gである。

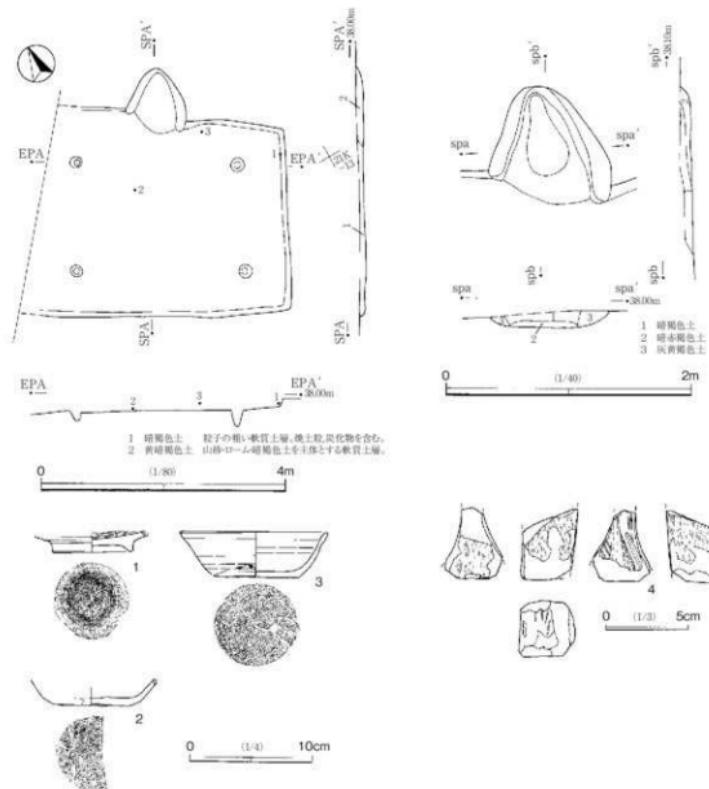
30号住居跡（SI025）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の21L81付近に位置する。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は2.7m×2.8mで小型の住居跡である。床面はほぼ平坦で、深さは30cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約20cm～25cmであり、柱穴の間隔は東西方向は約1.7m、南北方向は約1.5mである。覆土は、1層（暗褐色土）は山砂・焼土粒・炭化物を含む粒子の細かい軟質土層。2層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層。3層（黄褐色土）はロームの流入土層。覆土は南北方向に走るトレンチャーにより搅乱を受けている。

カマドは、北壁のやや東寄りに1基検出された。カマドのほぼ中央は南北に走るトレンチャーにより搅乱を受けているが、他の部分の遺存状態は良好である。1層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部内堆積土層。3層（赤褐色土）は焼土塊・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。4層（黄暗褐色土）は山砂・暗褐色土を主体とする天



第32図 28号住居跡・出土遺物（2）



第33図 29号住居跡・出土遺物

井部の流出土層。5層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする袖部。
出土遺物のうち実測可能なものは無い。

31号住居跡（SI026）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の21K49付近に位置する。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は3.1m×3.6mで小型の住居跡である。床面はほぼ平坦で、深さは25cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約30cm～45cmであり、柱穴の間隔は東西方向は約2.5m、南北方向は約1.7mである。覆土は、1層（黄褐色土）は山砂・炭化物を含む粒子の細かい硬質土層。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の細かい硬質土層。3層（暗褐色土）は山砂・ローム・暗褐色土を主体とするカマド。

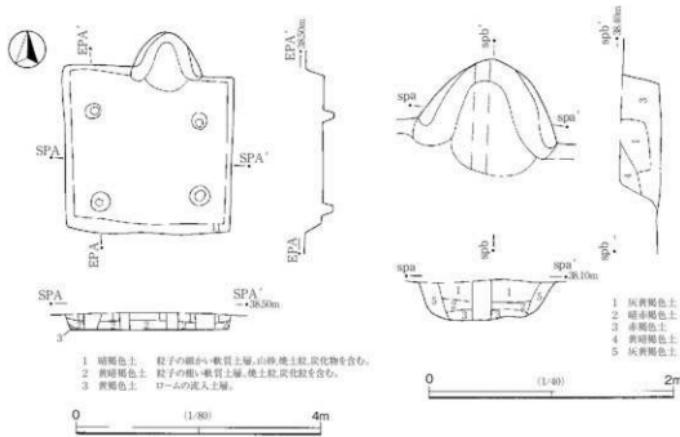
カマドは、北壁の中央に1基検出された。カマドは東西方向及び南北方向のトレーンチャーにより搅乱を受けているが、他の部分は遺存状態は良好である。1層（灰茶褐色土）は山砂・褐色土を含む天井部。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部内の堆積土層。3層（暗赤褐色土）は多量の焼土・炭化物を含む火床部上の堆積土層。4層（黄褐色土）は山砂を含む天井部の流出土層。5層（黒褐色土）は煙出し部直下の火床部に堆積した大粒の炭化粒を含む軟質土層。6層（暗褐色土）及び7層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土を含む袖部。

出土遺物は、1は床面直上から検出された底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は7.0cmで、胎土には細かい白色粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。体部外面ヘラケズリ、底部ヘラケズリとなっている。2は床面直上から検出された底部付近のみ遺存する須恵器の高台付杯。高台は比較的厚みがありしっかりした造りである。台部径は推定7.8cmで、胎土には細かい石英粒を多量に含む。体部外面クロナデ、底部回転糸切り後のナデとなっている。3は覆土中から検出された一括取上げの土製品。表裏両面に鋭利な刃を擦った痕跡があり、土器または土製品の破片を再利用した砥石の代替品である。法量は長さ5.8cm、幅4.5cm、厚さ3.1cm、重量45.8gである。

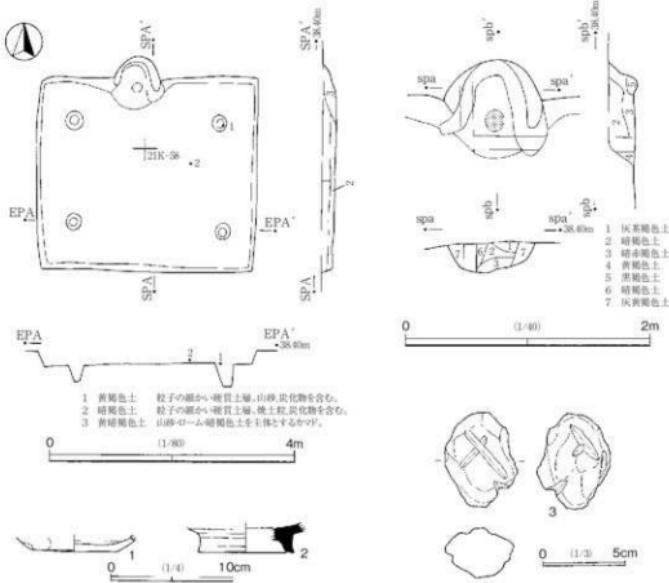
32号住居跡（SI027A）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の21K36付近に位置し南半分ほどを33号住居跡によって切り取られる状態で構築されている。したがって、32号住居跡は33号住居跡よりも前に構築されていたことが解る。形状はN35°E方向に主軸のある方形で、規模は3.7m×4.1mで小型の住居跡である。床面はほぼ平坦で、深さは非常に浅く15cmほどである。柱穴は2本で、深さはそれぞれ約15cm～30cmであり、柱穴の間隔は約27mである。覆土は、1層（暗褐色土）は山砂・焼土粒を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の細かい軟質土層。3層（暗赤褐色土）は焼土を多量に含む粒子の細かい軟質土層。4層（暗褐色土）は33号住居跡の覆土。5層（灰黄色土）は山砂・白色粘土を主体とするカマド。覆土は東西方向に走るトレーンチャーにより搅乱を受けている。

カマドは、北壁のやや西寄りに1基検出された。カマドは東西方向及び南北方向のトレーンチャーにより搅乱を受けているが、他の部分の遺存状態は良好である。1層（灰赤褐色土）は山砂・焼土粒・白色粘土を含む天井部。2層（赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部内の堆積土層。3層（暗褐色土）は大量の炭化物を含む火床部上の堆積土層。4層（黄褐色土）は山砂・白色粘土を含む天井部も流出土層。5層（暗赤褐色土）は焼土を多量に含む掛け口部内の堆積土層。6層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロー



第34図 30号住居跡



第35図 31号住居跡・出土遺物

ムを主体とする袖部。

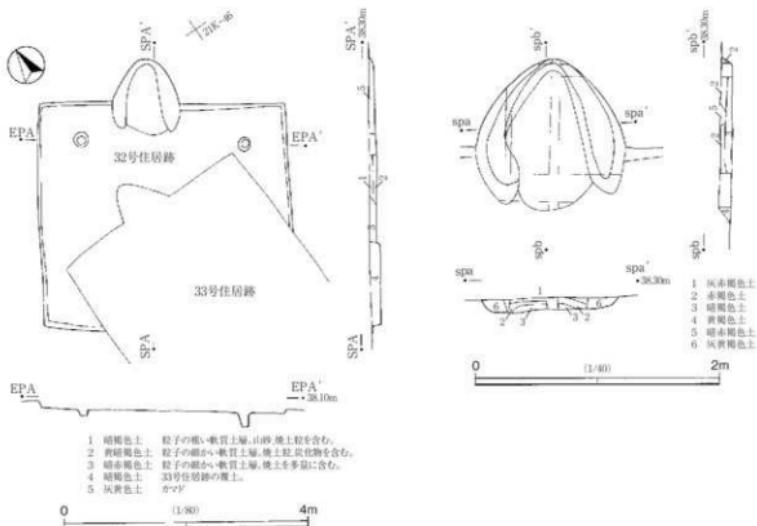
出土遺物のうち実測可能なものは無い。

33号住居跡 (SI027B)

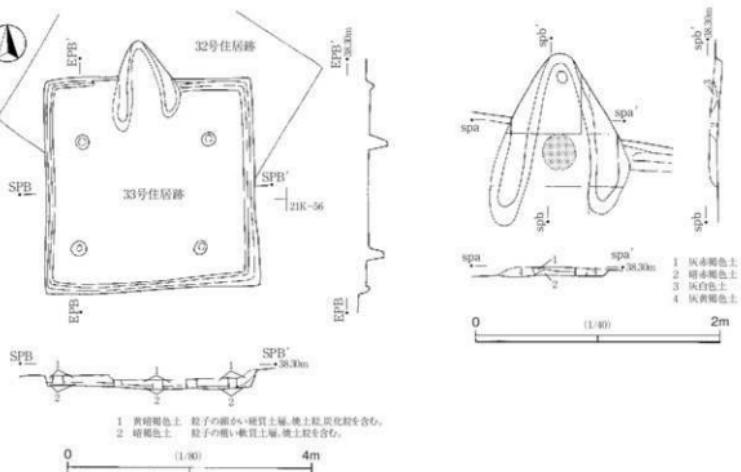
本住居跡は、遺跡中央平坦部の21K56付近に位置し、カマドのある北側で32号住居跡を切り取る状況で構築されている。このことから、33号住居跡は32号住居跡より後に構築されたことが解る。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は3.5m×3.5mである。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く25cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約30cm～40cmであり、柱穴の間隔は東西方向で約2.0m、南北方向で約1.8mである。壁構は本住居跡の壁面沿いに全周する。覆土は、1層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の細かい硬質土層。2層（暗褐色土）は焼土粒を含む粒子の粗い軟質土層。覆土は南北方向に並行に走るトレングチャーニにより搅乱を受けている。

カマドは、北壁のほぼ中央に1基検出された。東西方向のトレングチャーニによりカマド前部を搅乱されているが、主要部分の遺存状態は良好である。1層（灰赤褐色土）は山砂・白色粘土・焼土粒を含む煙道部内の堆積土層。2層（暗褐色土）は焼土塊・炭化物を含む火床部上の堆積土層。3層（灰白色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部。4層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする袖部。

出土遺物は、1は覆土中から検出された一括取上げの体部上半部を欠損する土師器杯。底部径は7.8cmで、胎土には細かい白色粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリとなっている。2は床面直上から検出された体部口縁部付近を欠損する土師器杯。底部径は5.5cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。3は床面直上から検出された土師器杯。体部は口縁部に向かって逆「ハ」字状に直線的に大きく開く。口縁部径は推定12.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部一方向の手持ちヘラケズリとなっている。4は床面直上から検出された土師器杯。体部は3と同様直線的に外反する。口縁部径は推定12.5cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部一方向の手持ちヘラケズリとなっている。5は床面直上から検出された底部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。台部径は推定7.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転ヘラケズリで底部には外に「ハ」の字状に広がる付け高台が付いている。6は床面直上から検出された口縁部付近のみ遺存する土師器甕。口縁部は「く」状に外反し、口縁部付近は折り返しにより若干厚みを増す。口縁部径は推定18.8cmで、胎土には細かい長石粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。7は覆土中から検出された口縁部付近のみ遺存する土師器甕。口縁部は「コ」字状の屈曲部が観られこれはいわゆる武藏型の特徴である。口縁部径は推定18.0cmで、胎土に細かい長石粒及び中粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。8は床面直上及び覆土中から検出された底部付近のみ遺存する須恵器甕。器壁は厚みがありしっかりとした造りである。底部径は推定14.0cmで、胎土には細かい石英粒を含む。胴部外面底部付近ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。9～11はカマド内出土の鉄製剝片。いずれも微小破片のため名称は不明である。9の法量は長さ1.9cm、幅2.4cm、厚さ0.3cm、重量1.2g。10の法量は長さ1.3cm、幅1.9cm、厚さ0.7cm、重量1.0g。11の法量は長さ1.5cm、幅2.8cm、厚さ0.5cm、重量1.6g。



第36図 32号住居跡



第37図 33号住居跡

34号住居跡（SI031）

本住居跡は、遺跡中央平坦部の21K68付近に位置している。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は3.1m×4.3mである。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く28cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約30cm～45cmであり、柱穴の間隔は東西方向で約2.9m、南北方向で約2.0mである。覆土は、1層（黄暗褐色土）は砂質で堅く締まった粒子の細かい軟質土層。2層（暗褐色土）は山砂・炭化粒を含む粒子の細かい軟質土層。3層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。4層（黒褐色土）は大粒の炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。5層（黄暗褐色土）は炭化物及び焼土粒を多量に含む粒子の粗い軟質土層。覆土は東西方向に並行に走るトレントンチャーリーにより搅乱を受けている。

カマドは、北壁の中央に1基検出された。南北方向のトレントンチャーリーにより搅乱されているが、主要部分の遺存状態は良好である。1層（灰茶褐色土）は山砂・白色粘土を含む天井部及び袖部。2層（明茶褐色土）は焼土塊・ロームを含む主体とする煙道部内の堆積土層。3層（暗褐色土）は山砂・白色粘土を含む煙道内の堆積土層。4層（暗茶褐色土）は焼土粒・炭化物・ロームを主体とする火床部上の堆積土層。5層（黄暗褐色土）は山砂・ロームを含む袖部の一部。

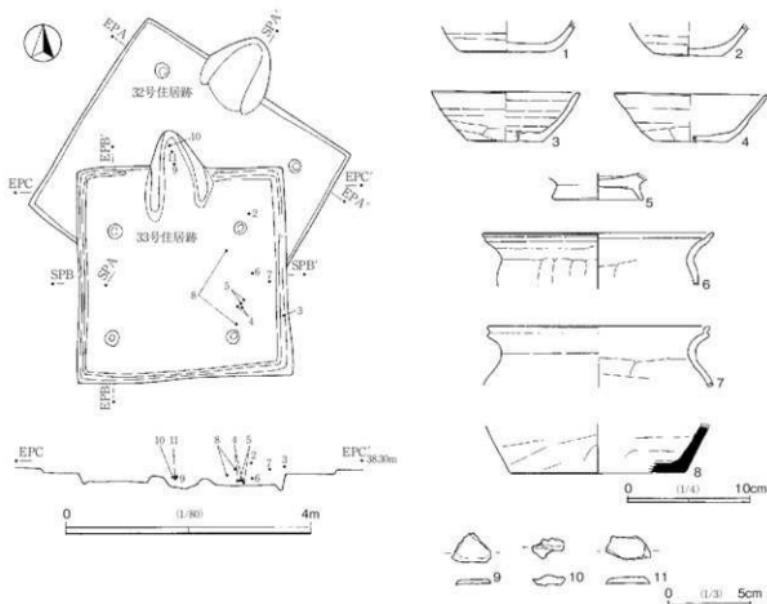
出土遺物は、1は覆土内から検出された一括取上げの土師器杯。体部は口縁部に向かって直線的に開く。口縁部径は推定13.4cmで、胎土には細かい白色粒及び中粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデ、内面はミガキで黑色処理されている。底部は回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。

35号住居跡（SI032）

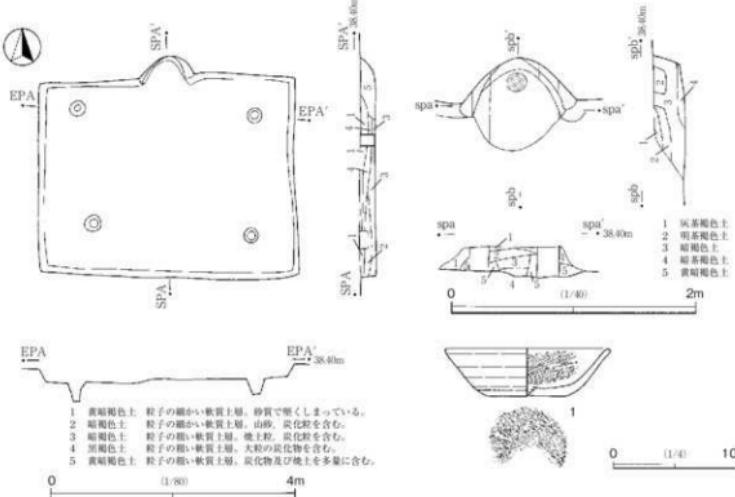
本住居跡は、遺跡中央の台地縁部の21J51付近に位置する。形状はN45°W方向に主軸のある方形で、規模は3.7m×3.0mである。床面はほぼ平坦で、深さは30cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約30cm～35cmであり、柱穴の間隔は約1.4mである。本住居跡の東壁際及び第1カマドのある西壁際には段が有り、住居の中央が一段低くなっている。覆土は、1層（黒褐色土）は大粒の炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。2層（暗褐色土）は焼土細粒・炭化物を多量に含む粒子の粗い軟質土層。3層（暗褐色土）は粒子の粗い軟質土層。4層（灰黄色土）は第1カマドで、山砂・ローム・暗褐色土を主体とする軟質土層。

カマドは、北西壁の北寄りに第1カマド、北東壁の北寄りに第2カマドの2基が検出された。第1カマドは、1層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土を含む天井部。2層（黄暗褐色土）は山砂・ロームを主体とする天井部の一部。3層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む煙道部内の堆積土層。4層（赤褐色土）は焼土塊・炭化物を含む火床部上の堆積土層。5層（黄褐色土）は山砂及び黄白色粘土によるカマド袖部。第2カマドは、1層（灰赤褐色土）は山砂・焼土粒・ロームを主体とする天井部。2層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む煙道部内の堆積土層。3層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。4層（黄褐色土）は山砂・ロームを主体とする袖部。

出土遺物は、1は第1カマドから検出された完形の土師器杯。体部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部径は11.5cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ。底部回転糸切り後手持ちヘラケズリとなっている。2は覆土中から検出された土師器杯。体部は口縁部に向かって逆「ハ」字状に直線的に開く。口縁部径は推定12.2cmで、胎土に細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ。底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。3は床面直上及び覆土中から検出された土師器杯。体部は緩やかに内湾気味に立



第38図 32号・33号住居跡・出土遺物



第39図 34号住居跡・出土遺物

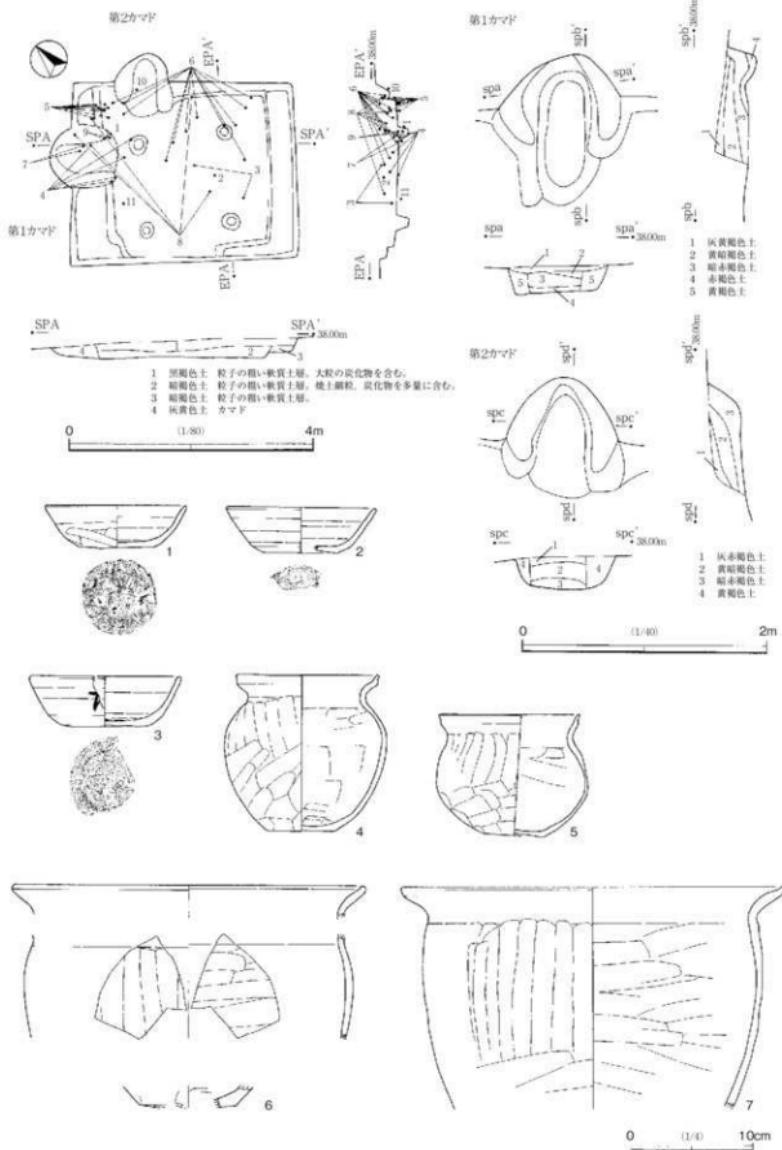
ち上がる。口縁部径は推定12.5cmで、胎土には細かい白色粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面口クロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切りとなっている。また、体部外面に墨書きが観られるが主要部分を欠損するため判読はできない。4は床面頂上から検出された土師器の小型甕。口縁部は「コ」字状の屈曲部を有し、武藏型の大型甕と通じるものがある。口縁部径は推定11.6cmで、胎土には細かい長石粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。5は床面頂上から検出された土師器小型甕。口縁部は4と比べると特に屈曲部は観られない。底部はやや上げ底気味である。口縁部径は推定11.6cmで、胎土には細かい長石粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。6は床面頂上及び覆土中から検出された土師器甕。口縁部は胴部から直線的に外反する。口縁部径は推定28.6cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ、底部ヘラケズリ後のナデとなっている。7は第1カマド内から検出された底部付近を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から大きく直線的に外反し、口唇部は小さく摘まれて細目になっている。口縁部は推定31.0cmで、胎土には細かい長石粒及び中粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。8は第1カマド内及び床面直上から検出された口縁部付近を欠損する須恵器甕。胎土に細かい石英粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面並行タキ目、内面當て具痕の上からヘラナデとなっている。9は第1カマド内から検出された長胴の常総型の土師器甕。口縁部付近及び底部付近を欠損する。胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面下半は縱位の細かいヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。10は第2カマドから検出された土製支脚である。表面は丁寧なヘラケズリで面取りされている。遺存する法量は長さ9.1cm、幅8.4cm、厚さ4.1cm、重量200.7gである。11は第1カマド周辺の床面直上から検出された軽石である。遺存する法量は長さ12cm、幅12.7cm、厚さ7.1cm、重量154gである。

36号住居跡（SI033B）

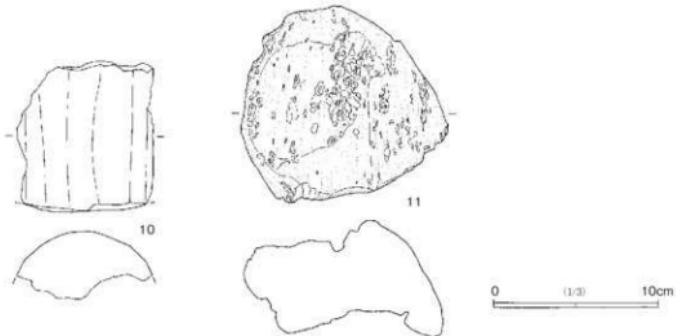
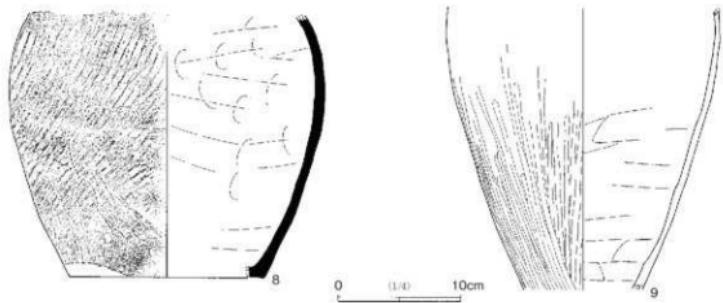
本住居跡は、遺跡中央西端の台地縁部の21J89付近に位置し北壁付近で37号住居跡を切り取る状況で構築されている。したがって、36号住居跡は37号住居跡より後で構築されたことが解る。形状はN65°E方向に主軸のある方形で、規模は2.8m×3.1mである。床面はほぼ平坦で、深さは30cmほどである。柱穴は6本で、深さはそれぞれ約25cm～35cmであり、柱穴の間隔は北壁側で約2.0m、南壁側で約1.7mであるが、南東壁側と南西壁側の柱穴は間に1本加えた3本となっている。住居跡の南西壁沿いには床面から20cmの高さの位置に幅60cmほどの段がある。覆土は、1層（暗茶褐色土）は山砂・焼土粒を含む粒子の粗い軟質土層。2層（暗赤褐色土）は焼土ブロック・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。3層（赤褐色土）は焼土塊・焼土粒を含む粒子の粗い軟質土層。4層（灰黄色土）は第2カマドで、山砂・ローム・暗褐色土を主体とする軟質土層。

カマドは、北東壁の中央に第2カマド、南西壁の北寄りに第1カマドの2基検出されている。第1カマドは、1層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部。2層（暗茶褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部内の堆積土層。3層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。4層（灰白色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする袖部。第2カマドは、1層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む軟質土層。2層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化物・ロームを含む。3層（暗赤褐色土）は焼土塊・焼土粒の堆積土層。

出土遺物は、1は床面直上から検出された土師器杯。体部は口縁部に向かって逆『ハ』字状に直線的に

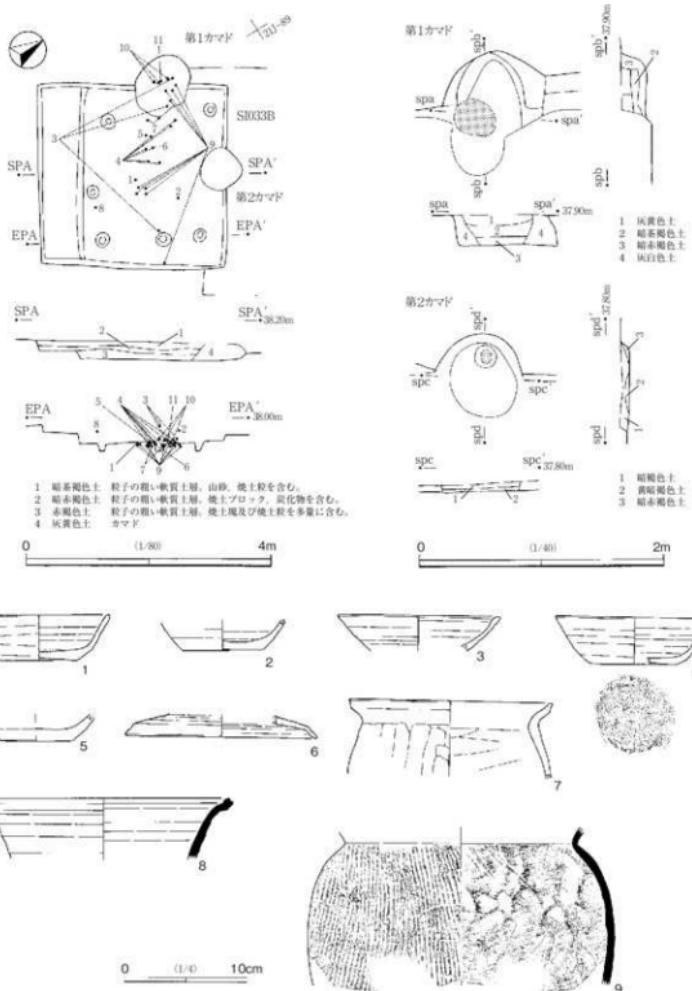


第40図 35号住居跡・出土遺物（1）



第41図 35号住居跡・出土遺物（2）

開く。口縁部11.5cmで、胎土に細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリとなっている。2は口縁部付近を欠損する覆土中から検出された土師器杯。底部径は推定6.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリとなっている。3は第1カマド内及び床面直上から検出された底部付近を欠損する土師器杯。口縁部径は推定13.2cmで比較的口縁部の広い杯で、体部はやや内湾気味に立ち上がる。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部糸切り後手持ちヘラケズリとなっている。4は床面直上から検出された土師器杯。体部は口縁部に向けて逆「ハ」字状に直線的に開く。口縁部径は12.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近回転ヘラケズリ、底部回転糸切りとなっている。5は床面直上から検出された体部上半を欠損する土師器杯。底部径は推定6.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリとなっている。6は床面直上から検出された土師器杯蓋。宝珠付近を欠



第42図 36号住居跡・出土遺物（1）

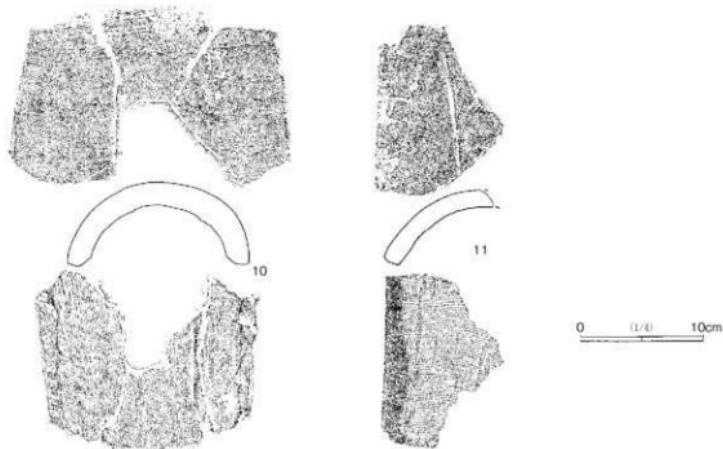
損し、端部は僅かに外傾する。外周部径は推定15.5cm、焼成は良好で、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を少量含む。蓋部外面回転ロクロナデとなっている。7は床面直上から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から緩やかに外反し、口唇部付近は徐々に薄くなる造りとなっている。口縁部径は推定16.4cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ナデとなっている。8は覆土中から検出された口縁部のみ遺存する須恵器甕。口縁部は逆「ハ」字状に直線的に大きく開き、口唇部は折り返しにより厚みを増している。40号住居跡及び44号住居跡出土の須恵器甕と接合関係にある。口縁部径は推定20.5cmで、胎土には細かい石英粒を含む。口縁部外面ロクロナデとなっている。9は第1カマド内出土の口縁部付近及び胴下半部を欠損する須恵器甕。遺存する器高約13.0cmである。胎土には細かい石英粒を及び小粒の黒色粘土粒を含む。胴部外面並行タキ目、内面當て具痕の上からナデとなっている。10・11は第1カマド内から検出された丸瓦である。いずれもカマドの中心部の火床部に直立して検出されており、支脚の代替品として再利用されたものと考えられる。10の遺存する法量は、長さ15.8cm、幅15.7cm、厚さ2.2cm、重量800.0gである。凸面は無文、凹面は布目である。11の遺存する法量は、長さ14.3cm、幅10.3cm、厚さ1.6cm、重量280.0gである。凸面は無文、凹面は布目である。

37号住居跡 (SI033A)

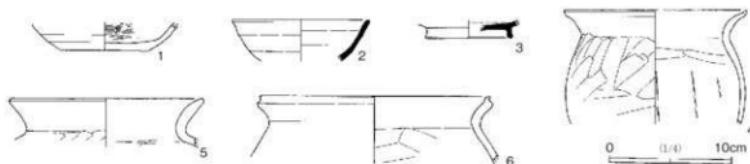
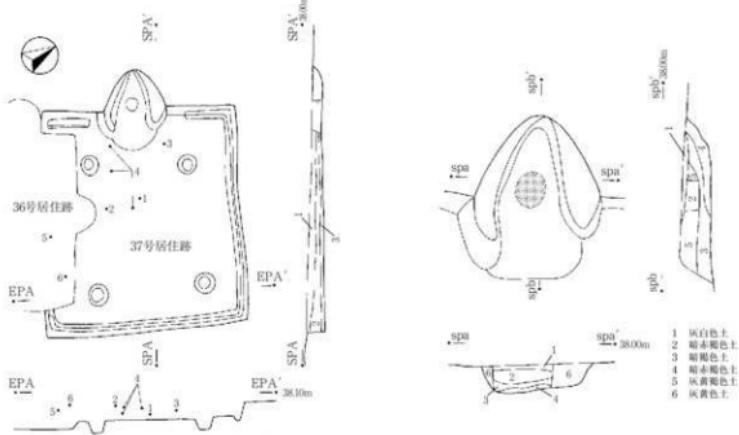
本住居跡は、遺跡中央西端の台地縁部の21J70付近に位置し南西壁付近で36号住居跡に切り取られる状況で構築されている。したがって、37号住居跡は36号住居跡よりも前に構築されてたことが解る。形状はN60°W方向に主軸のある方形で、規模は3.2m×3.5mである。床面はほぼ平坦で、深さは25cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約25cm～30cmであり、柱穴の間隔は東西方向で約2.2m、南北方向で約1.8mである。覆土は、1層（暗褐色土）は粒子の細かい砂質の硬質土層。2層（黄暗褐色土）は大粒の炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。3層（黒褐色土）は焼土粒及び炭化物を多量に含む粒子の粗い軟質土層。4層（黄暗褐色土）はカマドで、山砂・ローム・暗褐色土を主体とする軟質土層。

カマドは、北西壁のほぼ中央に1基検出された。1層（灰白色土）は山砂・白色粘土を主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む掛け口部内の堆積土層。3層（暗褐色土）は炭化物を多量に含む煙道部内の堆積土層。4層（暗赤褐色土）は焼土塊・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。5層（灰黃褐色土）は山砂・ロームを多量に含む天井部の一部。6層（灰黄色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする袖部。

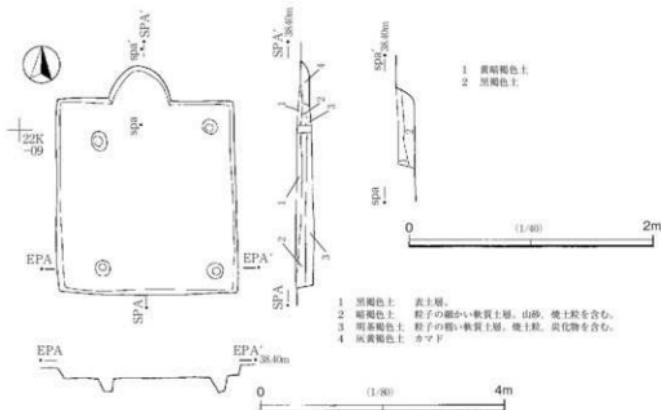
出土遺物は、1は床面直上から検出された体部上半を欠損する土師器杯。底部径は7.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部外面ロクロナデ、内面ミガキ、底部付近及び底部回転ヘラケズリとなっている。2は覆土中から検出された底部付近を欠損する須恵器杯。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる。口縁部径は推定11.1cmで、胎土には細かい石英粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。3は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する須恵器の高台付杯。台部径は推定7.0cmで、胎土には細かい石英粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部は付け高台となっている。4は覆土中から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から緩やかに外反し、器壁は厚めの造りとなっている。口縁部径は推定14.8cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。5は覆土中から検出された口縁部のみ遺存する土師器甕。



第43図 36号住居跡・出土遺物（2）



第44図 37号住居跡・出土遺物



第45図 38号住居跡

口縁部は胴部から『く』字状に外反し、口唇部はきわめて薄く摘みあげられている。口縁部径は推定15.6cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。6は覆土中から検出された口縁部のみ遺存する土師器甕。口縁部は緩やかであるが大きく外反する。口縁部径は推定18.8cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を少量含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。

38号住居跡 (SI034)

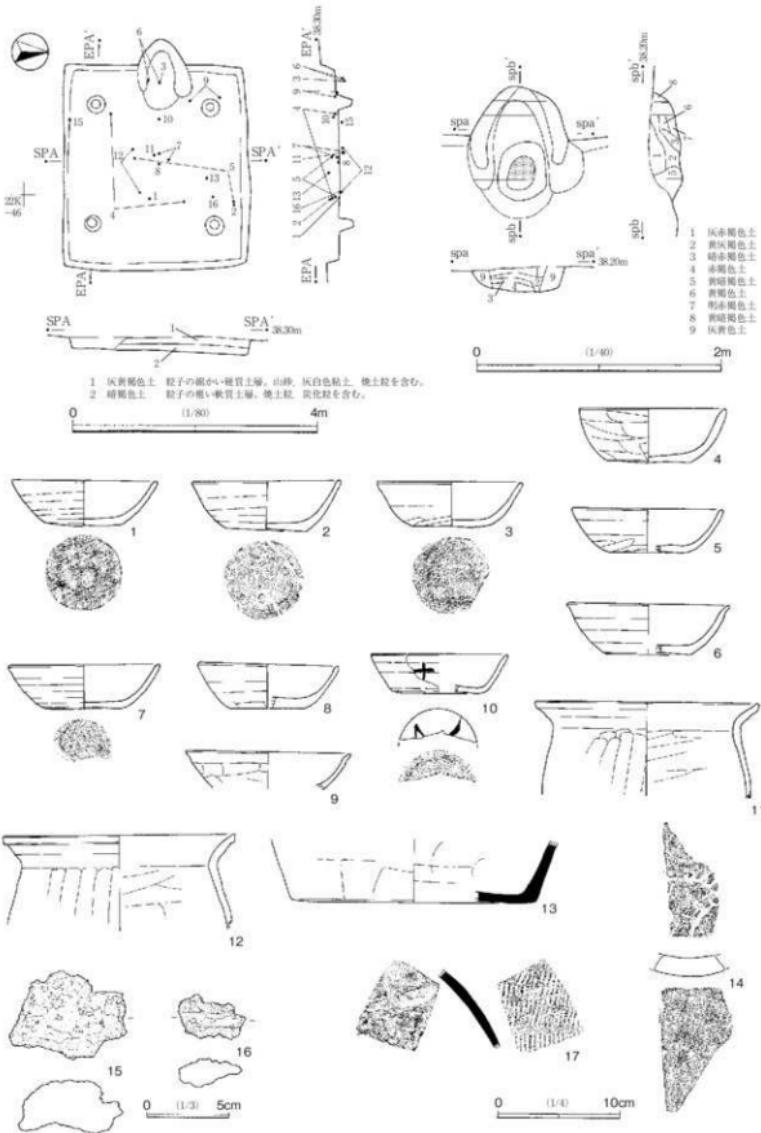
本住居跡は、遺跡中央平坦部の22L00に位置している。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は3.2m × 3.0mである。床面はほぼ平坦で、深さは25cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約25cm～30cmであり、柱穴の間隔は東西方向で約1.9m、南北方向で約2.0mである。覆土は、1層（黒褐色土）は耕作土層。2層（暗褐色土）は山砂・焼土粒を含む粒子の細かい軟質土層。3層（明茶褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。4層（灰黄褐色土）はカマドで、山砂・ローム・暗褐色土を主体とする軟質土層。

カマドは、北壁のほぼ中央に1基検出されたが、遺存状態は悪く袖部も遺存しない。1層（黄暗褐色土）は山砂・ローム・暗褐色土を主体とする天井部の一部。2層（黒褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部内の堆積土層。

出土遺物のうち実測可能なものは無い。

39号住居跡 (SI035)

本住居跡は、遺跡南部中央平坦部の22K-36付近に位置している。形状は南北方向に主軸のある方形で、

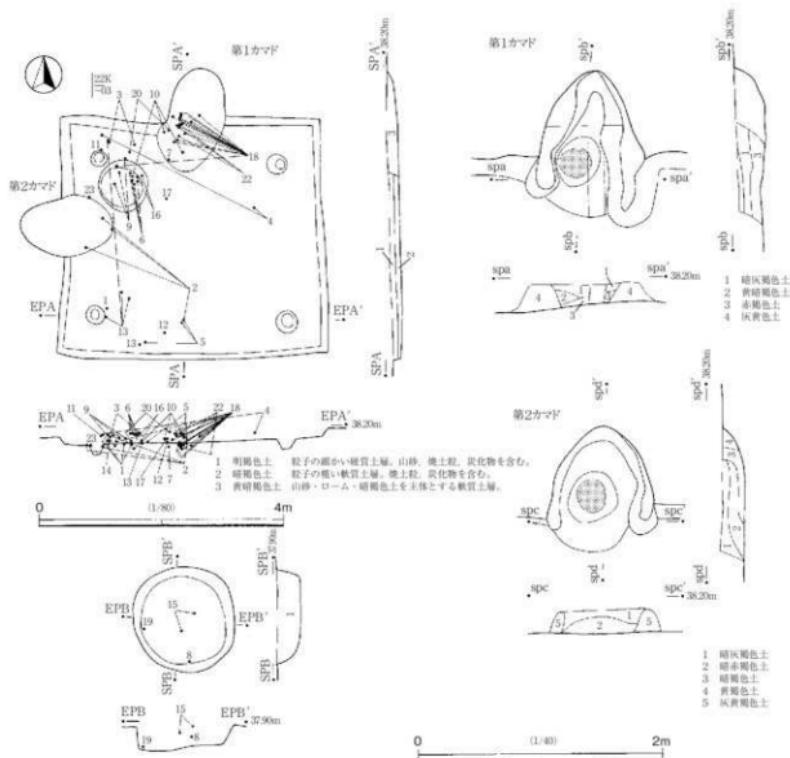


第46図 39号住居跡・出土遺物

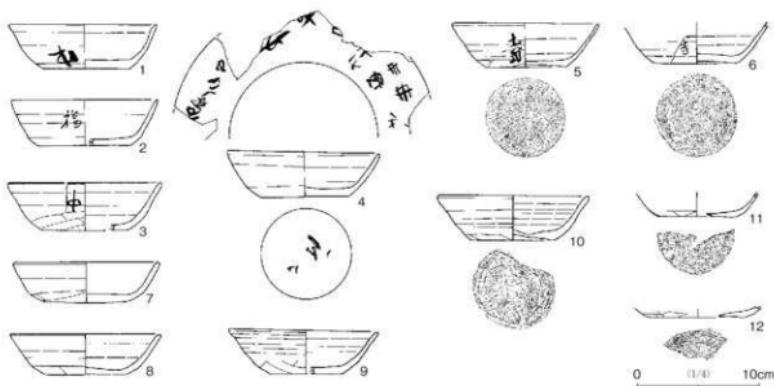
規模は3.4m×3.1mである。床面はほぼ平坦で、深さは30cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約30cm～40cmであり、柱穴の間隔は約2.0mである。覆土は、1層（灰黄褐色土）は山砂・灰白色粘土・焼土粒を含む粒子の細かい硬質土層。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層。覆土は東西方向のトレントによる搅乱を受けている。

カマドは、西壁のほぼ中央に1基検出された。南北方向に並行して走るトレントにより搅乱を受けているが、他の部分の遺存状態は良好である。1層（灰赤褐色土）は山砂・焼土粒を主体とする天井部。2層（灰黄褐色土）は山砂・焼土粒・炭化粒を含む煙道内の堆積土層。3層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を多量に含む煙道部内の堆積土層。4層（赤褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。5層（黄暗褐色土）は山砂・焼土粒・暗褐色土を主体とする天井部の出土層。6層（黄褐色土）はローム・白色粘土塊を含む天井部の崩落土層。7層（明赤褐色土）は大粒の焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。8層（黄暗褐色土）はローム・山砂塊を含む煙道の奥壁。9層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする袖部。

出土遺物は、1は床面直上から検出された完形の土師器杯。体部は口縁部に向かって緩やかに内湾しながら立ち上がる。口縁部径は11.9cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。2は覆土中から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がる。口縁部径は12.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部付近回転ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。3はカマド内から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がる。口縁部径は11.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部付近手持ちヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。4は床面直上から検出された土師器杯。体部は口縁部に向かって緩やかに内湾しながら立ち上がる。口縁部径は推定12.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部外面ヘラケズリ、底部ヘラケズリとなっている。5は覆土中から検出された土師器杯。体部は口縁部に向かって緩やかに内湾しながら立ち上がる。口縁部径は推定12.3cmで、胎土に細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部付近手持ちヘラケズリ、底部回転糸切り後手持ちヘラケズリとなっている。6はカマド内から検出された土師器杯。体部は口縁部に向かって緩やかに内湾しながら立ち上がり、口唇部は小さく外に摘み出されている。口縁部径は推定13.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリとなっている。7は床面直上から検出された土師器杯。口縁部径は推定12.2cm、器高3.7cm、底部径は推定6.6cmで、やや扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。8は床面直上から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、底部の器壁がやや厚めの造りとなっている。口縁部径は推定11.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部付近手持ちヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。9は床面直上から検出された底部付近を欠損する土師器杯。体部は口縁部に向かって緩やかに内湾しながら立ち上がり、口唇部は小さく外に摘み出されている。口縁部径は13.4cmで、胎土に細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ。体部外面ヘラケズリとなっている。10はカマド付近の床面直上から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がる。口縁部径は推定11.1cm、底部径は推定6.4cmで、箱形の器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面



1. 黄褐色土 粒子の細かい砂質土層。プロック状のローム及び炭化物を含む。



第47図 40号住跡・出土遺物 (1)

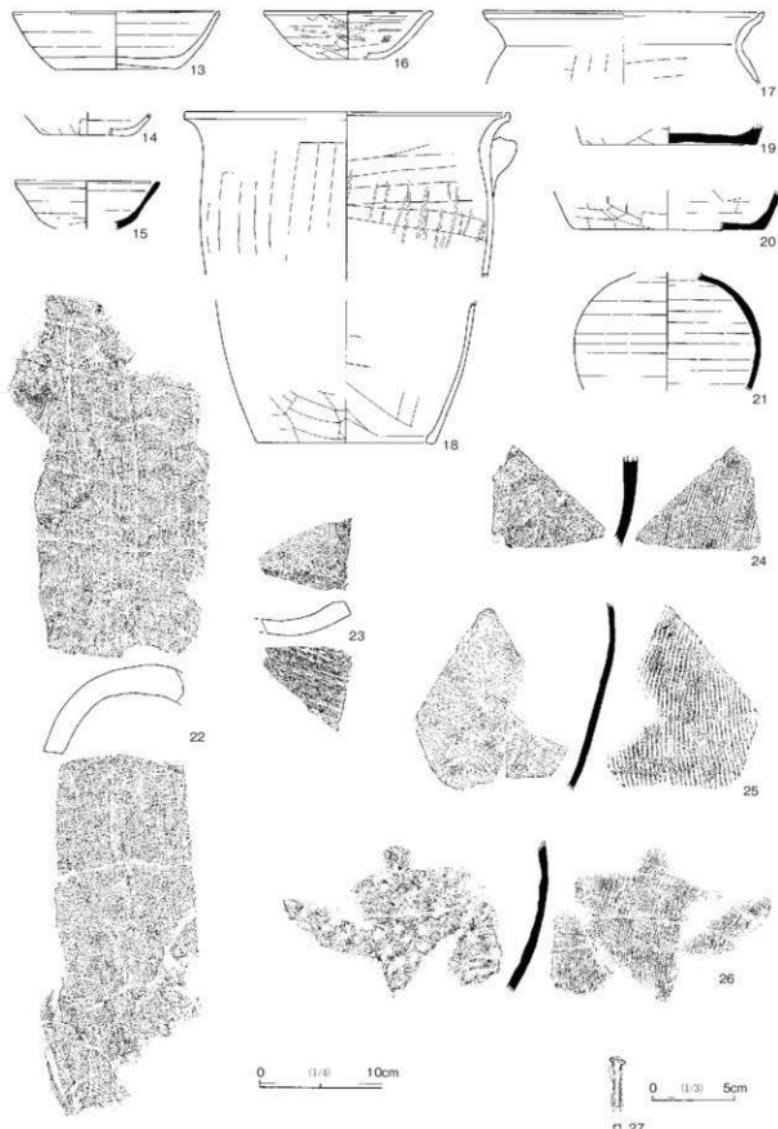
ロクロナデ、底部回転糸切り後端部回転ヘラケズリとなっている。また、体部外面及び底部内面には墨書が観られる。11は床面直上から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から「く」字状に大きく外反する。口縁部径は推定18.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。12は床面直上から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から「く」字状に外反する。口唇部は折り返しによりやや厚めで外面をロクロナデにより平坦に整えている。口縁部径は推定19.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。13は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する須恵器甕。底部径は推定20.0cmで、胎土には細かい石英粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。胴部外面並行タタキ目で底部付近はヘラケズリ、内面ヘラナデ、底部ヘラナデとなっている。14は覆土中から検出された一括取り上げの平瓦。凸面は無文、凹面は布目となっている。遺存する法量は長さ10.6cm、幅5.8cm、厚さ1.5cm、重量98gである。15・16は床面直上から検出されたスラグ。15は重量153.6g、16は重量14.3gである。17は覆土中から検出された一括取上げの須恵器甕。焼成は良好で、胎土に細かい石英粒を多量に含む。胴部外面は並行タタキ目、内面は当て具痕の上からナデとなっている。

40号住居跡 (SI036)

本住居跡は、遺跡南部中央の平坦部の22K03付近に位置している。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は4.4m×4.0mである。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く20cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約30cm～40cmであり、柱穴の間隔は東西方向で約3.2m、南北方向で約2.6mである。覆土は、1層（明褐色土）は山砂・焼土粒・炭化物を含む粒子の細かい硬質土層。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。3層（黄暗褐色土）は山砂・ローム・暗褐色土を主体とする第1カマド。第1カマドと第2カマドに挟まれた北西角付近には長軸1.8m、短軸1.6m、深さ4.0mほどの小土坑が存在する。小土坑の覆土は1層（暗褐色土）は粒子の粗い軟質土層で、ブロック状のローム及び炭化物を含む。

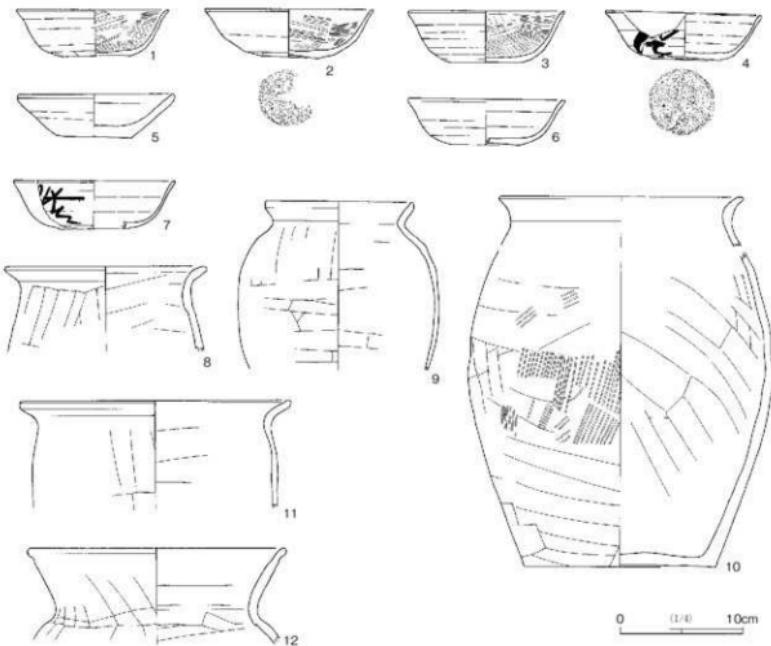
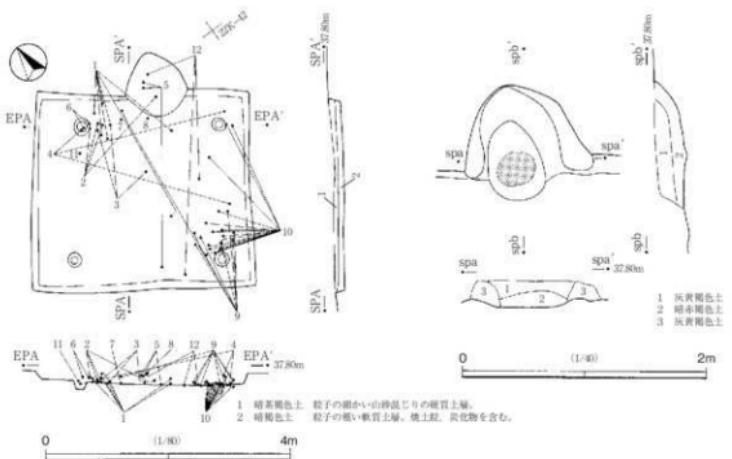
カマドは、北壁の中央に第1カマド、西壁の中央に第2カマドの2基のカマドが検出された。第1カマドは東西方向及び南北方向のトレッシャーにより搅乱を受けているが、比較的の遺存状態は良好である。1層（暗灰褐色土）は山砂・暗褐色土を主体とする天井部。2層（暗暗褐色土）は山砂・ロームを含む天井部の崩落土層。3層（赤褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む火床部。4層（灰黄色土）は山砂・ロームを主体とする袖部。第2カマドは1層（暗灰褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。3層（暗褐色土）は炭化粒を多量に含む煙道部内の堆積土層。4層（黄褐色土）は煙道部の奥壁。5層（灰黄褐色土）は山砂・ロームを主体とする袖部。

出土遺物は、1は床面直上から検出された土師器杯。口縁部径12.0cmに対して、器高4.7cm、底部径7.0cmのやや扁平な器形である。胎土に細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリとなっている。体部外面には墨書「中」が観られる。2は第2カマド内及び床面直上から検出された土師器杯。口縁部径推定12.0cm、器高3.7cm、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。体部外面には墨書「福」が観られる。3は床面直上及び覆土中から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がる。口縁部径は推定12.4cm、器高3.9cm、底部径推定7.0cmで扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小



第48図 40号住居跡・出土遺物（2）

粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。体部外面には墨書『中』が観られる。4は床面直上及び覆土中から検出された土師器杯。法量は口縁部径推定12.0cm、器高3.9cm、底部径7.2cmで扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。体部外面及び底部外面には墨書が観られ、特に体部外面の墨書は口縁部及び底部と平行に体部を一周する何らかの文言である可能性が高い。5は床面直上から検出された土師器杯。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる。口縁部径は12.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。体部外面に墨書が観られる。6は覆土中から検出された口縁部付近を欠損する土師器杯。底部径は6.9cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。体部外面に墨書『寺』が観られる。7は第1カマド内から検出された土師器杯。口縁部径11.7cm、器高3.4cm、底部径6.7cmで扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。8は床面直上から検出されたほぼ完形の土師器杯。口縁部径12.1cm、器高3.7cm、底部径5.9cmで扁平の器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。9は床面に掘り込まれた小土坑内出土の土師器杯。口縁部径推定12.2cm、器高3.3cm、底部径6.9cmで扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。10は第1カマド内及び床面直上から検出された土師器杯。口縁部径12.2cm、器高3.7cm、底部径7.0cmで扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。11は覆土中から検出された底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は推定6.4cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。12は床面直上から検出された底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は推定8.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。13は床面直上から検出された土師器杯。口縁部推定16.8cm、器高約4.7cm、底部径推定9.9cmでやや大型で扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリとなっている。14は床面直上から検出された口縁部付近を欠損する土師器杯。底部径は推定7.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。15は床面に掘り込まれた小土坑から検出された底部付近を欠損する須恵器杯。口縁部径は11.8cmで、胎土には細かい石英粒及び小粒の白色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。16は床面に掘り込まれた小土坑上から検出された土師器杯。口縁部径推定13.6cmに対して底部径推定5.7cmで底部に比べて口縁部の開きの大きい器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。17は覆土中から検出された胴部3/2以下を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から「コ」字状の屈曲部を有し、大きく外反する武藏型の特徴が観られる。口縁部径は推定22.9cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨ



第49図 41号住居跡・出土遺物

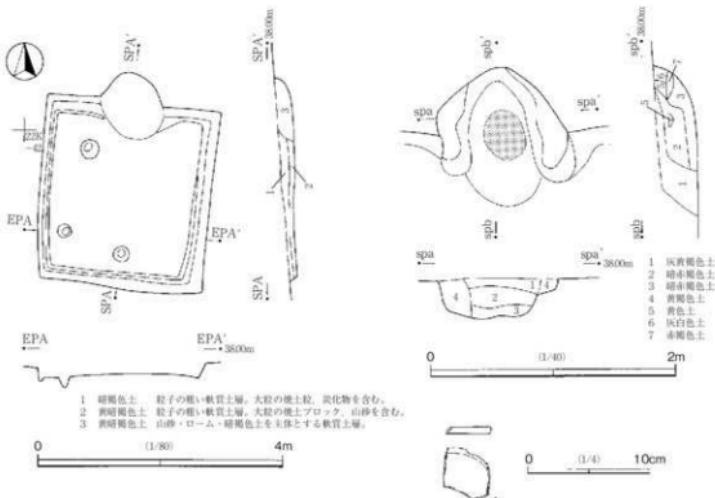
コナデ。胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。18は第1カマド内及び床直上から検出された胴部の一部を欠損する土師器皿。口縁部は胴部から小さく外反し、口唇部は僅かに上に摘みあげられている。口縁部径は推定26.6cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ。胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。19は床直上に掘り込まれた小土坑内から検出された底部付近のみ遺存する須恵器甕。底部径は14.3cmで、胎土には細かい石英粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。20は第1カマド内及び床直上から検出された底部付近のみ遺存する須恵器甕。底部径は15.5cmで、胎土には細かい石英粒及び細かい金雲母片を含む。胴部外面ヘラケズリ、内面ナデとなっている。21は覆土中から検出された一括取り上げの須恵器壺の胴部破片。胎土には細かい石英粒を多量に含む。胴部内外面ロクロナデとなっている。22は第1カマド内から検出された丸瓦。凸面は無文、凹面は布目となっている。遺存する法量は長さ29.9cm、幅13.8cm、厚さ2.5cm、重量1,150.0gである。23は第2カマド裾部付近から検出された平瓦。凸面は無文、凹面は布目となっている。遺存する法量は長さ6.6cm、幅7.6cm、厚さ1.5cm、重量84.0gである。24～26は覆土中から検出された一括取り上げの須恵器甕。いずれの胴部の破片で、外面は並行タタキ目、内面は当て具の上からナデとなっている。27は覆土中から検出された一括取り上げの鉄釘。遺存する法量は長さ3cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、重量28gである。

41号住居跡（SI037）

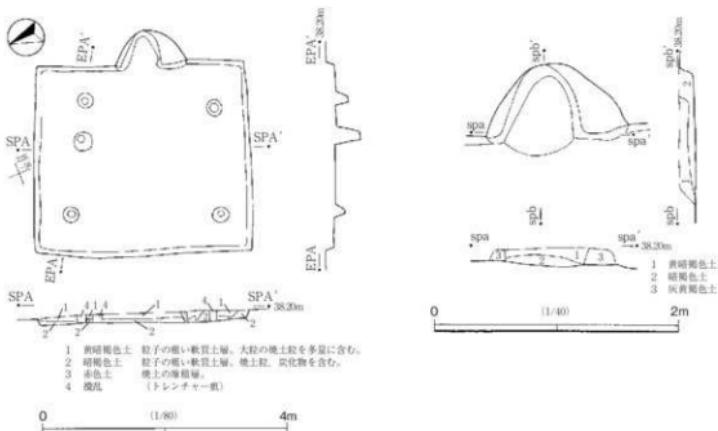
本住居跡は、遺跡南部西端の平坦部22K42付近に位置する。形状はN45°E方向に主軸のある方形で、規模は3.3m×3.6mである。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く20cmほどである。柱穴は4本で、深さはそれぞれ約30cm～35cmであり、柱穴の間隔は東西方向で約22m、南北方向で約2.4mである。覆土は、1層（暗茶褐色土）は粒子の細かい山砂混じりの硬質土層。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。

カマドは、北東壁のほぼ中央に1基検出された。1層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む煙道部内の堆積土層。3層（灰黄褐色土）は山砂・ロームを主体とする袖部。

出土遺物は、1は床直上から検出されたほぼ完形の土師器杯。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、口唇部は僅かに外反する。口縁部径は12.3cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部付近ヘラケズリ、内面ミガキで黒色処理されている。底部手持ちヘラケズリとなっている。2は床直上及び覆土中から検出された土師器杯。口縁部径は13.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部付近ヘラケズリ、内面ミガキで黒色処理されている。底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。3は床直上から検出された土師器杯。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる。口縁部径は12.5cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部回転糸切りとなっている。また、体部外面には墨書きが観られるが欠損部分により判読不明である。5はカマド内及び床直上から検出された土師器杯。口縁部径12.6cm、器高3.7cm、底部径6.1cmで底



第50図 42号住居跡・出土遺物



第51図 43号住居跡

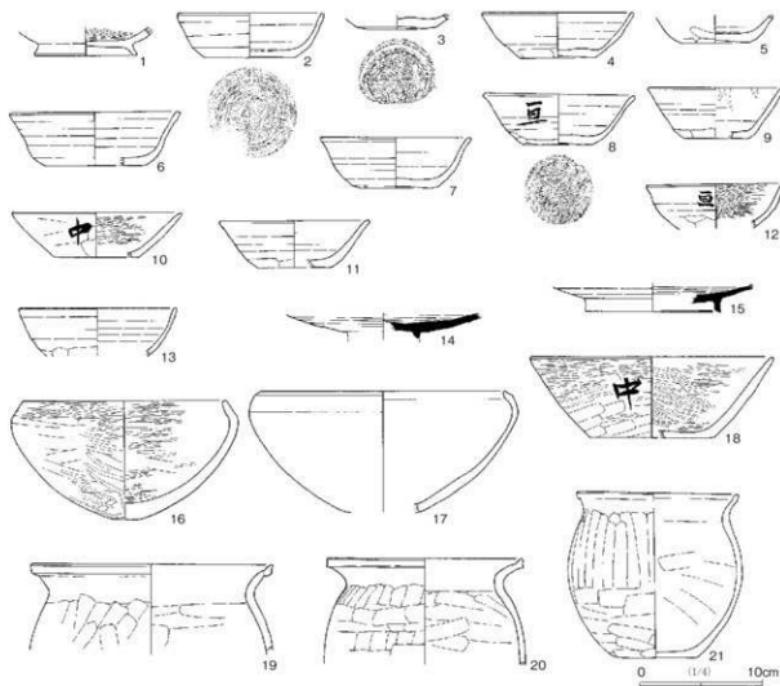
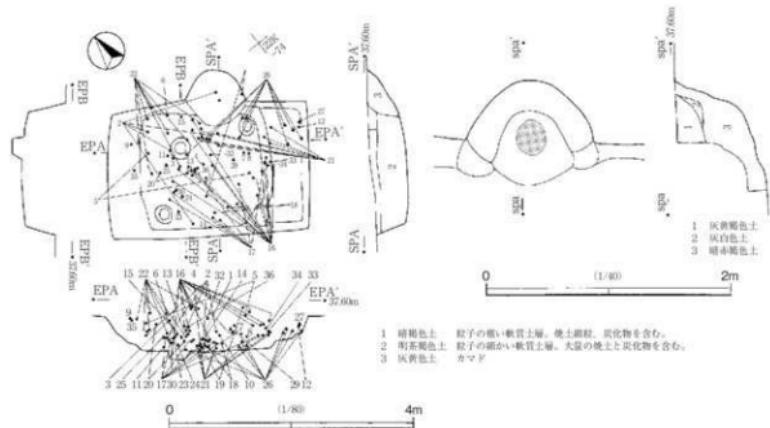
部径に比べて口縁部径が大きく浅い器形となっている。胎土に細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリとなっている。6は床面直上から検出された土師器杯。体部は緩やかに内湾気味に立ち上がり、口唇部は若干外反する。口縁部径は推定12.7cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。7は床面直上から検出された土師器杯。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、口唇部は先端部分で丸みを帯び、僅かに外反する。口縁部径は推定13.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ。底部回転糸切りとなっている。8はカマド付近の覆土中から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から小さく外反し、口唇部は折り返しによりやや厚みがある。口縁部径は16.2cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。9は床面直上から検出された底部付近を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から「く」字状に大きく外反する。口縁部径は推定12.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。10は床面直上から検出された底部付近を欠損する遺存度50%の土師器甕。口縁部は胴部から小さく外反する。口縁部径推定19.6cm、底部径15.6cmで、比較的底部の大きな造りとなっている。胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面並行タタキ後のヘラケズリ、内面ヘラナデ、底部ヘラナデとなっている。11は床面直上から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から大きく外反する。口縁部径は21.9cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。12は床面直上から検出された口縁部付近のみ遺存する土師器甕。口縁部は他の土師器甕に比べて大型で、胴部から直線的に外傾する。口縁部径は推定20.9cmで、口縁部の立ち上がりが大きく約6.0cmほどである。胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ナデとなっている。

42号住居跡 (SI038)

本住居跡は、遺跡南部西端の平坦部22K42付近に位置する。形状はN35°E方向に主軸のある方形で、規模は3.3m×3.7mである。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く20cmほどである。柱穴は西壁沿いで2本、南壁沿いのはば中央で梯穴と思われる1本の計3本が検出された。深さはそれぞれ約25cm～30cmである。覆土は、1層（暗褐色土）は大粒の焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黄暗褐色土）は大粒の焼土ブロック・山砂を含む粒子の粗い軟質土層。3層（黄暗褐色土）は山砂・ローム・暗褐色土を主体とするカマド。

カマドは、北壁の中央に1基検出された。1層（灰黄褐色土）は山砂・ローム・暗褐色土を主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化粒を含む煙道部内の堆積土層。3層（暗赤褐色土）は焼土塊・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。4層（黄暗褐色土）は山砂・ロームを主体とする袖部。5層（黄色土）は煙出し部付近のロームの流入土層。6層（灰白色土）は天井部または煙道部奥壁の白色粘土流入土層。7層（赤褐色土）は煙出し部付近の焼土の堆積層。

出土遺物は、1は覆土中から検出された一括取り上げの土師器杯の底部片。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。



第52図 44号住跡・出土遺物（1）

43号住居跡（SI039）

本住居跡は、遺跡南部中央の平坦部22K58付近に位置する。形状はS68°W方向に主軸のある方形で、規模は3.0m×3.6mである。床面はほぼ平坦で、深さは比較的浅く20cmほどである。柱穴は北壁沿いで3本、南壁沿いで2本検出された。深さはそれぞれ約30cm～45cmである。覆土は、1層（黄暗褐色土）は大粒の焼土粒を多量に含む粒子の粗い軟質土層。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。3層（赤色土）は焼土を主体とする堆積土層。覆土は東西方向のトレッシャーにより搅乱を受けている。

カマドは、東壁の中央に1基検出された。1層（黄暗褐色土）は山砂・ロームを主体とする天井部。2層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。3層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする袖部。

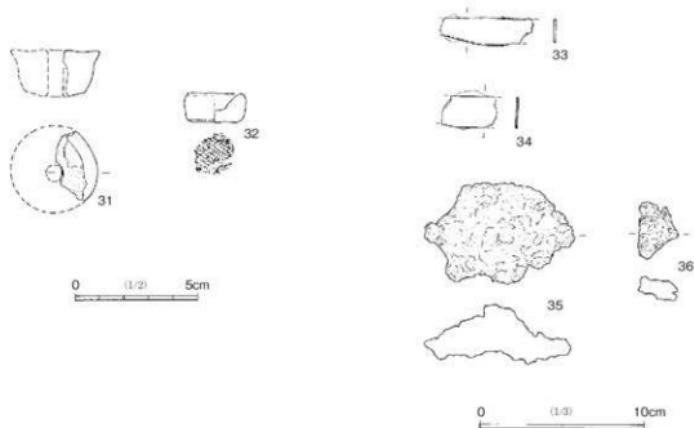
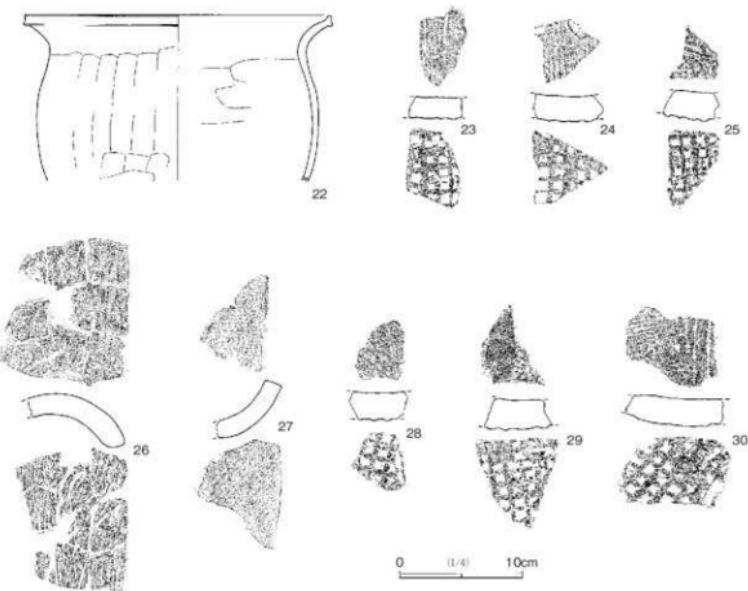
出土遺物のうち実測可能なものは無い。

44号住居跡（SI040）

本住居跡は、遺跡最南端22K74付近の緩やかな傾斜面に位置する。形状はN50°E方向に主軸のある方形で、規模は2.3m×3.3mで比較的小型の住居跡である。床面はほぼ平坦であるが東西の壁面は緩やかですり鉢状に落ち込んでいる。深さは比較的深く60cmほどで床面は一段低く掘り込まれている。検出された柱穴は3本で深さはそれぞれ約30cm～40cmである。覆土は、1層（暗褐色土）は焼土細粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。2層（明茶褐色土）は大量の焼土・炭化物を含む粒子の細かい軟質土層。3層（灰黄色土）は山砂・ロームを主体とするカマド。

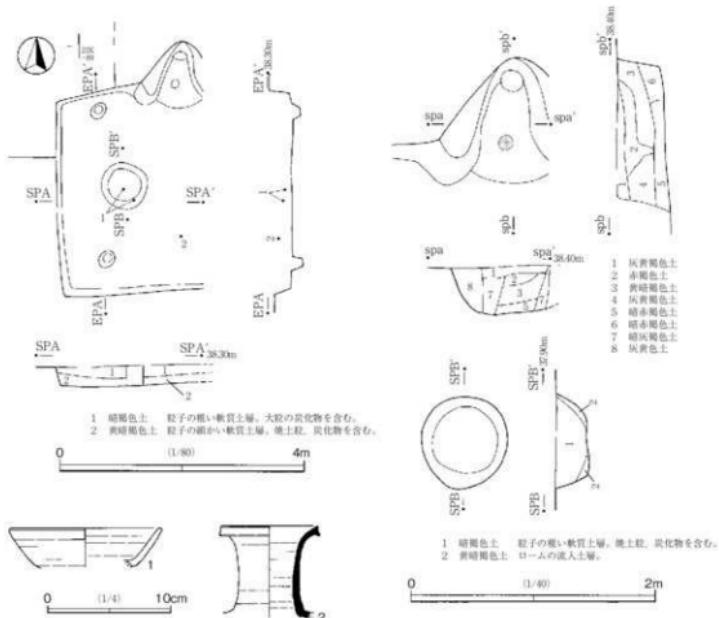
カマドは、焚き口部付近は流出しており、壁面に掘り込んだ部分のみ遺存している。1層（灰黄褐色土）は山砂・ロームを主体とする天井部。2層（灰白色土）は天井部の一部と思われる白色粘土。3層（暗赤褐色土）は焼土塊・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。

出土遺物は、本住居跡の規模が比較的小型であるにもかかわらず、きわめて多量の遺物が検出されている。1は床面付近の覆土最下層から検出された底部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。底部には短い高台が「ハ」字状に付けられている。底部径は推定8.3cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキで黒色処理されている。2はカマド内及び覆土下層から検出された土師器杯。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、口縁部径11.9cm、底部径約7.5cmで、口縁部径と底部径にあまり差の無い箱形の器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリとなっている。3は覆土中層から検出された底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は6.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切りとなっている。4は床面直上及び覆土最下層から検出された土師器杯。口縁部12.4cm、底部径6.3cmで、底部に比べて口縁部のやや広い器形で、体部は直線的に立ち上がる。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。5は覆土中層から検出された体部上半を欠損する土師器杯。底部径は5.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。6は覆土中層から検出された土師器杯。体部はやや外反気味に立ち上がり、口縁部径13.9cm、底部径8.0cmで、口縁部径と底部径に差の無い箱形の器形である。焼成は良好で、胎土に細かい白色粒を多量に含み小粒の赤色粘土粒を少量含む。体部内外面ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリとなつて



第53図 44号住居跡・出土遺物（2）

いる。7は覆土下層から検出された土師器杯。体部は下半部では内湾し、上半部では緩やかに外反する。口縁部径は推定12.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。8は覆土下層から検出された完形の土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、口唇部は先端部分が僅かに外反する。口縁部径は12.3cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。また、体部外面に墨書「亘」が観られる。9は覆土中層から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、底部と体部の境は明瞭な角を有し逆台形の器形である。口縁部径は推定11.0cm、底部径は推定7.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリとなっている。10はカマド内から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、底部と体部の境は明瞭な角を有し逆台形の器形である。口縁部径は推定13.9cm、底部径は7.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部外面ヘラケズリ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリ、内面丁寧なミガキとなっている。また、体部外面に墨書「中」が観られる。11は床面直上及び覆土最下層から検出された土師器杯。体部は器壁がやや厚めで、直線的に立ち上がる。口縁部径は推定12.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。12は東壁付近の覆土下層から検出された底部付近を欠損する土師器杯。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる丸みを帯びた器形であることから、底部付近を欠損するため断定はできないが、台付杯の可能性もある。口縁部径は推定11.3cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、内面ミガキで黒色処理されている。また、体部外面に墨書「亘」が観られる。13は覆土下層から検出された土師器杯。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる丸みを帯びた器形であることから、底部付近を欠損するため断定はできないが、12と同様に台付杯の可能性もある。口縁部径は12.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。14・15は須恵器の盤で底部には短い台部が付く。14は覆土最下層から検出された底部付近のみ遺存する須恵器盤。底部径推定5.7cmで、胎土に細かい石英粒を多量に含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転ロクロナデとなっている。15はカマド内及び床面直上から検出された底部付近のみ遺存する須恵器盤。底部径推定11.1cmで、胎土には細かい石英粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部ロクロナデとなっている。16は覆土上層から覆土最下層に流れるような分布を示す土師器鉢。口縁部と体部の境に最大径を有する。底部は僅かな平坦面として造り出されている。口縁部径は推定約16.4cm、器高9.7cm、体部最大径18.4cm、底部2.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部外面細く繊細なヘラケズリ、内外面は丁寧なミガキで黒色処理されている。17は覆土下層から検出された底部付近を欠損する土師器鉢。口縁部径は推定20.0cm、遺存する器高約9.9cm、体部最大径は22.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。なお、16・17は鉄鉢や瓦鉢の代替品である可能性もある。18は覆土最下層から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、底部と体部の境は明瞭な角を有し逆台形の器形である。口縁部径は推定19.8cm、器高6.6cm、底部径は推定10.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部外面ヘラケズリ後のミガキ、内面ミガキ、手持ちヘラケズリとなっている。また、体部には墨書「中」が観られる。19は床面直上及び覆土中層から検出された胴部2/3以下を欠損する土師器壺。口縁部は緩やかに外反し、口唇部は折り返し



第54図 45号住居跡・出土遺物

により厚みを増しており、先端を上に摘みあげている。口縁部径は推定18.8cmで、胎土に細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。20は覆土中層から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。法量は口縁部径16.0cm、遺存する器高約8.7cm、胴部最大径16.4cmである。焼成は良好で、胎土に細かい長石粒を多量に含み小粒の赤色粘土粒を多量に含む。口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。21は覆土最下層から検出された土師器の小型甕。口縁部は胴部から「く」字状に外反する。口縁部径は13.2cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。22は覆土中層から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から緩やかに外湾ぎみに立ち上がり、口唇部は折り返しにより厚みを増した造りとなっており、先端を上に摘みあげられている。口縁部径は推定24.8cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。23～25・28～30は、覆土下層から検出された凸面正格子タタキ目、凹面は布目の平瓦である。遺存する法量は、23は長さ7.4cm、幅4.7cm、厚さ1.8cm、重量68.0g。24は長さ6.7cm、幅6.0cm、厚さ2.1cm、重量77.0g。25は長さ6.4cm、幅4.8cm、厚さ2.3cm、重量66.0g。28は長さ5.4cm、幅5.7cm、

厚さ2.3cm、重量66.0g。29は長さ7.5cm、幅7.1cm、厚さ2.5cm、重量116.0g。30は長さ7.1cm、幅8.5cm、厚さ2.2cm、重量161.0g。26は覆土下層から検出された凸面無文、四面布目の丸瓦。端部は丸みを帯びた緩やかな面取りとなっている。法量は長さ9.3cm、幅12.5cm、厚さ1.9cm、重量271.0g。27は東壁付近の覆土下層から検出された凸面・凹面とともに布目の平瓦である。端部は丁寧な平坦面に仕上げられている。法量は長さ6.8cm、幅8.9cm、厚さ1.5cm、重量104.0g。31は覆土中層から検出された一括取り上げの土製紡錘車片。遺存する法量は長径推定3.6cm、短径推定2.6cm、厚さ2.1cm、重量6.6gである。32は覆土中層から検出された手捏土器で、法量は口縁部径2.4cm、器高1.2cm、底部径2.2cmである。33・34は覆土中層から検出された鉄製刀子片である。遺存する法量、33は長さ5.7cm、幅1.4cm、厚さ0.1cm、重量5.3g。34は長さ3.4cm、幅1.8cm、厚さ0.1cm、重量3.9g。35・36は覆土中層から検出されたスラグ。35は重量152.0g。36は重量11.6g。

45号住居跡（SI041）

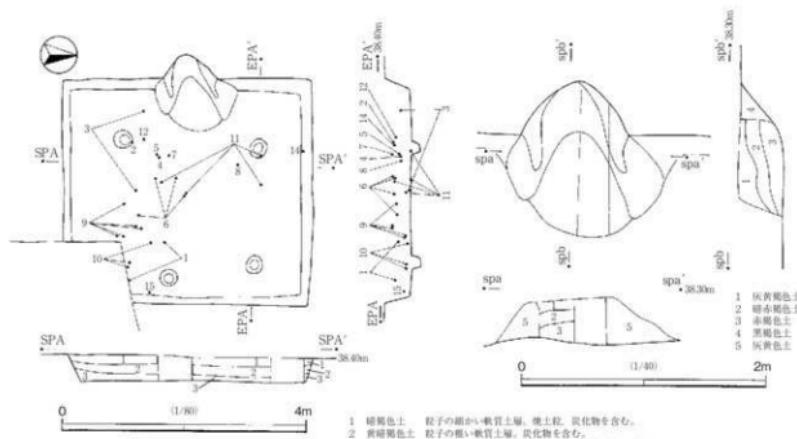
本住居跡は、遺跡南部東端の平坦部22K89付近に位置する。形状は南北方向に主軸のある方形で、規模は2.3m×3.3mである。本住居跡の東側半分は調査範囲外のため詳細は不明である。また、北西角付近で46号住居跡を切り取る状況で構築されており、45号住居跡は46号住居跡よりも後に構築されたことが解る。床面は平坦で、深さは58cmほどである。柱穴は西壁沿いに2本検出され深さはそれぞれ20cm～25cm、柱穴の間隔は2.4mである。覆土は、1層（暗褐色土）は大粒の炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の細かい軟質土層。覆土は南北方向のトレッシャーにより搅乱を受けている。床面には西壁沿いの柱穴の中間に小土坑が検出された。小土坑の規模は、長軸1.6m、短軸1.4m、深さ0.5mである。小土坑の覆土は、1層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黄暗褐色土）はロームの流入土層。

カマドは、北壁に1基検出されたが、東側の袖部の一部が調査範囲外となっている。1層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする天井部。2層（赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む煙道部内の堆積土層。3層（黄暗褐色土）はローム・焼土粒・炭化粒を主体とする煙道部内の堆積土層。4層（灰黄褐色土）は山砂・ロームを主体とする焚き口部の堆積土層。5層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む火床部上の堆積土層。6層（暗赤褐色土）は大粒の焼土塊・炭化物を含む火床部上の堆積土層。7層（暗灰褐色土）は山砂・ロームを主体とする袖部の一部。8層（灰黄色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする袖部。

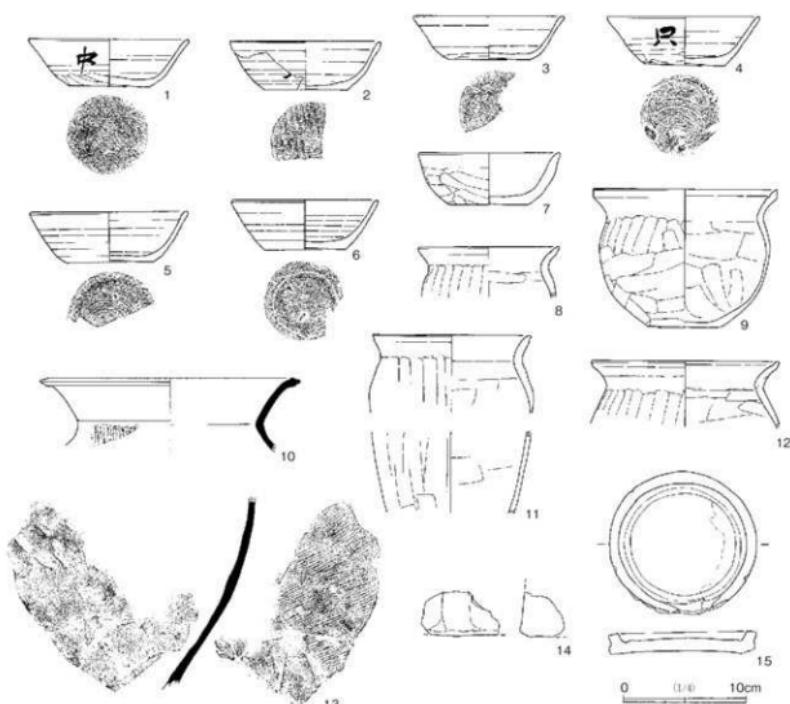
出土遺物は、1は覆土中から検出された底部付近を欠損する土師器杯。口縁部径は推定12.4cm、遺存する器高約3.7cmで、器高に比べて口縁部径が広い扁平な器形となっている。胎土に細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。2は覆土中から検出された口頸部のみ遺存する須恵器長頸壺。口縁部径は推定8.0cm、口頸部約7.5cmで、胎土には細かい石英粒を含む。頸部内外面ロクロナデ、口唇部は折り返しにより厚みを造り出し、外面を平坦面に調整している。

46号住居跡（SI042）

本住居跡は、遺跡南部東端の平坦部22L40付近に位置する。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は3.7m×4.1mである。床面は平坦で、深さは58cmほどである。南東角を45号住居跡に切り取られる状況で構築され、45号住居跡の方が床面深度が浅いため46号住居跡が埋没後に45号住居跡が構築されたことが



1 砂黄褐色土
2 黄褐色土
3 黄褐色土
4 黑褐色土
5 黄褐色土

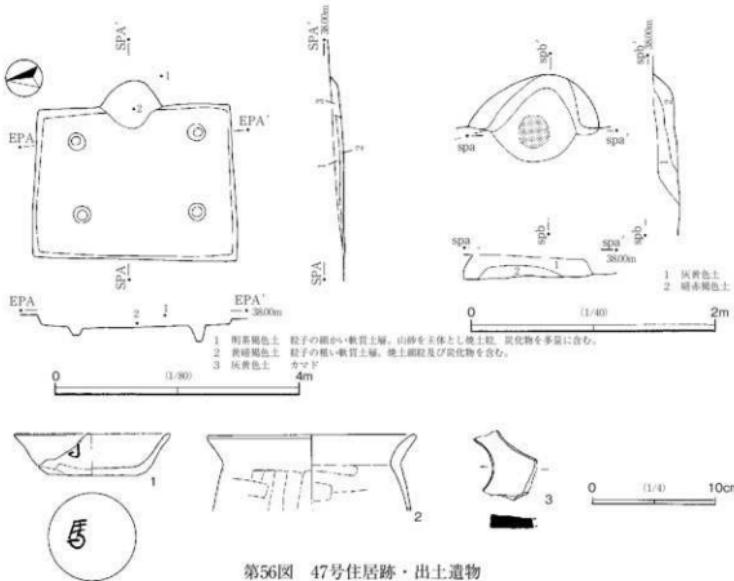


第55図 46号住居跡・出土遺物

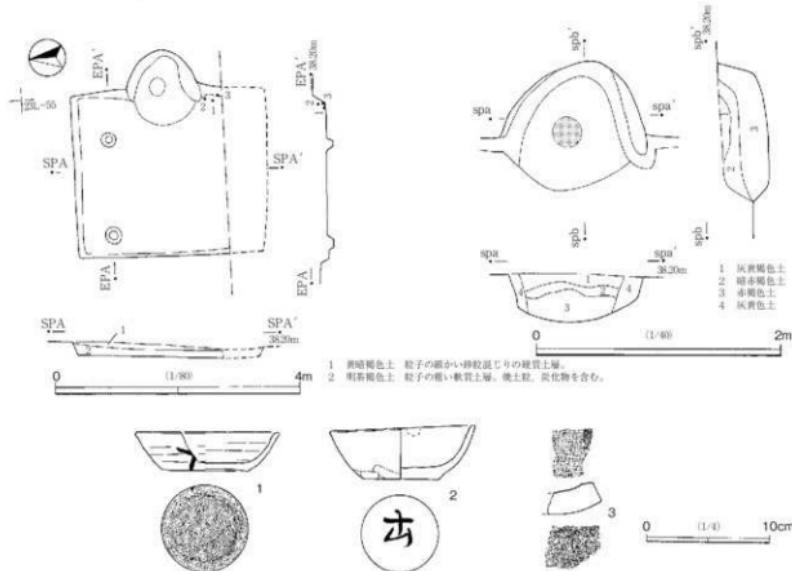
解る。柱穴は西壁沿いに2本検出され深さはそれぞれ20cm～25cm、柱穴の間隔は2.4mである。覆土は、1層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の細かい軟質土層。2層（黄暗褐色土）は炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。3層（黄暗褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む粒子の粗い軟質土層。覆土は東西方向のトレンチャーにより搅乱を受けている。

カマドは、北壁に1基検出されたが、東側の袖部の一部が調査範囲外となっている。また、中央部を東西に走るトレンチャーにより搅乱を受けているが、他の部分の遺存状態は良好である。1層（灰黄褐色土）は山砂・白色粘土・ロームを主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む煙道部内の堆積土層。3層（赤褐色土）は焼土粒・炭化物を主体とする火床部上の堆積土層。4層（黒褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む煙道部奥壁の堆積土層。5層（灰黄色土）は山砂・ロームを主体とする袖部。

出土遺物は、1は覆土中から検出された土師器杯。体部は底部付近で一度角度を変え口縁部に向かって直線的に立ち上がる。口縁部径は13.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後手持ちヘラケズリとなっている。また、体部外面に墨書「中」が観られる。2は覆土中から検出された土師器杯。1と同様に体部は底部付近で一度角度を変え口縁部に向かって直線的に立ち上がる。口縁部径は推定12.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後手持ちヘラケズリとなっている。また、体部外面に墨書の痕跡が観られる。3は覆土中から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がる。口縁部径は推定12.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後手持ちヘラケズリとなっている。4は覆土中から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がる。口縁部径は12.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切りとなっている。また、体部外面に墨書「只」が観られる。5は覆土中から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がる。口縁部径は推定12.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後回転ヘラケズリとなっている。6は覆土中から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、底部との境に明瞭な角を有し、逆台形の器形である。口縁部径は推定11.8cm、器高4.1cm、底部径6.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り後回転ヘラケズリとなっている。7は覆土中から検出された土師器杯。体部は内湾ぎみに丸みをもって立ち上がる。口縁部径は11.5cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ、底部一方向のヘラケズリとなっている。8は覆土中から検出された胴部2/3以下を欠損する土師器の小型甕。口縁部は胴部から「く」字状に外反する。口縁部径は推定11.4cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ナデとなっている。9は床面直上及び覆土中から検出された土師器の小型甕。口縁部は緩やかに「く」字状に外反する。口唇部は厚みを造り出し外面に平坦面を造り出している。口縁部径は推定14.9cm、胴部最大径は14.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を少量含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ナデ、底部一方向のヘラケズリとなっている。10は床面直上から検出された口縁部付近のみ遺存する須恵器甕。口縁部は胴部から大きく直線的に外反し、口唇部は折り返しにより造り出した厚みの先端を外側水平方向に引き出している。口縁部径は推定21.2cmで、胎土には細かい石英粒を含む。口縁部ロクロナデ、胴部外面並行タキ目となっている。11は床面直上から検出された底部付近を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から僅か



第56図 47号住居跡・出土遺物



第57図 48号住居跡・出土遺物

に外反ぎみに立ち上がる。口縁部径は推定13.0cm、胴部最大径13.4cmである。胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。12は覆土中から検出された胴部2/3以下を欠損する土師器甕。口縁部は胴部から大きく「く」字状に外反する。口縁部径は推定15.2cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。13は覆土中から検出された一括取り上げの須恵器甕の胴部片。胎土には細かい石英粒を及び小粒の黒色粘土粒を含む。胴部外面並行タタキ目、内面當て具痕の上からナデとなっている。14は北壁付近の覆土中から検出された土製支脚。表面はヘラ状工具により丁寧に面取りされている。遺存する法量は、長さ2.3cm、幅4.8cm、厚さ2.7cm、重量27.7gである。15は東壁の床面付近から検出された土師器台付甕の底部を転用した硯である。高台の一部を人為的に欠き、水切り口としている。高台の裏面すなわち硯の表面には使用による摩滅の痕跡が観られる。法量は径12.1cm、厚さ1.9cm、重量242.3gである。

47号住居跡（SI043）

本住居跡は、遺跡南部の市道沿いの平坦部23L31付近に位置する。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は2.6m×3.3mで小型の住居跡である。床面は平坦で、深さは浅く15cmほどである。柱穴は4本検出され深さはそれぞれ20cm～35cm、柱穴の間隔は東西方向で約0.9m、南北方向で約1.5mである。覆土は、1層（明茶褐色土）は焼土粒・炭化物を多量に含む粒子の細かい軟質土層。2層（暗黃褐色土）は焼土細粒及び炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。3層（灰黄色土）は山砂・ロームを主体とするカマド。

カマドは、東壁に1基検出されている。1層（灰黄色土）は山砂・ロームを主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。袖部は多くを流失しており、カマドの奥壁付近に僅かに遺存する。火床部には焼成により赤色化したローム面に焼土及び炭化物の集中する燃焼部が検出された。

出土遺物は、1は本住居跡外のカマド脇から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、口縁部径12.7cm、底部径7.2cmで、口縁部径と底部径にあまり差が無い箱形の器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面クロコナデ、底部付近ヘラケズリ、底部ヘラケズリとなっている。また、体部外面及び底部外面には墨書きが観られ、底部の墨書きは「馬」である。2はカマド内の覆土中から検出された土師器甕で、胴部1/3以下を欠損する。口縁部は胴部から直線的に外傾する。口縁部径は推定17.0cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。3は覆土中から検出された須恵器甕の底部片。焼成は良好で、胎土に細かい石英粒を含む。

48号住居跡（SI044）

本住居跡は、遺跡南部の市道沿いの緩やかな南斜面23L55付近に位置する。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は2.8m×2.5mで小型の住居跡である。床面は平坦で、深さは比較的浅く25cmほどである。柱穴は北壁沿いに2本検出され深さはそれぞれ15cm～20cm、柱穴の間隔は約1.6mである。本住居跡は市道沿いに壁面付近が流出している。覆土は、1層（黄暗褐色土）は粒子の細かい砂粒混じりの硬質土層。2層（明茶褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。



第58図 49号住居跡

カマドは、東壁に1基検出されている。1層（灰黄褐色土）は山砂・ロームを主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。3層（赤褐色土）は焼土塊・炭化物を含む火床部上の堆積土層。4層（灰黄色土）は山砂・ロームを主体とする袖部。火床部には焼成により赤色化したローム面に焼土及び炭化物の集中する燃焼部が検出された。

出土遺物は、1は床面直上から検出された土師器杯。体部はやや内湾ぎみに立ち上がり、口縁部径推定11.6cm、器高3.2cm、底部径7.1cmで、浅く扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部回転系切りとなっている。また、体部外面には墨書が観られるが欠損部により判読不可である。2は東壁沿いに密着する状況で検出された土師器杯で、口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。口縁部径11.8cmで、胎土に細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部一方向のヘラケズリとなっている。また、底部外面には墨書が観られる。3はカマド脇の床面直上から検出された平瓦。凸面は無文で凹面は布目で、端部は直線状に仕上げられている。遺存する法量は、長さ4.2cm、幅4.7cm、厚さ2.0cm、重量51.0gである。

49号住居跡 (SI045)

本住居跡は、遺跡南部の市道沿いの平坦部23M22付近に位置する。北壁は調査範囲外のため全容は不明であるが、形状は方形と思われる。規模は東西壁は2.3m、南北壁は2.5m以上が判明している。床面は平坦で、深さは浅く15cmほどである。柱穴は南壁沿いに2本検出され深さはそれぞれ20cm～25cm、柱穴の間隔は約1.8mである。また、本住居跡のカマドは検出されていないものの、未調査部分の北側煙内に位置しているものと思われる。覆土は、1層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黄暗褐色土）は山砂・焼土粒を含む粒子の粗い軟質土層。

出土遺物のうち実測可能なものは無い。

50号住居跡（SI046）

本住居跡は、遺跡南部の市道沿いの平坦部23M42付近に位置する。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は3.2m×3.6mである。床面は平坦で、深さは非常に浅く10cmほどである。柱穴は4本検出され深さはそれぞれ15cm～20cm、柱穴の間隔は東西方向で約2.0m、南北方向で約2.5mである。覆土は、1層（暗褐色土）は山砂・焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い硬質土層。本住居跡のほぼ中央には小土坑が検出された。小土坑の規模は、長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.1mである。小土坑の覆土は、1層（暗黄褐色土）は多量の焼土を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黄褐色土）はロームを主体とする軟質土層。

カマドは、東壁のやや北寄りに1基検出された。1層（暗灰褐色土）は山砂・ロームを主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。3層（黄暗褐色土）は山砂・ロームを主体とする袖部。火床部南側の袖部付近には焼成により赤色化したローム面に焼土及び炭化物の集中する燃焼部が検出された。4層（黄褐色土）はカマド天井部内壁の崩落土層。

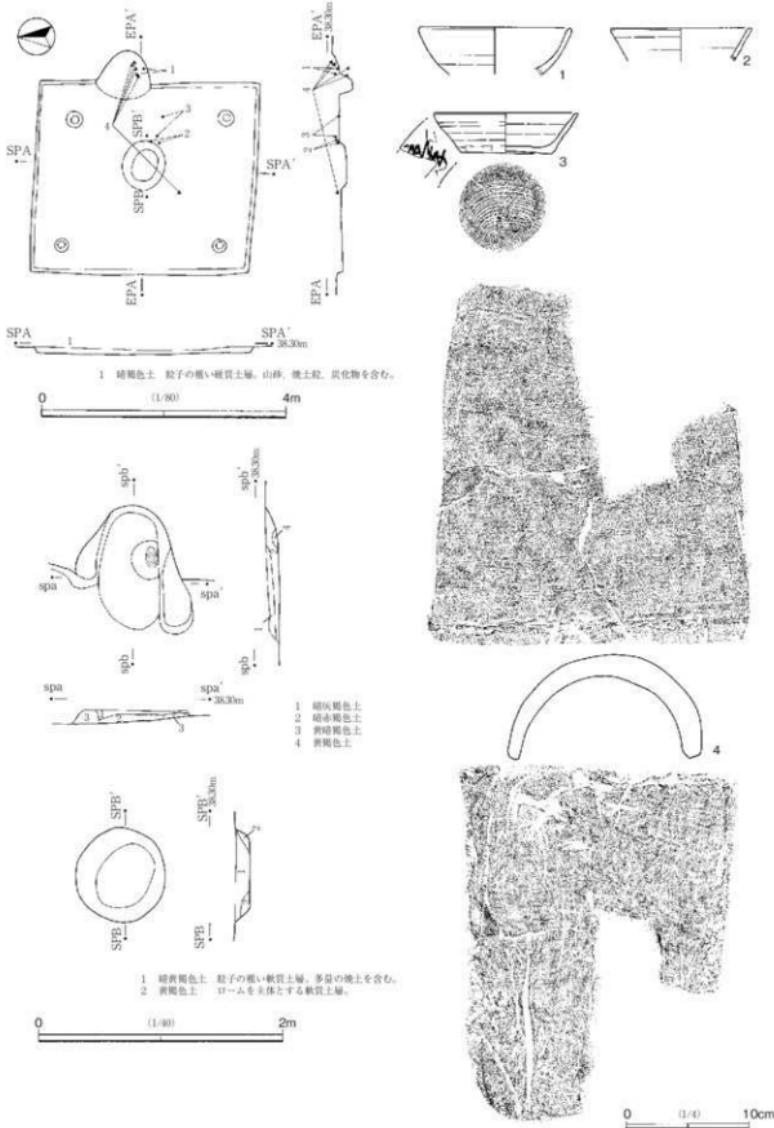
出土遺物は、1はカマド内から検出された底部付近を欠損する土師器杯。口縁部は内湾ぎみに丸みを帯びて立ち上がり、底部付近を欠損するため断定はできないが台付杯の可能性もある。口縁部径は推定12.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を少量含む。体部内外面ロクロナデとなっている。2は小土坑付近の床面直上から検出された体部下半を欠損する土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、口縁部径は11.6cmで、胎土に細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。3は床面直上から検出されたほぼ完形の土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、底部との境に明瞭な角を有し、逆台形の器形である。口縁部径は11.9cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。また、体部外面には墨書きが観られる。4はカマド内及び床面直上から検出され、凸面は無文で凹面は布目の丸瓦である。端部は角度を変えた2段階の面取りとなっている。検出状況はカマドの燃焼部に直立していたことから、この丸瓦は支脚替わりに使用されたものと考えられる。遺存する法量は、長さ29.5cm、幅17.3cm、厚さ2.1cm、重量1,550.0gである。

51号住居跡（SI047）

本住居跡は、遺跡南部の市道沿いの緩やかな傾斜地23M73付近に位置する。本住居跡北東角1/4及び南西角1/3は搅乱のため壁面は損壊されている。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は3.5m×3.6mである。床面は平坦で、深さは比較的浅く20cmほどである。柱穴は2本のみ検出され深さはそれぞれ15cmほどで、柱穴の間隔は約1.8mである。覆土は、1層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む粒子の粗い硬質土層。2層（黄暗褐色土）は焼土粒・大粒の炭化物を含む粒子の粗い軟質土層。

カマドは、東壁のほぼ中央に1基検出された。1層（黄暗褐色土）は山砂・ロームを主体とする天井部。2層（暗赤褐色土）は焼土粒・炭化物を含む火床部上の堆積土層。3層（暗褐色土）は焼土粒・炭化物を含む煙道部の奥壁付近の堆積土層。4層（灰黄色土）は山砂及びロームを主体とする袖部。火床部の奥壁付近には焼成により赤色化したローム面に焼土及び炭化物の集中する燃焼部が検出された。

出土遺物は、1は搅乱のため僅かに遺存した床面から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、口縁部径は推定14.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリとなっている。2はカマド内から検出された口縁部付近を欠損する土師器杯。底部径



第59図 50号住居跡・出土遺物

は6.3cmで、胎土には細かい白色粒及び赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。3は搅乱のため僅かに遺存した床面から検出された土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、底部は若干上げ底ぎみである。口縁部径は推定12.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。また、体部外面には墨書が観られる。4はカマド内から検出された完形の土師器杯。体部は直線的立ち上がるが、口唇部は僅かに外反する。口縁部径12.5cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部回転糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。5はカマド内及び覆土中から検出された口縁部付近のみ遺存する土師器甕。口縁部は大きく「く」字状に外反する。口縁部径は推定22.2cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。

2 土坑

1号土坑 (SK001)

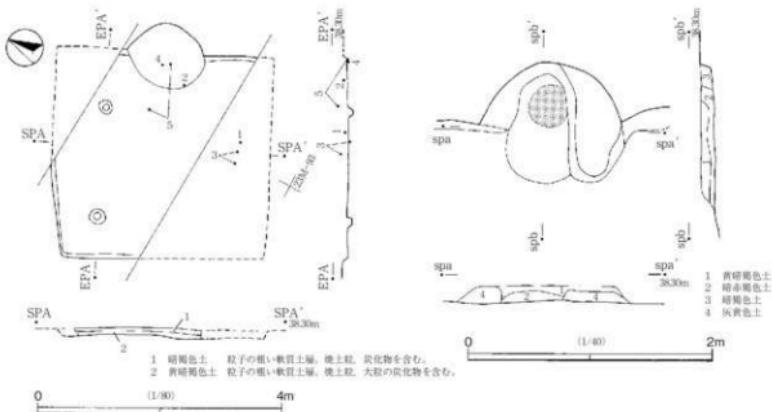
本土坑は、遺跡北部の斜面の裾19L00付近に位置する。形状はN60°E方向に長軸のある楕円形で、規模は、長軸1.9m、短軸1.7m、深さ0.7mである。覆土は、1層（暗褐色土）は炭化粒を多量に含む粒子の細かい軟質土層。2層（黄褐色土）は大粒のロームブロックを含む粒子の粗い軟質土層。3層（黄暗褐色土）は粒子の細かい硬質土層。4層（暗褐色土）は暗黒褐色土・ロームを含む流入土層。

出土遺物のうち実測可能なものは無い。

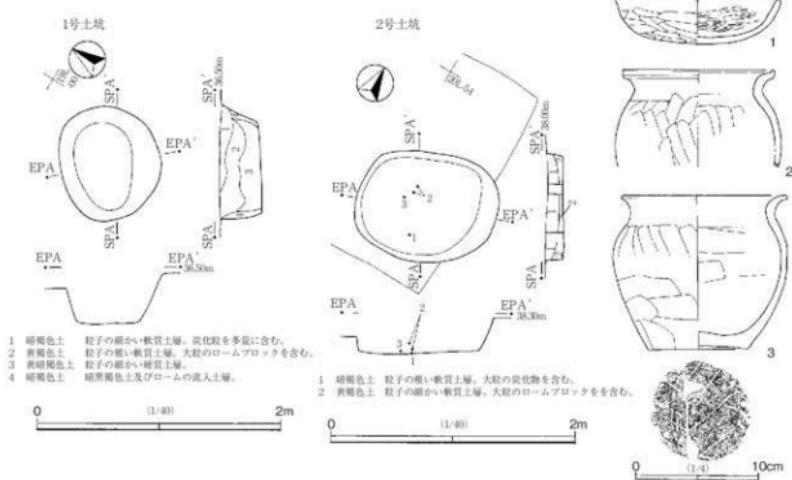
2号土坑 (SK003)

本土坑は、遺跡中央の平坦部20L54付近に位置し、22号住居跡のカマド下に位置する。2号土坑を埋めた後22号住居跡を構築したものと思われる。形状はN60°E方向に長軸のある楕円形で、規模は、長軸長2.4m、短軸長1.8m、深さ0.6mである。覆土は、1層（暗褐色土）は大粒の炭化粒を含む粒子の粗い軟質土層。2層（黄褐色土）は大粒のロームブロックを含む粒子の細かい軟質土層。覆土は東西方向のトレーナーにより搅乱をうけている。

出土遺物は、1は床面直上から検出された内面に赤彩のある土師器杯。丸底で比較的口縁部径の広く浅い器形である。口縁部は13.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面丁寧なミガキとなっている。2は床面直上及び覆土中から検出された胴下半部を欠損する土師器甕。口縁部はいわゆる武藏型の特徴である「コ」字状の屈曲部を有し外反する。口縁部径は推定12.2cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。3は床面直上から検出された完形の土師器小甕。口縁部は2と同様に「コ」字状の屈曲部を有する。口縁部は13.6cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、胴下半部は横位のヘラケズリ、内面ヘラナデ、底部には木葉痕が観られる。



第60図 51号住居跡・出土遺物



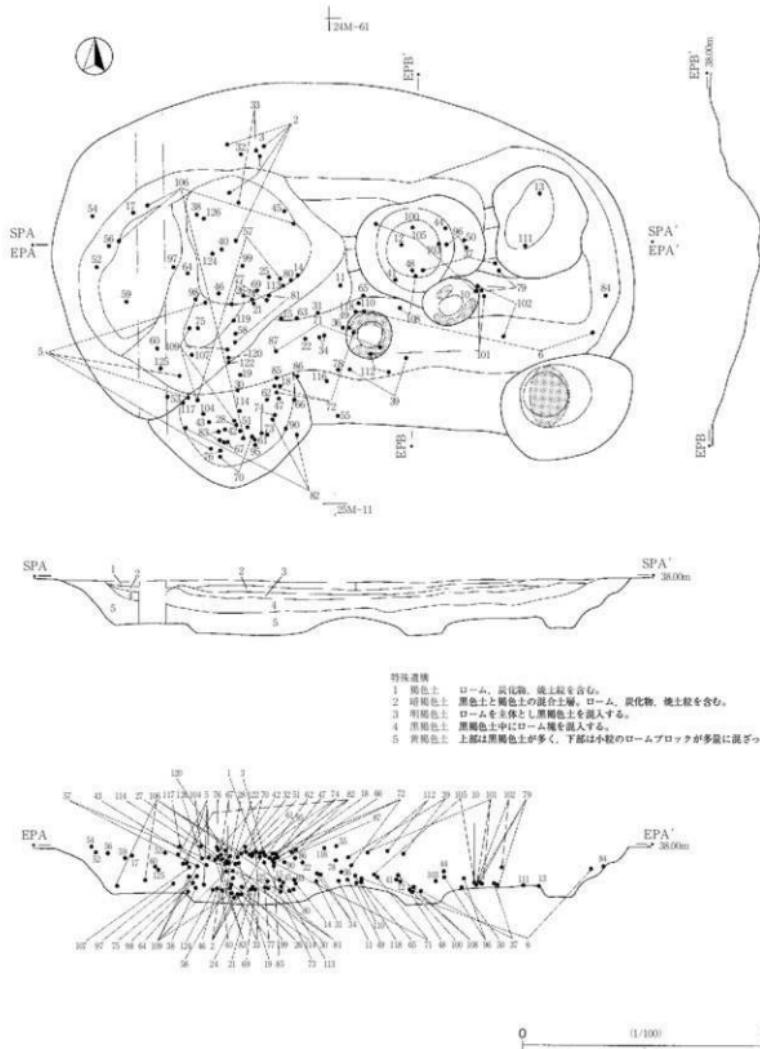
第61図 1号・2号土坑・出土遺物

3 特殊遺構

本遺構は、遺跡南部の市道沿いの平坦部25M11付近に位置する。形状は東西方向に主軸のある隅丸方形で、規模は6.0m × 4.1m、最大深度0.6mである。壁面はなだらかに湾曲し、すり鉢状である。床面には土坑状の掘り込みが多数あり、通常の住居跡とは様相を異にする。さらに、出土遺物は実測可能なもので126点を数え、種別・器種もきわめて豊富である。覆土は1層（褐色土）はローム・焼土粒・炭化物を含む軟質土層。2層（暗褐色土）はローム・焼土粒・炭化物を含む黒色土と褐色土の混合土層。3層（明褐色土）はロームを主体とし、黒褐色土を混入する軟質土層。4層（黒褐色土）はローム塊を混入する軟質土層。5層（黄褐色土）は上部は黒褐色土が多く、下部は小粒のロームブロックが多量に混ざる軟質土層。覆土は南北方向にトレッシャーによる搅乱を受けている。また、床面に掘り込まれた土坑状の掘り込みのうち3か所から焼成による赤色化の観られるローム面が確認された。

出土遺物は、実測可能な全126点のうち覆土1層～3層までの上層出土遺物56点、4層～5層までの下層出土遺物50点、上下両層出土遺物9点であるが、主要な部位の出土状況により上下それぞれに振分けた。覆土上層の遺物

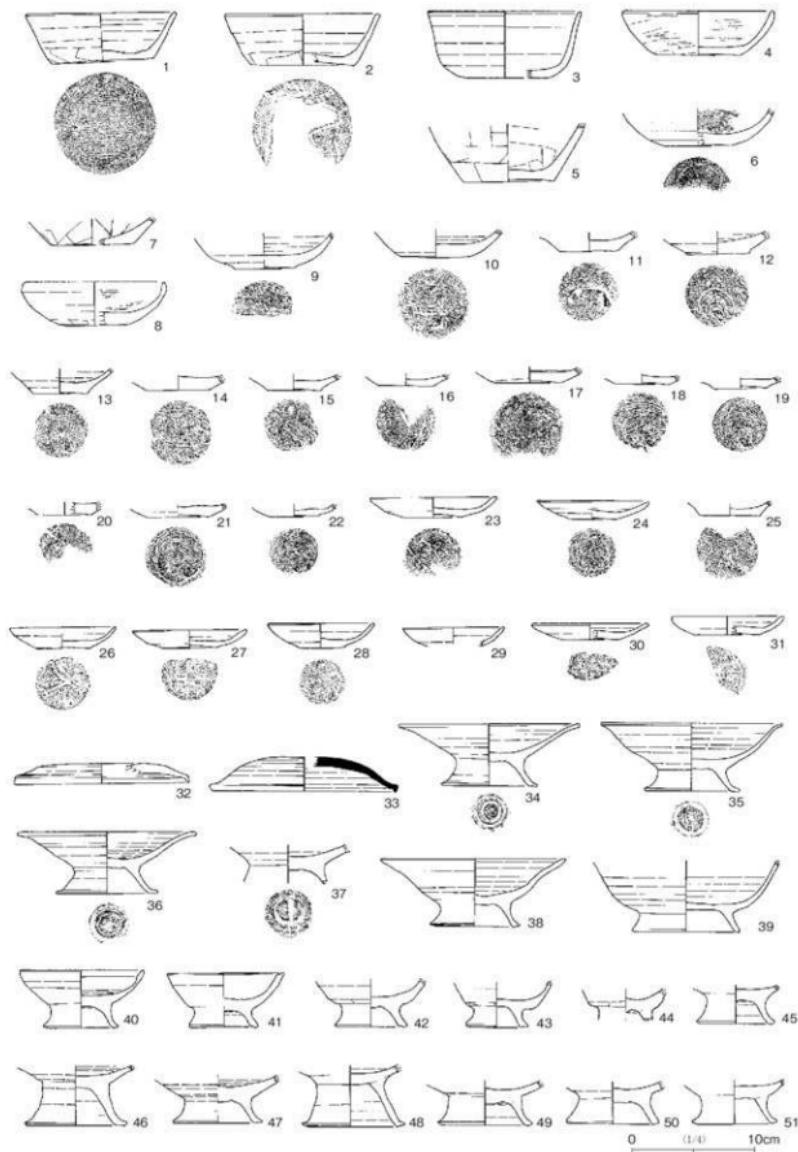
1は完形の土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、口縁部12.2cm、底部径8.4cmで口縁部径と底部径にあまり差の無い箱形の器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近手持ちヘラケズリ、底部静止糸切り後端部手持ちヘラケズリとなっている。2は土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、口縁部径12.6cm、底部径8.4cmで、口縁部径と底部径に差の無い箱形の器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部静止糸切り後手持ちヘラケズリとなっている。3はやや深めの箱形の土師器杯。体部は直線的に立ち上がり、口縁部推定12.4cm、底部径推定7.5cmで、口縁部径と底部径に差の無い箱形の器形である。胎土には細かい長石粒及び細かい石英粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリとなっている。4は土師器杯。体部はやや内湾ぎみに立ち上がる。口縁部径推定12.2cm、器高推定3.6cm、底部径7.0cmで、浅く扁平な器形である。焼成は良好で、胎土に細かい白色粒・小粒の赤色粘土粒を多量に含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリとなっている。8は土師器杯。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部径推定11.4cm、底部径推定5.8cmで、浅く扁平な器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切りとなっている。17は底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は5.4cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切り後端部ヘラケズリとなっている。18は底部付近のみ遺存する土師器の小型皿。底部径は4.5cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切りとなっている。19は底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は4.5cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切りとなっている。22は底部付近のみ遺存する土師器の小型皿。底部径は4.0cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切りとなっている。27は土師器の小型皿。口縁部径9.2cm、器高1.5cm、底部径4.4cmで、浅い器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切りとなっている。28は土師器の小型皿。口縁部径8.6cm、器高2.1cm、底部径3.7cmで、小型皿である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切りとなっている。34・36は土師器の足高台付皿。台部がやや高めで、下総東部の11世紀～12世紀頃に観られる器種である。34は口縁部径推定14.7cm、器高5.1cm、底部径5.5cm、台部径7.8cmである。胎土



第62回 特殊遭情

には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切り、付け高台となっている。36は口縁部径推定14.1cm、器高5.1cm、底部径5.4cm、台部径8.2cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部回転糸切り、付け高台となっている。39は口縁部付近を欠損する土師器の高台付杯。底部径7.6cm、台部径8.7cmで、胎土に細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。42は口縁部付近を欠損する土師器の高台付杯。底部径4.7cm、台部径5.7cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を少量含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリとなっている。43は口縁部付近を欠損する土師器の高台付杯。底部径3.9cm、台部径5.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリとなっている。44は口縁部付近を欠損する土師器の高台付杯。底部径4.3cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリとなっている。47は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付皿。底部径5.5cm、台部径7.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。51は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付杯。底部径は5.3cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。53は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付皿。底部径4.4cm、台部外周部径6.2cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。54は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付皿。遺存度70%で、法量は遺存する器高約28cm、底部径5.0cmである。焼成は良好で、胎土に細かい白色粒を多量に含み小粒の赤色粘土粒を少量含む。55は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付皿。底部径6.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。56は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付皿。底部径は5.6cm、台部外周部径は推定6.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。57は口縁部付近を欠損する土師器の足高高台付杯。底部径は6.5cm、台部径は8.1cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。58は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付杯。底部径4.2cm、台部外周部径5.2cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面黒色処理となっている。59は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付杯。台部径は5.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面黒色処理となっている。60は底部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。底部径は6.9cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。61は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付杯。台部径は4.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面黒色処理となっている。62は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付杯。台部径は推定6.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面黒色処理となっている。66は底部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。台部径5.5cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。67は土師器の高台付杯。体部は内湾しながら立ち上がり、底部には短めの高台が付く。口縁部径推定9.4cm、器高4.3cm、台部径推定5.2cmで、やや小振りの器形である。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。70は土師器の高台付碗。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、底部には短い高台が逆「ハ」字状に付く。口縁部径推定13.8cm、台部径5.8cmで、胎土に細かい白色粒及び小粒の黒色石英粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。71は口縁部付近及び台部付近を欠損する土師器の高台付碗。底部径は5.3cmで、

胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。72は口縁部付近と台部を欠損する土師器の高台付椀。底部径は5.5cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。73は台部を欠損する土師器の高台付椀。口縁部径は推定13.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。74は口縁部付近を欠損する土師器の高台付椀。底部径5.1cm、台部径5.9cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。75は口縁部付近と台部を欠損する土師器の高台付椀。底部径は5.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。76は台部を欠損する土師器の高台付椀。口縁部径推定15.1cm、底部径5.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。78は土師器の足高台付皿。体部は底部から僅かに立ち上がるが、皿部は短く平坦である。口縁部径10.9cm、器高6.1cm、底部径3.0cm、台部径4.9cmである。胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。81は土師器の高台付椀。体部は内湾しながら立ち上がり、口唇部が僅かに外反する。底部には短い付け高台が逆『ハ』字状に付く。口縁部径16.2cm、底部径5.8cm、台部径5.9cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はミガキとなっている。82は土師器の高台付椀。体部は内湾しながら立ち上がり、口唇部が僅かに外反する。底部には短い付け高台が逆『ハ』字状に付く。口縁部径推定15.6cm、底部径5.9cm、台部径推定7.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ後のミガキとなっている。83は口縁部付近を欠損する土師器の高台付椀。体部は内湾しながら立ち上がる。底部には短い付け高台が逆『ハ』字状に付く。底部径5.6cm、台部径6.7cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面はミガキとなっている。85は土師器の高台付椀。体部は内湾しながら立ち上がる。底部には短い付け高台が逆『ハ』字状に付く。口縁部径推定14.8cm、底部径5.0cm、台部径推定5.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ後のミガキとなっている。86は口縁部付近を欠損する土師器の高台付椀。底部径は6.4cm、台部径は推定6.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。87は台部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。底部径は推定4.2cm、台部径7.2cmで、底部には比較的器壁の厚い付け高台が逆『ハ』字状に付いている。胎土には細かい黒色粒及び小粒の石英粒を含む。88は台部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。底部は径4.2cm、台部径推定4.9cmで、底部には短い付け高台が逆『ハ』字状に付く。焼成は良好で、胎土に細かい黒色粒を多量に含み、細かい石英粒を少量含む。89は台部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。台部は付け高台で、逆『ハ』字状に付く。底部径は5.7cm、台部径7.8cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。90は口縁部付近及び台部付近を欠損する土師器の高台付杯。法量は遺存する器高約2.3cm、底部径5.6cmである。焼成は良好で、胎土に細かい白色粒を多量に含み小粒の黒色粒を少量含む。体部外面ロクロナデとなっている。91は台部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。台部の先端は外側に小さく摘み出されている。底部径5.7cm、台部径は推定7.3cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。92は台部付近のみ遺存する土師器の高台付杯。91と同様、台部の先端は外側に小さく摘み出されている。底部径5.8cm、台部径は推定8.4cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。94は脚部のみ遺存する土師器高杯。器高約5.1cm、底部径は7.6cmで、胎土には細かい石英粒及び細かい黒色粘土粒を

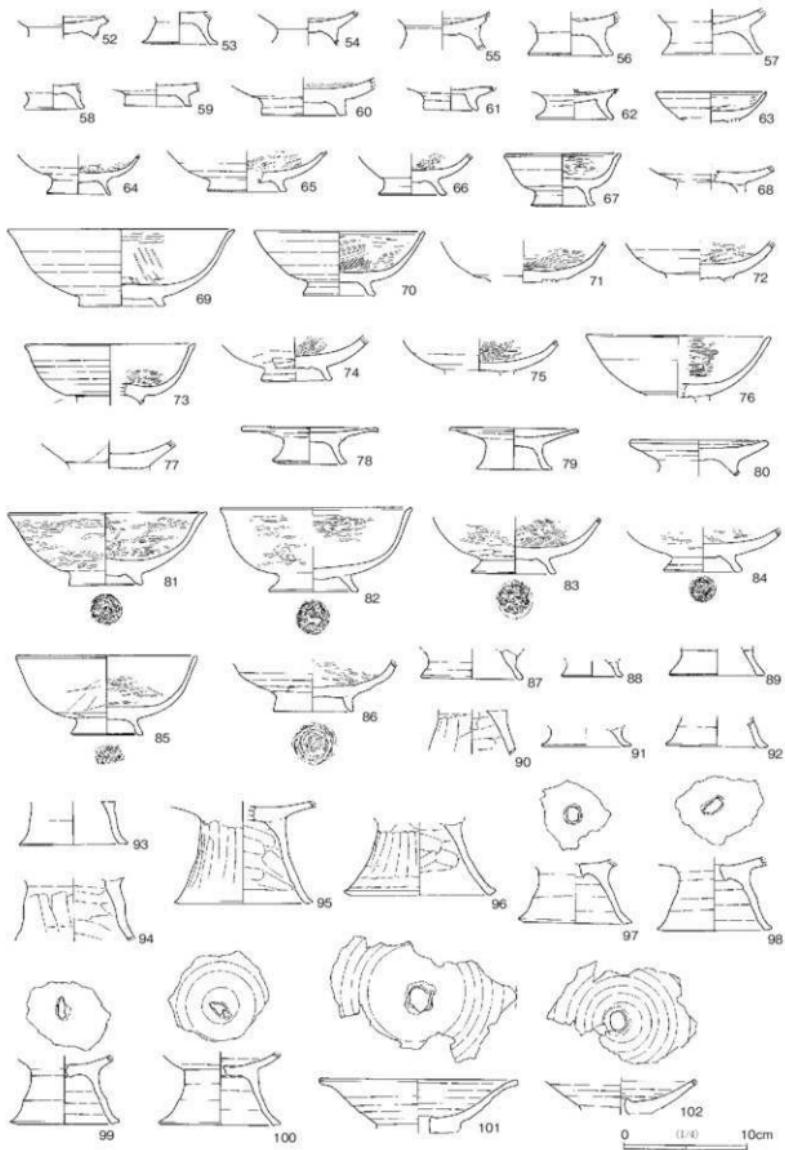


第63図 特殊遺構出土遺物（1）

含む。脚部外面縦位のヘラケズリとなっている。95は杯部を欠損する土師器高杯。底部径6.9cm、脚部径は推定11.3cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。脚部外面縦位のヘラケズリ、裾部ヨコナデとなっている。100は体部を欠損する土師器の器台。器形は高杯状の台部を持つが、底部に径1.0cm程の穿孔があり器台として使用されたものと考えられる。穿孔は焼成前にヘラ状の工具で乱雑に加えられており穿孔部の形態も不整形である。底部径6.0cm、台部径は推定9.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。101は底部より下の台部を欠損する土師器の器台。器形は底部に径2.0cm程の穿孔があり器台として使用されたものと考えられる。口縁部径は推定16.3cm、底部径6.9cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。104は口縁部付近を欠損する土師器の器台。底部にはやや小さめで短い台部が付く。底部に径1.0cm程の穿孔があり器台として使用されたものと考えられる。101と同様に、穿孔は焼成前にヘラ状の工具で乱雑に加えられており穿孔部の形態も不整形である。法量は遺存する器高約3.7cm、底部径5.8cmである。焼成は良好で、胎土に細かい白色粒を多量に含み小粒の赤色粘土粒を少量含む。体部内外面ロクロナデとなっている。105は底部より下の台部を欠損する土師器の器台。器形は底部に径2.3cm程の穿孔があり器台として使用されたものと考えられる。口縁部径推定17.8cm、底部径は6.7cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粒を含む。体部内外面ロクロナデとなっている。107は口縁部付近及び胴部の大半を欠損する土師器壺。頸部は器壁が厚めで輪積み成形である。胎土には小粒の長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口頸部外面へラケズリとなっている。108は口縁部付近及び胴部の大半を欠損する土師器壺。107と同様に、頸部は器壁が厚めで輪積み成形である。胎土には小粒の長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。口頸部外面へラケズリとなっている。109は口縁部付近及び胴部の大半を欠損する須恵器壺。胎土に細かい石英粒を含む。胴部外面ロクロナデ、胴部の一部には自然釉の付着が見られる。112は須恵器壺の底部付近。底部径は推定13.9cmで、胎土には細かい石英粒及び小粒の白色粘土粒を含む。胴部外面へラケズリ、内面ナデとなっている。114~117・119~122は鉄製品。114は釘で、遺存する法量は長さ11.8cm、幅0.9cm、厚さ0.7cm、重量29.7gである。115は釘で、遺存する法量は長さ10.8cm、幅1.2cm、厚さ0.6cm、重量24.5gである。116は釘で、遺存する法量は長さ7.9cm、幅0.8cm、厚さ0.5cm、重量12.6gである。117は釘で、遺存する法量は長さ6.8cm、幅0.8cm、厚さ0.6cm、重量15.1gである。119は釘で、遺存する法量は長さ7.0cm、幅0.9cm、厚さ1.0cm、重量18.5gである。120は釘で、遺存する法量は長さ4.1cm、幅0.6cm、厚さ0.9cm、重量10.2gである。121は釘で、遺存する法量は長さ3.4cm、幅0.8cm、厚さ0.8cm、重量7.7gである。122は釘で、遺存する法量は長さ3.6cm、幅0.7cm、厚さ0.7cm、重量6.4gである。125・126はスラグで、重量は125は158g、126は331.9gである。

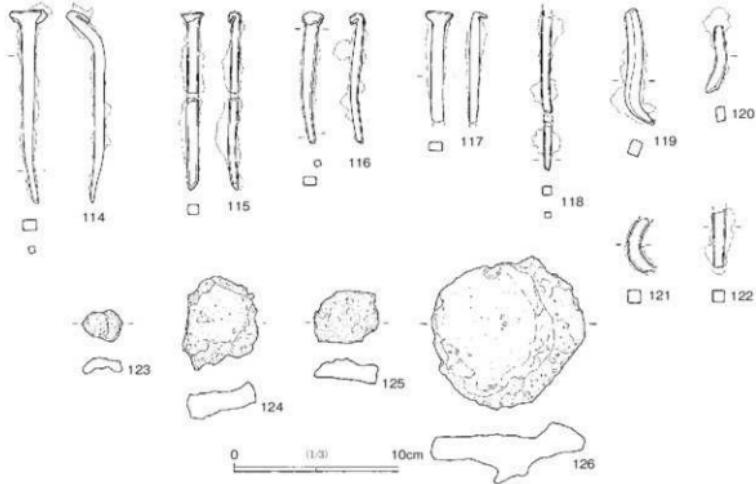
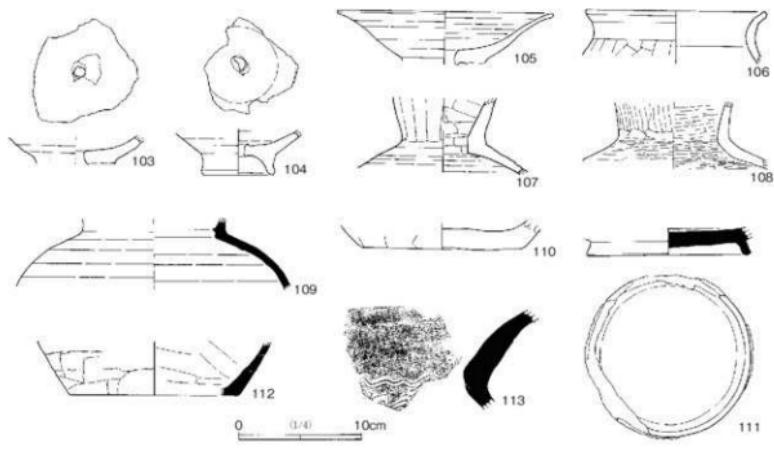
覆土下層の遺物

6は底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は推定5.4cmで、器壁はやや厚めである。胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキとなっている。10は底部付近のみ遺存する土師器杯。底部径は5.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部は回転糸切りとなっている。11~13は底部付近のみ遺存する土師器杯。底部と体部の境には明瞭な角を有する。11は底部径は4.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部は回転糸切りとなっている。12は底部径5.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部は回転糸切りとなっている。13は底部径は4.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。14~16は底



第64図 特殊造構出土遺物（2）

部付近のみ遺存する土師器の小型皿。底部と体部の境には明瞭な角を有する。14は底部径は5.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。15は底部径4.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。16は底部径4.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。20は底部付近のみ遺存する土師器の小型皿。底部と体部の境には明瞭な角を有する。底部径は4.4cmで、胎土に細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。21は底部付近のみ遺存する土師器の小型皿で、底部と体部の境に明瞭な角を有する。底部径5.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。24は土師器の小型皿で、底部と体部の境には明瞭な角を有する。口縁部径は推定9.1cm、底部径は推定4.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。25は底部付近のみ遺存する土師器の小型皿。底部と体部の境には明瞭な角を有する。底部径は5.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。26は土師器の小型皿。底部と体部の境には明瞭な角を有する。口縁部径は8.7cm、底部径は4.4cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。29は底部付近を欠損する土師器の小型皿。口縁部径は推定8.2cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。30は土師器の小型皿。底部と体部の境には明瞭な角を有し、底部はやや上げ底ぎみである。口縁部径は推定9.4cm、底部径は推定4.5cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。31は土師器の小型皿。底部と体部の境には明瞭な角を有する。口縁部径は推定9.0cm、底部径は推定4.3cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。32は頂部付近を欠損する土師器杯蓋。外周部径は推定14.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面回転ヘラケズリ、周辺部ロクロナデとなっている。33は須恵器の杯蓋。遺存する器高約2.8cm、外周部径は約15.0cmで、胎土には中粒の長石粒及び細かい石英粒を含む。蓋部外面はロクロナデとなっている。また、外周部には下側に小さく内側に折れ曲がったカエリが観られる。37は底部付近のみ遺存する土師器の足高高台付杯。底部には逆「ハ」字状の高台が付く。底部径6.2cm、遺存する台部径は約6.7cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部は回転糸切りで付け高台となっている。38は完形の土師器の足高高台付杯。底部には逆「ハ」字状の高台が付く。口縁部15.0cm、底部径5.7cm、台部径7.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。40・41はやや小型の土師器高台付杯で、体部は内湾しながら立ち上がる。40は口縁部10.1cm、底部径4.9cm、台部径6.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。41は口縁部径9.6cm、台部径5.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデ、底部付近ヘラケズリとなっている。45・46は体部を欠損する土師器の足高高台付杯。底部には逆「ハ」字状の高台が付き、高台の先端は外側に小さく折り曲げられている。45は底部径は4.8cm、台部径は5.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。46は底部径5.4cm、台部径8.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。48は体部を欠損する土師器の足高高台付杯。高台はやや高い造りとなっている。底部径は5.5cm、台部径は8.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。49は体部を欠損する土師器の足高高台付杯。底部には逆「ハ」字状の高台が付き、高台の先端は外側に小さく折り曲げられている。底部径は6.0cm、台部径は7.0cmで、胎土には細かい白色



第65図 特殊遺構出土遺物（3）

粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。50は体部を欠損する土師器の足高高台付杯。底部径は5.9cm、台部径は7.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。52は口縁部付近を欠損する遺存度60%の土師器の足高高台付杯。底部径は5.7cm、台部径は推定6.8cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。63は底部付近を欠損する土師器の高台付杯。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部径は推定9.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。64は口縁部付近を欠損する土師器の高台付杯。体部は底部から緩やかに内湾する。底部径は4.5cm、台部径は5.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面黒色処理となっている。65は口縁部付近を欠損する土師器の高台付椀。体部は底部から緩やかに内湾する。底部径6.0cm、台部径推定6.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。69は大型の土師器の高台付椀。体部は口縁部に向かって大きく内湾しながら立ち上がる。口縁部径は推定18.5cm、底部径6.8cm、台部径7.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、内面ミガキに加え黒色処理となっている。77は体部及び台部を欠損する土師器の高台付椀。底部径は6.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデとなっている。79は小型の土師器の足高高台付皿。体部は底部から僅かに立ち上がるが、皿部は短く平坦である。口縁部径10.3cm、底部径4.6cm、台部径推定6.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。80は小型の土師器の高台付皿。79と同様に体部は底部から僅かに立ち上がるが、皿部は短く平坦で先端部がやや厚みがある造りとなっている。口縁部径10.9cm、底部径5.3cm、台部径6.1cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。84は口縁部付近を欠損する土師器の高台付椀。体部は大きく内湾する。底部には小さめの高台が付く。底部径は5.2cm、台部径は6.2cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はミガキとなっている。93は体部を欠損する土師器の高台付杯。底部径は6.8cm、台部径は推定8.9cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。96は土師器高杯。底部径は6.7cm、脚部径は推定12.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。脚部外面は縦位のヘラケズリ、裙部ヨコナデとなっている。97は土師器の器台。器形は高杯状の台部を持つが、底部に径2.0cm程の穿孔があり器台として使用されたものと考えられる。穿孔は焼成前にヘラ状の工具で乱雑に加えられており穿孔部の形態も不整形である。底部径は5.7cm、台部径は9.3cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。台部外面ロクロナデとなっている。98は土師器の器台。97と同様に高杯状の台部を持ち、底部に径2.5cm程の穿孔があり器台として使用されたものと考えられる。穿孔は焼成前にヘラ状の工具で乱雑に加えられており穿孔部の形態も不整形である。底部径は5.7cm、台部径は9.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。台部外面ロクロナデとなっている。99は土師器の器台。97と同様に高杯状の台部を持ち、底部に径2.4cm程の穿孔があり器台として使用されたものと考えられる。穿孔は焼成前にヘラ状の工具で乱雑に加えられており穿孔部の形態も不整形である。底部径5.6cm、台部径は9.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。台部外面ロクロナデとなっている。102は口縁部付近及び台部を欠損する土師器の器台。97と同様高杯状の台部を持ち、底部に径1.8cm程の穿孔があり器台として使用されたものと考えられる。穿孔は焼成前にヘラ状の工具で乱雑に加えられており穿孔部の形態も不整形である。底部径は6.5cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒

の赤色粘土粒を含む。体部内外面はロクロナデとなっている。103は底部付近のみ遺存する土師器の器台。97と同様高杯状の台部を持ち、底部に径1.2cm程の穿孔があり器台として使用されたものと考えられる。穿孔は焼成前にヘラ状の工具で乱雑に加えられており穿孔部の形態も不整形である。底部径は6.4cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。台部内外面はロクロナデとなっている。110は底部付近のみ遺存する土師器甕。器壁はやや厚めの造りで、底部径は13.0cmである。胎土には細かい長石粒及び小粒の赤色粘土粒を含む。胴部外面へラケズリ、内面ナデ、底部へラナデとなっている。111は須恵器台付杯の底部を転用した硯である。高台の裏面すなわち硯の表面には使用による摩滅の痕跡が観られる。法量は径13.9cm、厚さ2.1cm、重量273.8gである。113は須恵器甕の口縁部の破片。焼成は良好で、胎土に細かい石英粒を多量に含む。口縁部外面には櫛状工具による並行波状文が観られる。118は鉄釘。遺存する法量は長さ9.8cm、幅0.6cm、厚さ0.6cm、重量13.7gである。124はスラグで、重量は64.8gである。

上下両層からの遺物

5は底部付近のみ遺存する土師器甕。底部径は7.3cmで、若干上げ底ぎみである。胎土には中粒の長石粒及び細かい赤色粘土粒を含む。胴部外面へラケズリとなっている。106は口縁部付近のみ遺存する土師器甕。口縁部は緩やかに外反する。口縁部径は推定14.8cmで、胎土には小粒の長石粒及び細かい赤色粘土粒を含む。口縁部外面ヨコナデ、胴部外面輻位のヘラケズリ、内面ナデとなっている。

一括取り上げ遺物

7は底部付近のみ遺存する土師器甕。底部径は推定6.7cmで、胎土には細かい長石粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。胴部外面へラケズリ、底部へラケズリとなっている。9は口縁部付近を欠損する土師器杯。体部と底部の境に小さな段を有する。底部径は推定5.0cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部付近へラケズリ、底部は回転糸切り後のナデとなっている。23は土師器の小型皿。口縁部径推定10.2cm、器高2.2cm、底部径推定4.6cmで、浅く扁平な器形である。胎土に細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。底部は回転糸切りとなっている。35は土師器の足高高台付杯。台部がやや高めで、体部は底部付近では内湾ぎみに立ち上がり、口縁部付近では緩やかに外反する。下総東部の11世紀～12世紀頃に観られる器種である。口縁部径は推定14.8cm、底部径5.6cm、台部径推定7.7cmで、胎土には細かい黒色粒及び細かい石英粒を含む。体部内外面ロクロナデ、底部は回転糸切りで付け高台となっている。68は体部及び台部の先端付近を欠損する土師器の高台付椀。底部径は5.6cmで、胎土には細かい白色粒及び小粒の黒色粘土粒を含む。体部外面はロクロナデとなっている。

4 塚状遺構

本遺構は、遺跡南部の市道沿いの平坦部25M11付近に位置し、特殊遺構と隣接する。形状は、角の丸い方形で、規模は4.2m×5.2m、高さは1.2mである。塚状の土盛りの頂部付近には板状の石材が2枚並んで検出され、当初は古墳の石棺の可能性も検討された。しかし、盛土中に埋葬施設等は検出されず、古墳の可能性を示す遺物も検出されなかった。板石の下には旧地表面を掘り込む柱穴状の土層堆積が観られ、むしろ2枚の板石は礎石である可能性もある。盛土の覆土は、1層（暗褐色土）はローム粒・炭化物・焼土粒を含む軟質土層。2層（暗褐色土）・3層（黒褐色土）は耕作土層。4層（黄褐色土）はロームブロックを主体とする。5層（明褐色土）は明褐色土を主体としロームブロックを含む軟質土層。6層（明褐色土）は明褐色土を主体としロームを含む軟質土層。7層（明褐色土）はロームを主体とする軟質土層。

8層（黄褐色土）は色調は7層よりも明るいがロームの含有量が多い。9層（明褐色土）は明褐色土を主体とし暗褐色土を混入する。10層（黄褐色土）はロームを主体とし暗褐色土を含む。11層（暗褐色土）は暗褐色土を主体としロームを多量に含む軟質土層。12層（明褐色土）は明褐色土を主体としロームブロックを含む軟質土層。13層（黒褐色土）は黒褐色土を主体とし小粒のロームブロックを含む。覆土の4層・5層・6層は版築状に水平に固められている。

出土遺物は、盛土の頂上直下付近に集中しており、この遺構を構築する際に土壤とともに積み上げられた可能性が高い。1～14は平瓦である。1は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、遺存する法量は長さ17.9cm、幅14.8cm、厚さ2.6cm、重量681.0gである。2は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、端部は直線的に丁寧に調整されている。遺存する法量は長さ8.7cm、幅9.3cm、厚さ2.5cm、重量211.0gである。3は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、端部は角度を変えた2段階の面取りとなっている。遺存する法量は長さ7.0cm、幅4.3cm、厚さ2.7cm、重量86.0gである。4は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、遺存する法量は長さ6.5cm、幅6.4cm、厚さ2.5cm、重量73.0gである。5は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、端部は直線的に丁寧に調整されている。遺存する法量は長さ6.0cm、幅6.2cm、厚さ2.3cm、重量110.0gである。6は凸面は無文、凹面は布目で、端部は直線的に丁寧に調整されている。遺存する法量は長さ6.1cm、幅8.3cm、厚さ2.0cm、重量116.0gである。7は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、遺存する法量は長さ7.1cm、幅8.1cm、厚さ2.6cm、重量179.0gである。8は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、遺存する法量は長さ9.9cm、幅10.0cm、厚さ2.2cm、重量251.0gである。9は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、遺存する法量は長さ8.7cm、幅9.7cm、厚さ2.3cm、重量221.0gである。10は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、遺存する法量は長さ7.3cm、幅6.7cm、厚さ2.6cm、重量109.0gである。11は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、遺存する法量は長さ9.0cm、幅6.8cm、厚さ2.1cm、重量134.0gである。端部は角度の異なる2段階の面取りとなっている。12は凸面は無文、凹面は布目で、遺存する法量は長さ5.7cm、幅7.0cm、厚さ2.1cm、重量98.0gである。13は凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で端部は直線的な調整が観られる。遺存する法量は長さ6.6cm、幅4.0cm、厚さ3.1cm、重量81.0gである。14は名称不明の鉄製品である。遺存する法量は長さ1.5cm、幅0.5cm、厚さ0.5cm、重量1.0gである。15は鉄製刀子。遺存する法量は長さ3.9cm、幅1.1cm、厚さ0.3cm、重量8.0gである。16・17は鉄製釘である。遺存する法量は、16は長さ4.0cm、幅0.6cm、厚さ0.5cm、重量5.1g。17は長さ6.2cm、幅1.2cm、厚さ1.0cm、重量20.2gである。

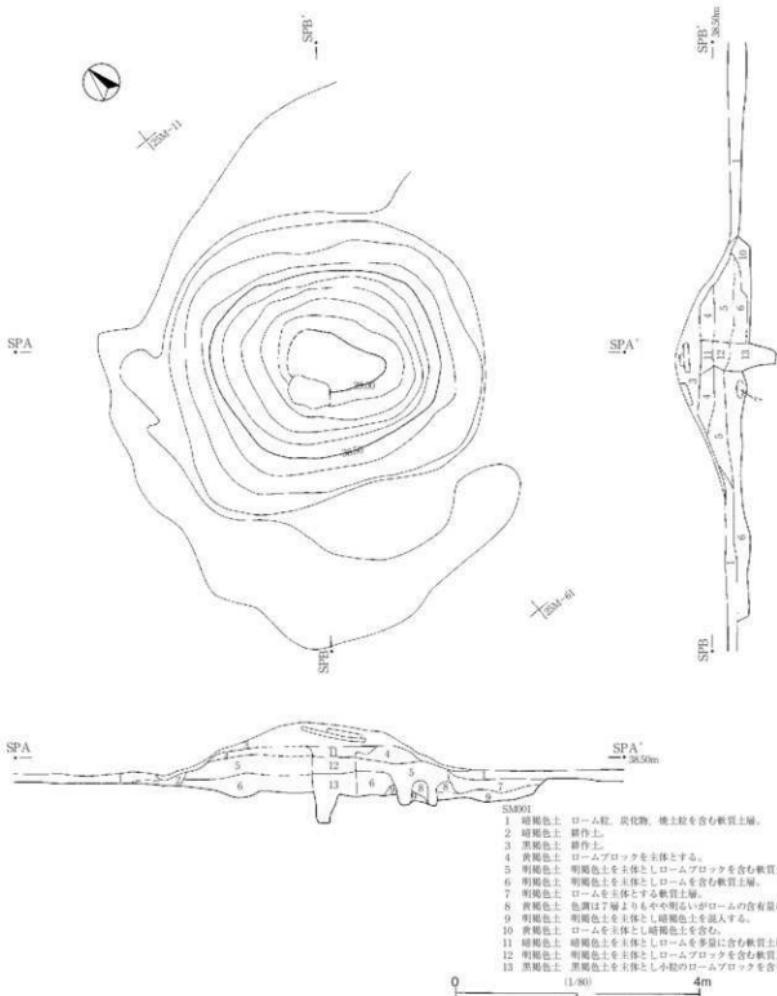
前述の遺構、遺物の検出状況及び遺物の観察から、本遺構は小規模な祠状の建造物の基壇である可能性を指摘しておきたい。

第3節 その他の遺物

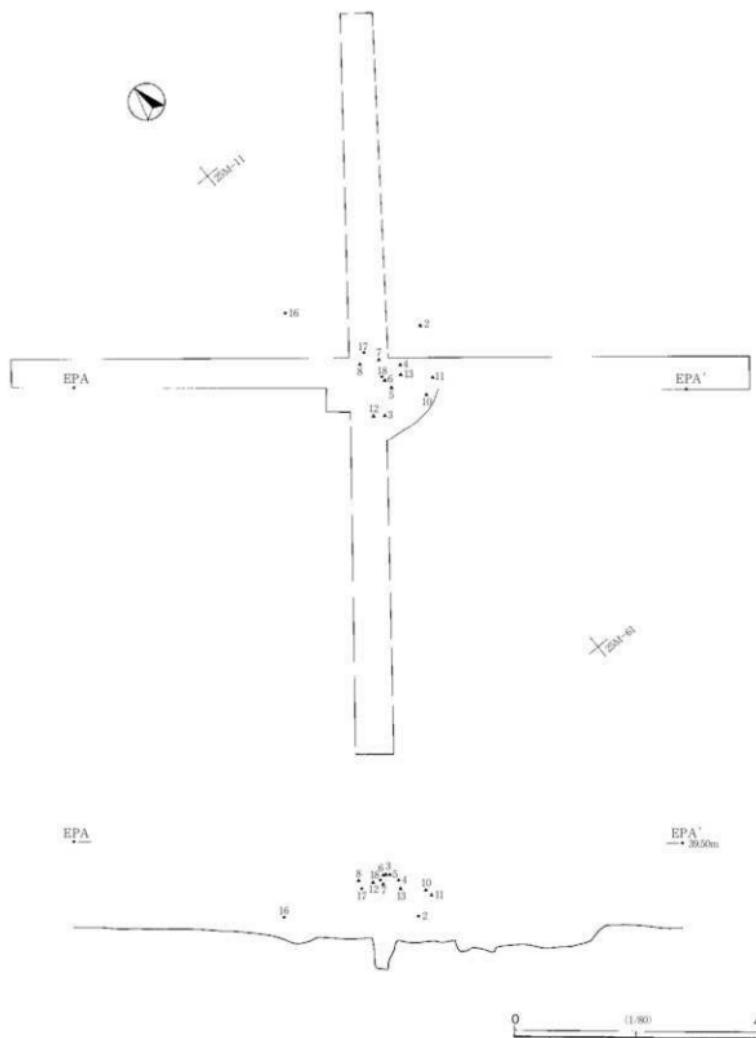
本節では遺構外から出土したその他の遺物について、以下に記述する。

第69図1～13は名木鎌部遺跡の集落跡と関わりの深い奈良・平安時代の遺物で、いずれも遺構外の出土遺物である。

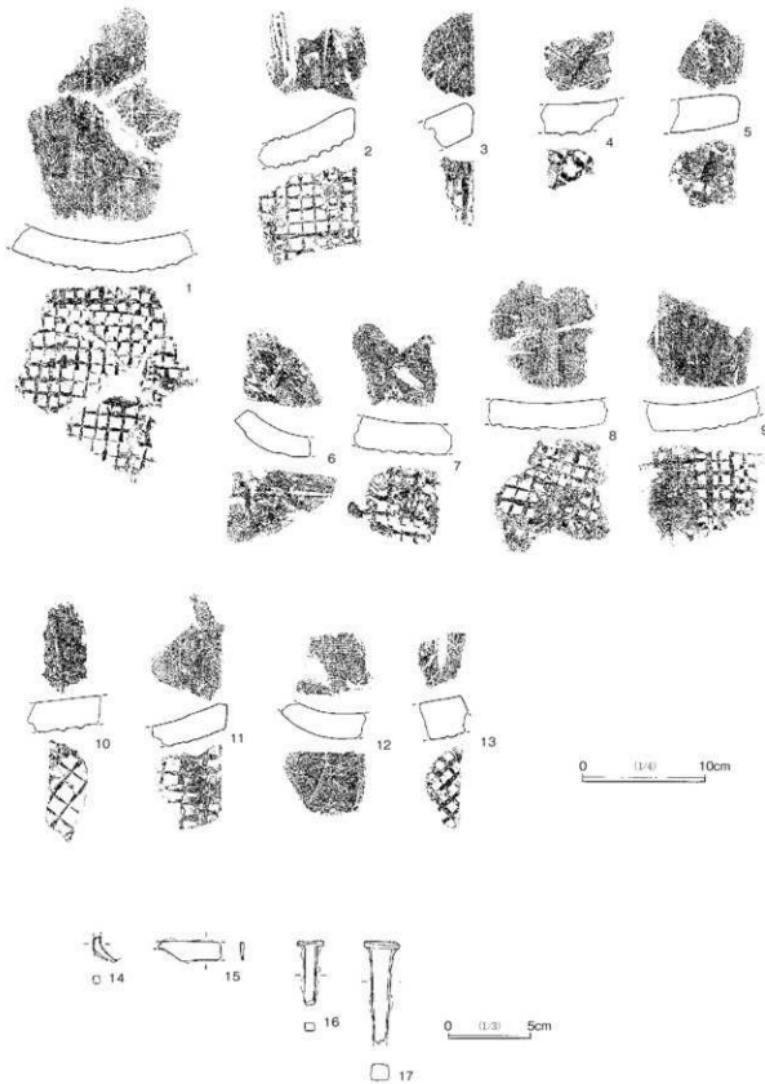
1は19Lグリッド出土の土師器杯。法量は口縁部推定12.5cm、遺存する器高約3.8cm、底部径推定7.3cmである。焼成は良好で、色調は内外面ともにぶい橙色75Y (7/4)、胎土に細かい白色粒を多量に含み小粒の黒色粘土粒を多量に含む。体部内外面ロクロナデ、底部はヘラケズリとなっている。2は19Lグリッド出土で底部付近のみ遺存する土師器杯。法量は遺存する器高約1.5cm、底部径6.5cmである。焼成は良好で、



第66図 塚状構造 (1)



第67図 塚状遺構 (2)



第68図 塚状遺構出土遺物

色調は内外面ともにぶい橙色7.5Y (7/4)。胎土に細かい白色粒を多量に含み小粒の黒色粘土粒を多量に含む。体部内外面ロクロナデ、底部は回転糸切り後端部ヘラケズリとなっている。3は19Lグリッド出土で口縁部付近を欠損する土師器碗。法量は遺存する器高約5.3cm、底部径推定11.9cmである。焼成は良好で、色調は内外面とも橙色5YR (6/6)。胎土に細かい白色粒を多量に含み小粒の赤色粘土粒を多量に含む。体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデとなっている。4は須恵器杯の口縁部片。焼成は良好で、色調は内外面とも灰黄色2.5Y (6/2)。胎土に細かい白色粒を多量に含む。体部内外面ロクロナデで外面に墨書きが観られる。5は表採の平瓦。凸面は正格子タタキ目、凹面は布目で、遺存する法量は長さ6.8cm、幅3.7cm、厚さ2.7cm、重量76.0gである。6は凸面は無文、凹面は布目で、遺存する法量は長さ6.1cm、幅5.7cm、厚さ2.1cm、重量76.0gである。7・8は土製の獸脚。7は19Lグリッド出土で、焼成は良好。法量は、長さ5.3cm、幅4.8cm、厚さ3.1cm、重量84.0gである。8は20Kグリッド出土で、焼成は良好。法量は、長さ4.4cm、幅4.0cm、厚さ3.3cm、重量164.0gである。9～11は表採のスラグで、9は重量9.5g、10は重量10.3g、11は重量66.5gである。12・13は鉄製品。12は鉄鍔の一部で、遺存する刃部幅約5.8cm、遺存する高さ約2.0cm、厚さ0.7cm、重量66.5cmである。13は円板状の鉄製品で中央に一辺5mm程の方形孔があるが用途は不明。法量は外径2.6cm、重量5.6gである。

第70図～第72図は縄文時代の遺物で、いずれも遺構に伴わない出土遺物である。

1～23は早期の土器。

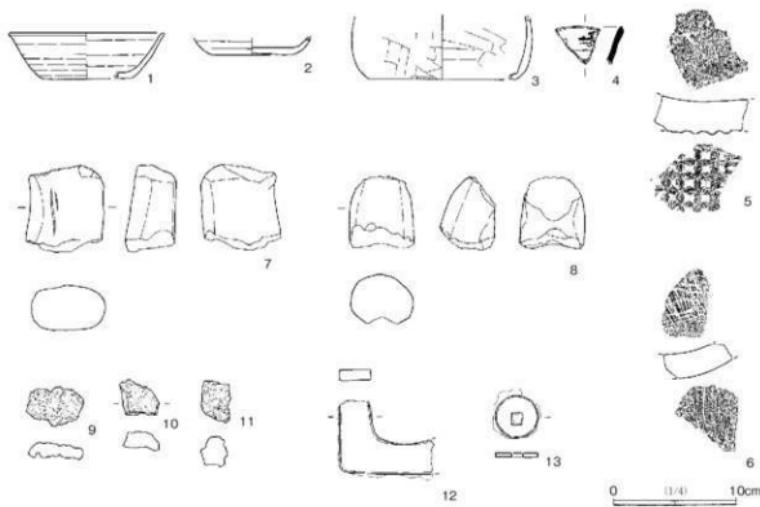
1～8・13は撚糸文系の土器で、9は条痕文系の土器、10・11は縄文系の土器。12は口唇部に刻文のある早期末の条線文系の土器。14は口唇部に撚糸による押圧痕文のある土器。15・16は沈線文系の土器。17・20・21・22・23は田戸上層式土器。17は口唇部に竹管の背面による押圧痕のある胴部無文の田戸上層式土器。20は口唇部及び並行する隆帯の両脇を細かい半裁竹管の断面による連続刺突が特徴である。21は並行沈線の中を貝殻腹縁による細く連続刺突がある。22は竹管による横位の連続刺突。23は横位の直線及び鋭角な波状沈線を特徴とする胴部片。

18・19は繊維を含む無文土器で子母口式土器または茅山式土器ある。

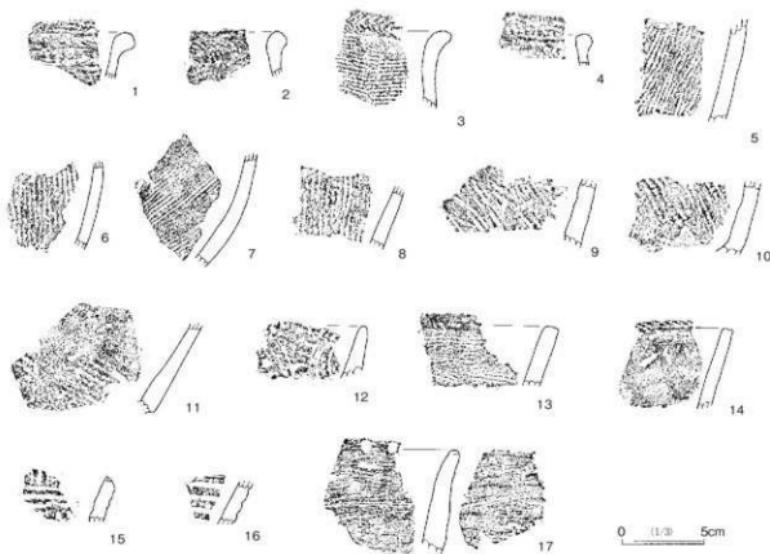
24～34は前期の土器。

24～26は黒浜式土器で、24は羽状縄文。25は単節のLR縄文。26は沈線による肋骨文となっている。27～32・34は諸磯・浮島式系の土器。27は口唇部に斜めの刻文と縦位の低い隆帯に半月状の刻文がある。28は竹管による並行沈線文。29・30は竹管による横位の連続刺突。31・34は口唇部に竹管による連続刻文。32は繊維を含む平底の土器。33は口縁部の把手。

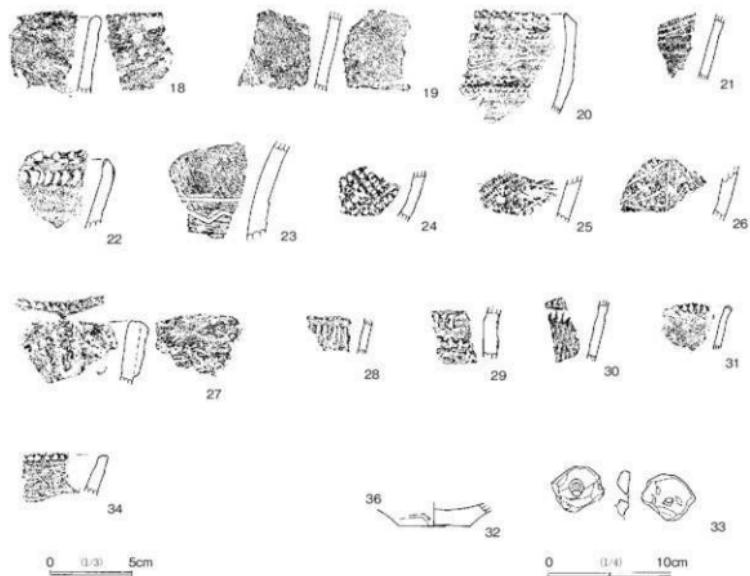
第72図は43～48は石器。43は黒曜石の石鎌で、長さ2.4cm、幅1.4cm、厚さ0.4cm、重量0.9g。44は黒曜石の剥片で、長さ3.1cm、幅1.6cm、厚さ0.5cm、重量1.6g。45は黒曜石の剥片で、長さ2.7cm、幅2.3cm、厚さ1.0cm、重量5.6g。46は黒曜石の剥片で、長さ4.4cm、幅3.3cm、厚さ1.0cm、重量10.7g。47は安山岩の打製石斧で、長さ9.5cm、幅5.3cm、厚さ2.4cm、重量161.4g。片面を剥離させ刃部を造り出している。48は凝灰岩の磨製石斧で、長さ7.3cm、幅3.4cm、厚さ1.3cm、重量54.2g。片面に造り出した刃部は丁寧に磨かれている。



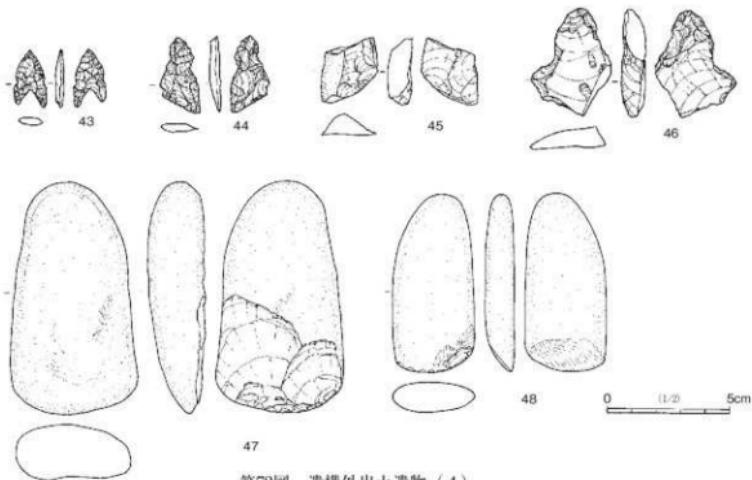
第69図 遺構外出土遺物（1）



第70図 遺構外出土遺物（2）



第71図 遺構外出土遺物（3）



第72図 遺構外出土遺物（4）

第2表 遺構出土土器観察表

組別	種類	器種	形態	基底	底面	地質	色調	底面色調	周辺色調	備考	
No.	%	mm	mm	mm	mm						
1	土器	1. 土器	30	-	<2>	60	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底板赤褐色底面黒帯テカリ	底部外側クロロナデ	
6	1. 土器	10	(10.3)	25	12.0	4.0	(6.5)	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ
2	1. 土器	5	-	(12.3)	<1>	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ
3	1. 土器	5	(15.5)	10	(16.5)	<3>	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ
7	1. 土器	10	(20.0)	24	<2>	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
9	1. 土器	10	(11.2)	30	5.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ
10	1. 土器	5	-	<1>	8.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ
11	1. 土器	70	-	(27.7)	7.5	-	-	-	白色(白)・多	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ
12	1. 土器	30	(21.0)	-	-	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ
13	1. 土器	50	17.5	6.2	8.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ・内壁青色
14	1. 土器	40	(12.3)	38	6.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ
15	1. 土器	70	11.9	4.0	6.2	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ
16	1. 土器	40	(21.0)	12.2	6.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
5	1. 土器	60	12.0	3.9	6.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
6	1. 土器	40	-	<2>	6.1	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
7	1. 土器	30	-	<1>	6.6	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
9	1. 土器	5	-	<1>	6.6	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
10	1. 土器	5	-	<2>	(11.2)	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
11	1. 土器	5	(12.8)	<4>	-	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
15	1. 土器	25	(16.0)	5.1	6.2	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
3	1. 土器	80	10.0	3.5	6.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
4	1. 土器	40	(12.4)	6.0	6.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
4	1. 土器	20	-	<1>	7.4	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
6	1. 土器	25	-	<1>	6.4	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
7	1. 土器	20	-	<1>	6.6	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底板赤褐色
8	1. 土器	20	(23.4)	<2>	-	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
17	1. 土器	10	(17.0)	<4>	-	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
3	1. 土器	20	(12.0)	<2>	-	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
4	1. 土器	15	(14.0)	<2>	-	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
6	1. 土器	25	(12.0)	<3>	6.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
8	1. 土器	30	-	<1>	5.7	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底板赤褐色
9	1. 土器	60	<2>	3.5	6.0	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
10	1. 土器	10	(18.0)	<1>	7.5	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
12	1. 土器	20	(12.0)	<2>	-	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
14	1. 土器	15	(16.4)	<2>	-	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
18	1. 土器	20	(14.1)	2.0	(7.0)	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側ヘタケズリ
2	1. 土器	30	-	-	-	-	-	-	白色(白)・多・黑色(黒)・少	白色(73YR7-6)	底部外側クロロナデ

番号	品種名	別名	特徴	茎形	葉形	葉面	葉質	葉長	葉幅	葉面形	葉色	花期	花序形	花色	果実形質	果実色	果実形状	果実色
2	鹿児島高台所生			直立	披针形	有毛	革質	10cm	cm	直角状	白色	6月上旬	輪房	白色	白色	白色	白色	
33	1.土浦高所	30	-	<25°	6.7	(7.6)	-	石松形(細・多)	cm	直角状	白色	6月上旬	輪房	白色	白色	白色	白色	
33	1.土浦高所	30	-	<25°	7.8	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
3	1.土浦高所	35	-	<25°	5.8	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
4	1.土浦高所	10	(12.5)	4.1	(6.2)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
5	1.土浦高所	10	-	<25°	6.0	(7.1)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	
6	1.土浦高所	5	(18.8)	4.6	(5.6)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
7	1.土浦高所	5	(3.6)	<10°	-	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
34	1.土浦高所	30	-	<25°	5.5	(11.0)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	
35	1.土浦高所	100	11.5	3.9	(5.6)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
2	1.土浦高所	25	(12.2)	3.7	(6.0)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
3	1.土浦高所	30	(12.5)	7.1	(4.1)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(小・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
4	1.土浦高所	50	(11.6)	12.8	5.8	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
5	1.土浦高所	70	11.6	5.0	10.0	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
6	1.土浦高所	5	(28.6)	-	(8.0)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
7	1.土浦高所	20	(11.0)	<10°	-	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
8	1.土浦高所	40	-	<25°	(16.0)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
9	1.土浦高所	30	-	(2.0)	(10.0)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
36	1.土浦高所	95	11.5	3.8	6.2	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
2	1.土浦高所	35	(13.0)	<25°	(6.6)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
3	1.土浦高所	60	12.5	4.9	7.0	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
4	1.土浦高所	60	12.5	7.0	7.0	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
5	1.土浦高所	30	-	<25°	(6.0)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
6	1.土浦高所	10	(15.5)	<1.5°	-	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
7	1.土浦高所	10	(16.6)	<4°	-	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
9	1.土浦高所	30	-	<10°	-	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
37	1.鹿児島高台所生	10	-	<15°	6.9	(7.0)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	
2	1.鹿児島高台所生	15	(14.0)	<10°	-	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
4	1.鹿児島高台所生	15	(14.0)	<10°	-	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
5	1.鹿児島高台所生	10	(15.6)	<10°	-	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
6	1.鹿児島高台所生	5	(18.8)	<5°	-	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
39	1.鹿児島高台所生	100	11.9	37	6.3	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
2	1.鹿児島高台所生	85	12.1	4.1	6.6	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
3	1.鹿児島高台所生	50	11.8	37	6.6	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
4	1.鹿児島高台所生	40	(12.0)	15	7.0	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
5	1.鹿児島高台所生	20	(12.3)	3.6	(6.4)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
6	1.鹿児島高台所生	20	(13.2)	4.1	(7.2)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	
7	1.鹿児島高台所生	30	(11.4)	3.7	(6.0)	-	直角状(細・多),馬蹄形	cm	直角状(細・多),馬蹄形	(中・少)	白色	(5月)6月	輪房	白色	白色	白色	白色	

種名	別名	科名	被毛	色彩	成虫		成虫飞翔	幼虫
					長さ	幅		
93	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	cm	cm	cm	cm
94	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	3.5	0.8	無斑紋（細）、白粉紋（多）、白粉紋（細）、少	無色（7.5/765-6）
95	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	-	-	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
96	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	4.5	1.1	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
97	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	4.0	1.2	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（7.5/765-6）
98	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	3.5	0.7	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
99	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	3.7	0.6	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
100	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	4.0	0.8	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（7.5/765-6）
101	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	(4.5)	0.7	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
102	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	3.0	0.5	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
103	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	4.0	0.7	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
104	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	4.0	0.7	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
105	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	(4.5)	0.7	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
106	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	3.0	0.5	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
107	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	4.0	0.7	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
108	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	5	-	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
109	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	4.0	0.7	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
110	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	3.0	0.5	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
111	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	3.0	0.5	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
112	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	3.0	0.5	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）
113	ナガハシ	ナガハシ科	無	黒	-	-	白粉紋（細）、白粉紋（粗）、少	無色（5.7/765-6）

THE JOURNAL OF CLIMATE

第3章　まとめ

第1節　遺跡の特徴

名木鎌部遺跡は、遺跡南部を東西に横切る市道を境に北側の集落域と南側の特殊遺構及び塚状遺構がそれぞれ特徴的な存在となっている。

集落跡では、日用雑器とともに墨書き土器・瓦・転用硯・瓦を再利用した支脚・火舎の獸脚（1）などが出土している。10号住居跡・14号住居跡・18号住居跡・19号住居跡・23号住居跡・35号住居跡・39号住居跡・40号住居跡・41号住居跡・44号住居跡・46号住居跡・47号住居跡・48号住居跡・50号住居跡・51号住居跡では土師器杯に墨書きが観られ、20号住居跡・28号住居跡・44号住居跡からは凸面は正格子タタキ目、凹面は布目の平瓦が出土し、36号住居跡・50号住居跡のカマドでは支脚替わりに丸瓦が代用されており、名木庵寺跡との関わりの強さを想起させる。

特殊遺構では、堆積層序の観察から2段階に分かれて埋没した可能性があり、それぞれ大量の土器類が出土した。

塚状遺構は土器類の出土は無く、土盛部のはば中央部から瓦片と鉄釘が多数検出された。また、土盛部の中央はその堆積状況から土盛りされた後に頂部から掘り込まれた様にも観察される。したがって、盛土上部に置かれた2枚の板石は、既に存在していた古墳の埋葬施設から抜き取り借用したもので、盛土自体も古墳墳丘の再利用であった可能性も否定できない。塚状遺構出土の平瓦は、凸面は正格子タタキ目、凹面は布目のものが主体である。

第2節　遺構出土遺物の様相と年代

集落跡から出土した土器の観察結果（第2表）からⅠ期～Ⅲ期に分類される。集落跡出土土器の編年（第3表）に用いた土器は、特徴的な土器を出土した住居跡単位で抽出しており、すべての住居跡出土の土器ではない。表中に無い他の住居跡出土の土器についても本分類が基本となる。

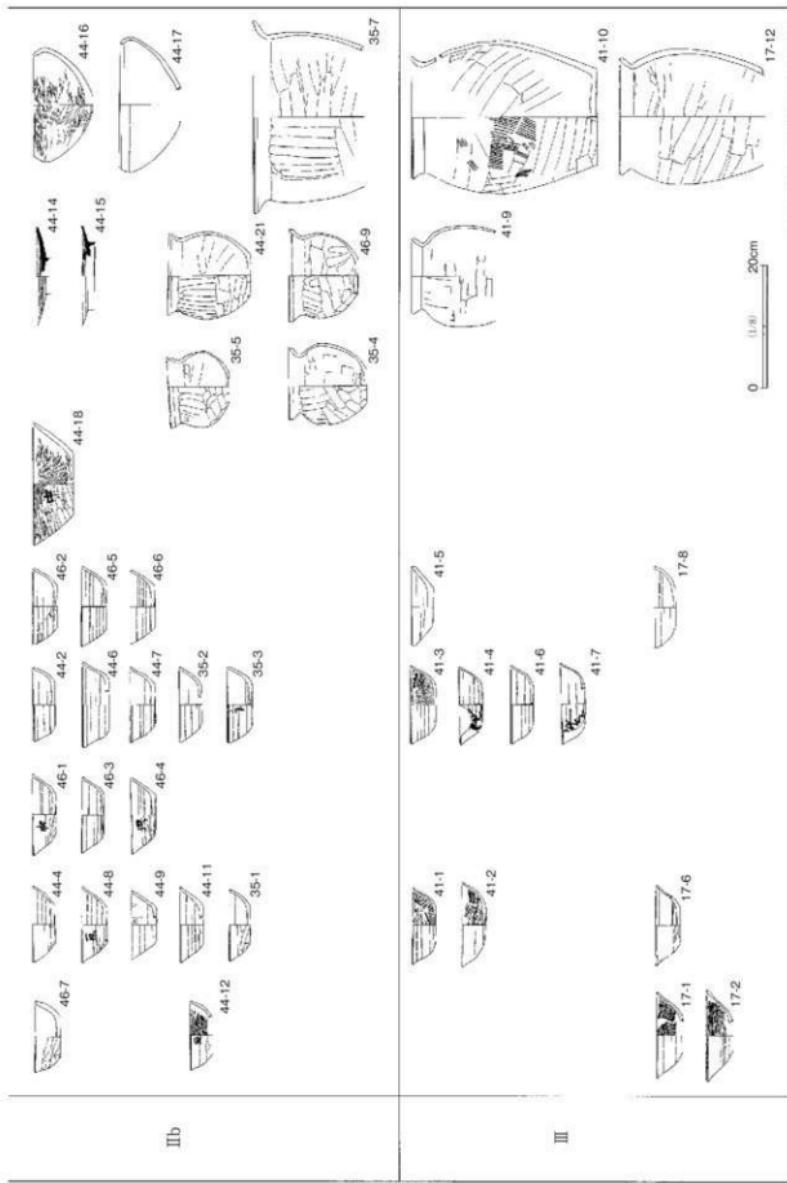
Ⅰ期では、丸底の杯は体部全体をヘラケズリで器面調整し、口縁部に比べて器高は低く、浅く扁平な器形を特徴とする杯A（SK2-1, 15-3, 20-2）。体部は口縁部径と底部径にあまり差のない箱形の器形の杯C（15-2, 20-1・3）がある。体部が逆「ハ」字状に立ち上がり、体部下端は手持ちヘラケズリが観られ、内面に丁寧なミガキのある器形の杯D（15-1）。2は口縁部はいわゆる武藏型の特徴である「コ」字状の屈曲部を有し外反する小型甕（SK-2・3）。口唇部が小さく上に摘み上げられ、口縁部が短く「く」字状に外反する大型の常総型の甕も観られる（20-6）。

Ⅱ期は体部を全面ヘラケズリで調整する杯の推移によりⅡa期とⅡb期に整理した。

Ⅱa期では、体部をヘラケズリで調整した杯Aは丸底の器形は姿を消し、平底のものが観られる（14-4, 39-4）。体部が逆「ハ」字状に立ち上がり、体部は口縁部径と底部径にあまり差のない箱形の器形の杯B（13-2, 14-2, 28-3, 39-3～5・8, 40-3・5・7・8・10, 47-1, 48-2, 50-3, 51-1・3・4）。体部の口縁部径と底部径にあまり差のない箱形の器形の杯Cは、やや器高が低くなる傾向が観られる。この杯はⅠ期から引継がれ、本集落跡で最も多く観られる形態の杯である（14-1・3, 28-1・4, 36-1・

第3表 集落跡出土土器の編年

	杯A	杯B	杯C	KD	その他
I	SK2-1 14.4 39.4	20.1 13.2 40.3 7 40.5 40.7 40.8 40.10 48.2 39.3 39.5 39.8 51.1	20.3 15.2 51.3 51.4 28.3 50.3 40.8 47.1 14.2 39.1 39.2 39.6 39.7	36.4 36.1 28.1 40.1 28.4 40.2 48.1 13.1 36.6 36.7	SK2-2 SK2-3 15.1 15.2 15.3
IIa					
					0 (1/8) 20cm



- 113 -

4, 39-1・2・6・7・10, 40-1・2・4, 48-1)。I期の椀に近い器形の杯Dは、IIa期では口縁部径がやや広く、器高が若干高くなる。体部が逆「ハ」字状に立ち上がり、内面に丁寧なミガキが観られる(13-1)。その他には、土師器の蓋(36-6)がある。この土師器蓋も頂部には宝珠状の突起を持つものであり、畿内では7世紀初頭に蓋杯の蓋と杯が逆転し、蓋の頂部に宝珠状の突起をもつとされるが、下総地域においては8世紀中葉以降が土師器蓋の出現時期とされている。蓋は口縁部が「く」字状に屈曲し、口唇部が小さく上に摘まれている(36-7)。

IIb期は、IIa期に引き続き、体部全面へラケズリ調整の杯Aのうち底部が平底の杯(46-7)が残る。また、体部が丸みを帯びて内湾しながら立ち上がる椀状の器形の台付杯が出現する(44-12)。この椀状の杯は内面が丁寧なミガキを施されている。杯Bは、体部が逆「ハ」字状に立ち上がり、IIa期のものよりもやや底部径が減じ、底部付近は依然手持ちヘラケズリで調整する(35-1, 44-4・8・9・11, 46-1・3・4)。杯CはIIa期のものとあまり差のない器形であるが、口縁部径がやや小型化の傾向が窺える(35-2・3, 44-2・6・7, 46-2・5・6)。杯Dでは口縁部径は大きさを増し、器高も高く、体部は逆台形状に立ち上がる(44-18)。内外面は黒色処理されており、内面は丁寧なミガキが施されている。蓋は、口縁部が「コ」字状の屈曲部を有し、武藏型の大型蓋と通じるものがある小型蓋(35-4)、口縁部くびれはむしろ「く」字状で常盤型に近い小型蓋(35-5, 44-21, 46-9)が観られる。その他の土器では、須恵器の高台付盤(44-14・15)、土師器鉢(44-16・17)がある。土師器の鉢は、鉄鉢または瓦鉢の代用品とも思われ、仏事に関わるものもある。

III期の杯は、いづれも口縁部径がやや小さくなり、全体に小ぶりの形状となる。IIb期で出現した体部が丸みを帯びて内湾しながら立ち上がる椀状の台付杯が引き続き観られるが、口縁部径はより広く開口したものとなっている(17-1・2)。杯Bは、I期・IIa期・IIb期の杯よりも底部付近に丸みが加わり、器形的にはIIb期から出現した台付杯の体部にきわめてよく似た形状となっており、底部下端は手持ちヘラケズリ、内面は丁寧なミガキが施されている(41-1・2)。なお、同じタイプの杯ではあるが、内面にミガキの無いものも観られる(17-6)。杯Cも底部付近は丸みを帯びており、体部がやや内湾ぎみに立ち上がり、底部には安定した平坦面はない(41-3・4・6・7)。また、体部は逆台形状に立ち上がり、底部が平坦で器高が低く扁平な形状の杯(41-5)や体部が内湾ぎみに立ち上がり、底部が平坦な形状の杯(17-8)も観られる。なお、杯DはIII期では観られない。蓋は、小型蓋(41-9)・大型蓋(17-12・41-10)とともに口縁部は「く」字状の屈曲部をもつ常盤型である。

以上各期の観察から、I期は8世紀中庸、IIa期は8世紀後半～9世紀前半、IIb期は9世紀前半～中葉、III期は9世紀中葉～後半の時期に相当するものと思われる。

また、名木鎌部遺跡の集落跡には、3号住居跡及び9号住居跡からは火舎の支え部分と思われる獸脚が検出された。遺構外出土のものと計4点が検出されている。類例としては、安房国分寺でも三彩の獸脚が出土しており、その年代は8世紀後半とされている。IIa期・IIb期の土器を出土する住居跡群は本遺跡の中心的な時期に存在していた事が考えられ、これは名木鎌部遺跡の年代より若干後に相当するものと思われる。

名木鎌部遺跡のもう一つの特徴的な遺構である特殊遺構から出土した土器は、覆土の堆積状況から上下2層に分布が分かれる。

下層出土の土器は、底部が回転糸切りの杯(6・9・10～16・20・25)、口縁部径が広くやや大きめの

第4表 特殊遺構出土土器の層位と様相

杯、碗、小型皿		高台付皿、器台		蓋
覆 土 上 層	70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 32 33	4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106	34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106	0 11.8 20cm
覆 土 下 層	69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106	0 11.8 20cm	0 11.8 20cm	0 11.8 20cm

卷之三

杯部を特徴とする（65・69・84）の他は比較的小型の杯部を特徴とする高台付杯（37・40・41・45・49・50・63・64）、足高高台付杯（46・48・93）、足高高台付皿は浅い杯状の皿部が特徴の（35・38）と皿部が小さく扁平なもの（79・80）があり、底部にヘラ状工具で焼成前に穿孔した足高高台付杯の底部に穿孔を施した器台（97～99・103）、小型皿（21・23・24・26・29～31）が主な器種構成となる。

これらの器種を下総東部の土師器編と比較すると特殊遺構の下層出土土器群は10世紀～12世紀の時期相当の各器種で構成されているものと思われる。

上層出土の土器は比較的遺存状態の良好なものが多く、箱型で底部が回転糸切り後端部手持ちヘラケズリの土師器杯（1・2・3）、緩やかに内湾しながら立ち上がる土師器杯（4・8）、比較的小型の杯部を特徴とする高台付杯（42～44・47・51・53～59・61・62・66・67・87～89・91・92）、椀状の杯部が特徴の高台付杯（39・60・66・67・70～76・81～83・85・86）、足高高台付皿は浅い杯状の皿部が特徴の（34・36）と皿部が小さく扁平なもの（78）があり、足高高台付杯の底部に穿孔を施した器台（100・104）、足高高台付皿の底部に穿孔を施した（101・105）、小型皿（27・28）が主な器種構成となり、器台として使用されたと思われる器種が足高高台付杯と足高高台付皿の2タイプ存在することが判明した。また、足高高台付杯・皿は、成田市郷部加定地遺跡出土のものと類似しており、上層から出土した土器群の年代は8世紀末～10世紀の時期相当と思われる。

次に、下層と上層から出土したそれぞれの土器群の観察結果からについて触れておきたい。

下層の土師器杯は、高台付のものが主体で内湾しながら立ち上がり、口縁部径は広く開口する。また、器高の低い小型皿形の土師器の存在が顕著である。一方上層の土師器杯は、椀形の杯部をもつものが顕著となる。高台付土師器杯では口径が広く杯部が浅くなる傾向が観られる。この傾向は小型の高台付杯でも同様である。上層と下層の出土土器の比較観察から、上層の土器群は下層の土器群よりも古い時期となっており堆積の順が逆転している。このことは、下層土器群の堆積後、何らかの原因で道路北側の集落跡から運ばれたやや時期の遅る上層の土器群が埋没したものと思われる。なお、下層土器群については今回の調査範囲内には同時期の堅穴住居跡は検出されていないが、名木庵寺跡のある現畠地にはなお未調査域もありこの時期の集落跡が包蔵されている可能性も否定できない。

名木庵寺跡の集落跡の年代は8世紀中頃～9世紀後半頃であり、特殊遺構の上層出土遺物の年代は8世紀末～10世紀である。名木庵寺跡の確認調査の際、基壇の直下から住居跡が検出されており住居跡の年代から名木庵寺の時期を8世紀後半としており、これは集落跡のIIa期・IIb期に該当する。前述の通り、36号住居跡・50号住居跡のカマドでは支脚替わりに丸瓦が代用されており、36号住居跡はIIa期の時期と考えられる事から名木庵寺の年代はIIa期の直前であることが推定される。また、特殊遺構は、下層出土の土器群が今回調査された範囲の集落跡出土の土器よりも若干新しい様相が観られ、特殊遺構と多数の瓦片を出土した塚状遺構がきわめて近接しており、塚状遺構の構築と関わりをもつ可能性について注意しなければならない。

最後に、集落跡出土の主な墨書き器について総括しておきたい。14号・19号・38号・40号・41号・44号・46号・51号の各住居跡出土の「中」（図版43）、16号・22号の各住居跡出土の「及」（図版43）、18号・44号の各住居跡出土の「亘」（図版43）、46号住居跡出土の「只」（図版44）、40号住居跡出土の「福」（図版44:40-2）、47号住居跡出土の「馬」（図版44:47-1）、48号住居跡出土の「古」（図版44:48-2）のほか、「寺」（図版43）の墨書きがI期～IIa期・IIb期の土器を出土する23号・35号・40号の各住居跡及び20Lグ

第5表 主な墨書き器

住居跡	主な墨書き文字
10	「庄」または「左」
14	「中」
16	「及」
18	「豆」
19	「中」、「桶治」または「柄治」
22	「及」
23	「寺」
30	「豆」
35	「寺」、「候」、「長」
37	「真」
38	「中」
39	「収」
40	「中」、「福」、「寺」、「圓」、「世」・「卅」、「勿喜克■」
41	「中」、「參」、「廬」または「廊」・「厄」
44	「中」、「豆」、「因」
46	「中」、「只」
47	「馬」
48	「古」
50	「真■」(■は好か)、「立寺」または「竟寺」
51	「中」
20Lグリッド	「寺」

墨書き（図版44：19-6）は、「桶治」または「柄治」に類する文字と思われるが、一文字目の左側は「木」または「禾」、右側のつくりの下部は「用」または「冉」のいづれかが考えられ、横線が畠内に留まっている痕跡に注意するならばこの部分は「用」の可能性が高いが、「冉」には古代中国の唐碑及び蘇軾の書筆に中央の縦線が下まで抜けるものも有り断定はできない。

図版45の17一括の墨書きは「弁」・「弄」・「弁」・「弁」・「弄」などの可能性がある。図版45の35号住居跡出土の墨書きは上半部と左半分が不明であるが、「候」の右下半部の筆跡と類似している。

また、図版44の40-4-1～40-4-4は1個体の杯の体部及び底部に様々な墨書きが書かれている。特に体部の墨書き（40-4-4）は短文の可能性があり、四文字分ほどが土器遺存部分に認められ、一文字目は「分」または「勿」、二文字目は「喜」、三文字目は「克」のそれぞれ書体に類似する。なお、四文字目は判読不明である。

40-4-1は判読困難ながら、「圓」及び「世」または「卅」に類似の文字か記号の下書きのようである。40-4-2は「中」異体字で、40-4-3は底部に書かれた墨書きは2文字と思われるが判読は困難である。図版45の41-3-2は下部がやや不鮮明であるが「高」の可能性が高い。また、図版45の35-3の墨書きは「長」の左下半部と思われ、図版45の39（40・46）-10-1の墨書き器は、39号・40号・46号の各住居跡出土の土器片が接合しており、体部と底部に墨書きが観られる。このうち、底部の墨書きは文字の右側の部首のさらに半分ほどの筆跡ではあるが「収」と思われる。これら3軒の住居跡は出土土器の観察からⅡa期頃のものと考えられる。

これらの墨書きは筆の運びが微妙なものが多く、他の文字の可能性もあるが、漢字の楷書、行書、草書、

リッドから検出されており、50号住居跡からは「立寺」または「竟寺」の墨書き（図版44：50-3）も観られ、隣接する名木庵寺との関わりを考える上で興味深い。

また、やや判読しづらいものに、10号住居跡出土の「庄」または「左」（図版44：10-1）、44号住居跡出土の「大」または「丈」（図版44：44-1括）らしき墨書きは文字の周囲を閉む筆跡も観られることから「因」である可能性もある。50号住居跡出土の墨書き「真■」

（図版44：50-1括）の■は、左側の偏と右側のつくり「イ」または「子」の組み合わせと考えられる事から「仔」または「好」と思われる。41号住居跡出土の墨書き（図版44：41-7）は「參」、図版44の41-4は「廬」・「廊」・「厄」などが考えられる。19号住居跡出土の

隸書、篆書の五体を古典より採録した五體字類によれば、古代の漢字には正体のほか変体及び別体のいわゆる異体字が多数存在し、同じ文字であっても必ずしも一定でないことが判る。一方、こうした異体字が同一住居跡から出土する背景については、その原因についての分析はあまりなされておらず、他の遺跡の調査事例も含めた再検証が期待される。

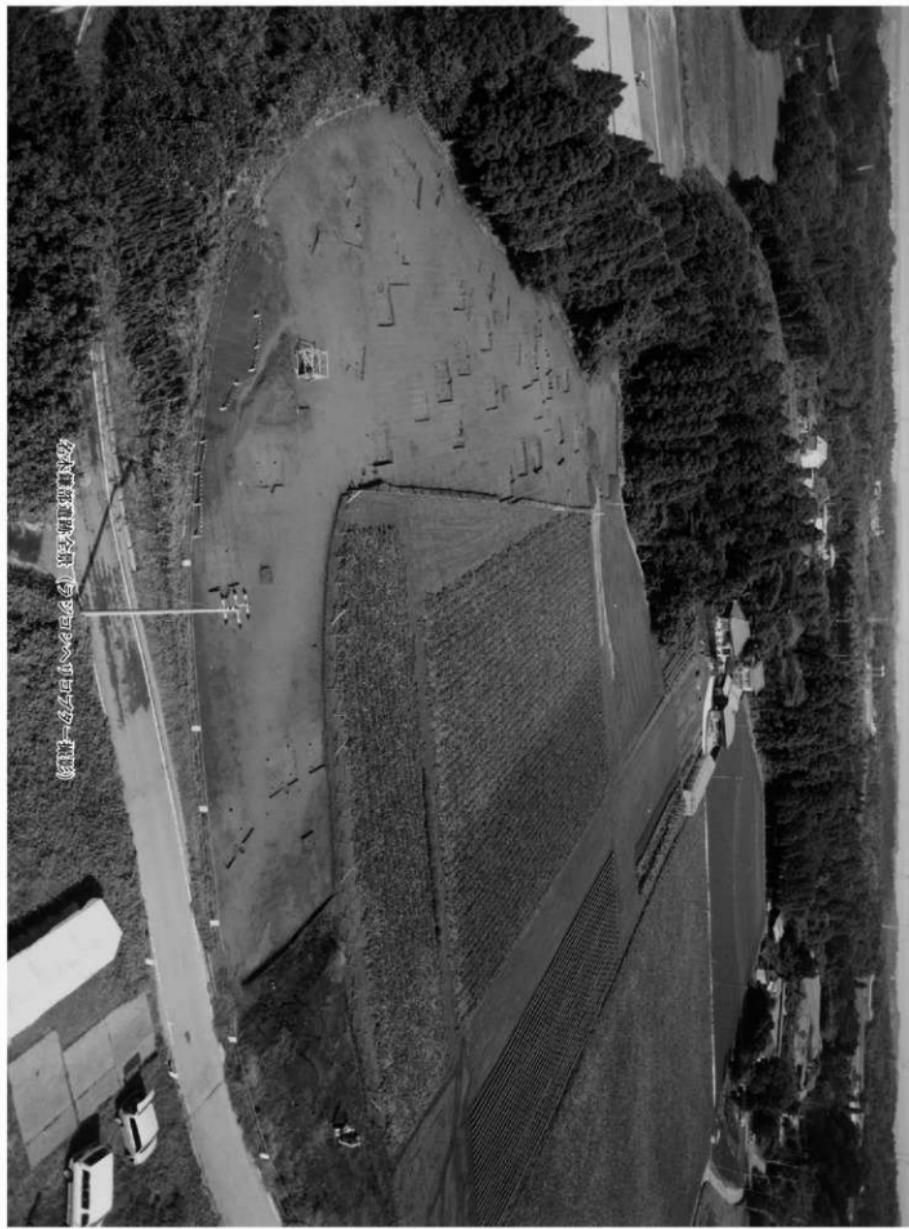
註 (1) 火舍(かしゃ) 仏事に用いる蓋のついた香炉(大辞林)。2011年6月には奈良市の平城京跡東院地区で金銅製(2脚)と須恵器(1脚)の獣脚が出土したことが、奈良文化財研究所により発表されている。特に獅子の頭の付いた須恵器製の獣脚は正倉院御物(5脚1組)の火舍と類似のものとされている。(西日本新聞2011年6月16日付)

- 参考文献 1983『下総町名木庵寺跡確認調査報告』財団法人 千葉県文化財センター
1981 中沢悟他『清里・陣場遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
1981 滝口 宏『安房国分寺』
1982 服部敬史『南武藏における古代末期の土器様相』東京考古I
1983 シンボジウム『房総における奈良・平安時代の土器』史館同人・市立市川考古博物館
1986 西 弘海『土器様式の成立とその背景』真陽社
1990『佐原市吉原三王遺跡』東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書V(佐原地区2)千葉県文化財センター調査報告第178集 財団法人 千葉県文化財センター
1996 石倉亮治『古代集落研究序説I』研究報告【人文科学】第4巻第2号 千葉県立中央博物館
1997『成田市加定地遺跡』成田市郷部北遺跡発掘調査報告書 成田市教育委員会編集・成田市郷部北遺跡調査会
2002 宮内勝巳『古代下総国東部の土師器について』10周年記念論集 財団法人 東総文化財センター
2004 平川南・沖森卓也・柴原永遠男・山中章編『文字と古代日本I 支配と文字』吉川弘文館
2005 平川南・沖森卓也・柴原永遠男・山中章編『文字と古代日本II 文字による交流』吉川弘文館
2005 平川南編『古代日本文字の来た道—古代中国・朝鮮から列島へ—』大修館書店
2006 深津行徳・浦野聰編『古代日本における地方社会と文字』『古代文字史料の中心性と周縁性』春風社
2006『四街道市小屋ノ内遺跡(2)』 物井地区埋蔵文化財調査報告書IV 千葉県教育振興財団
調査報告557集 財団法人 千葉県教育振興財団
2007『四街道市小屋ノ内遺跡(3)』 物井地区埋蔵文化財調査報告書V 千葉県教育振興財団
調査報告586集 財団法人 千葉県教育振興財団
2010『四街道市稻荷塚遺跡』物井地区埋蔵文化財調査報告書VI 千葉県教育振興財団調査報告
613集 財団法人 千葉県教育振興財団
2010 高田竹山監修『五體字類』【改訂第三版】西東書房

写 真 図 版



図版2





遺跡全景



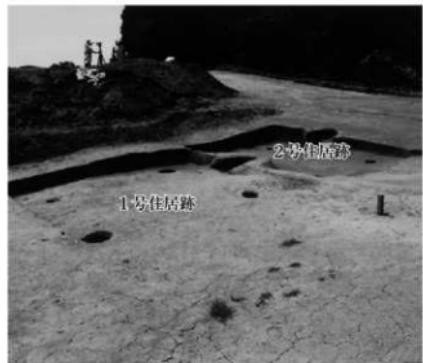
下層層序



1号住居跡



1号住居跡



1号住居跡

2号住居跡



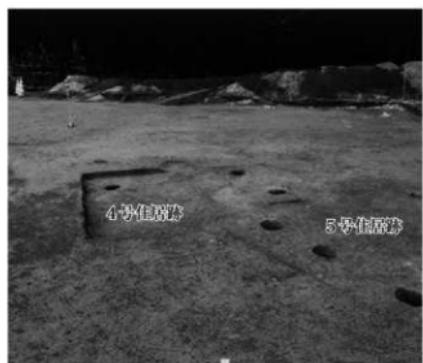
1号住居跡

2号住居跡

3号住居跡

2号住居跡

3号住居跡



4号住居跡

5号住居跡

4号住居跡

5号住居跡

5号住居跡





6号住居跡



7号住居跡



7号住居跡



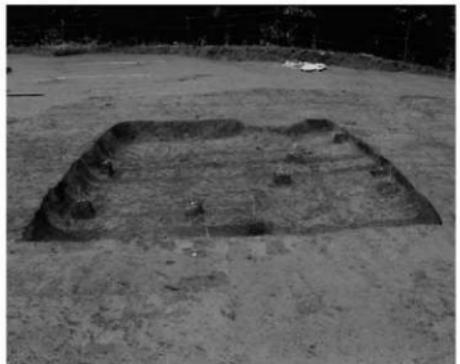
7号住居跡



7号住居跡



8号住居跡



8号住居跡



8号住居跡



9号住居跡



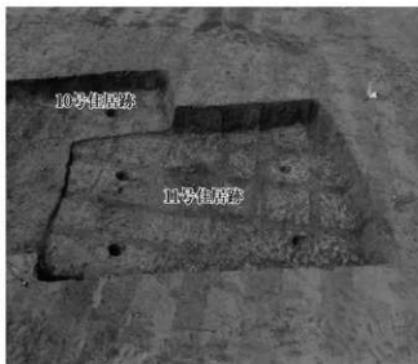
9号住居跡



10号住居跡



10号住居跡



11号住居跡



11号住居跡



11号住居跡



12号住居跡



13号住居跡





14号住居跡



14号住居跡



15号住居跡

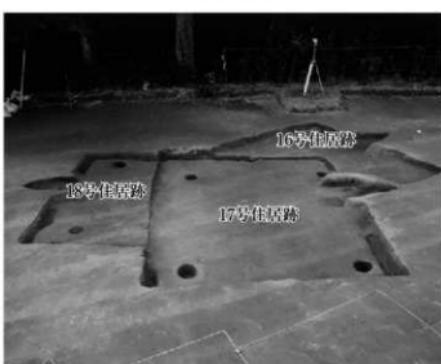
14号住居跡



15号住居跡



15号住居跡



16号住居跡

18号住居跡

17号住居跡

16・17・18号住居跡



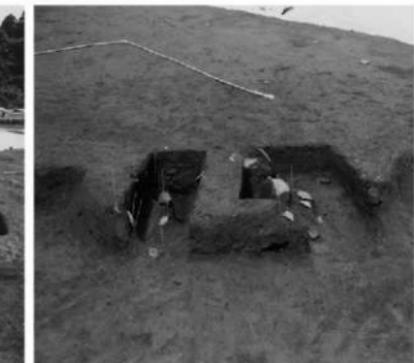
16号住居跡



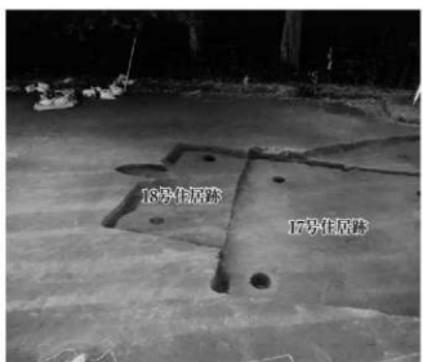
17号住居跡



17号住居跡



17号住居跡



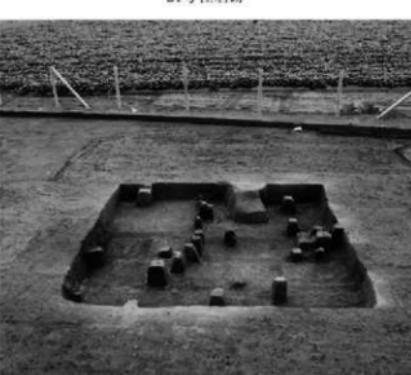
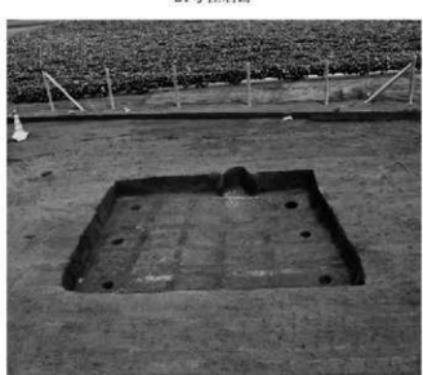
18号住居跡

17号住居跡



18号住居跡

17号・18号住居跡





23号住居跡



23号住居跡



24号・25号住居跡



24号住居跡



25号住居跡



25号住居跡



26号住居跡



26号住居跡



27号住居跡



28号・29号住居跡



28号住居跡



29号住居跡



30号住居跡



30号住居跡



30号住居跡



31号住居跡



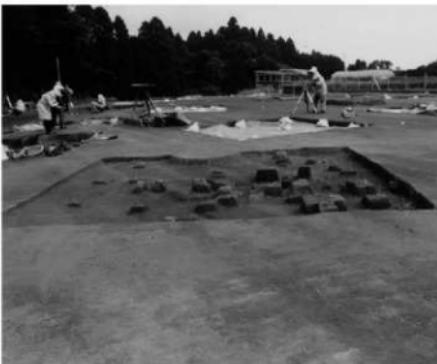
31号住居跡



31号住居跡



32号・33号住居跡



32号住居跡



33号住居跡



33号住居跡



31号・32号住居跡



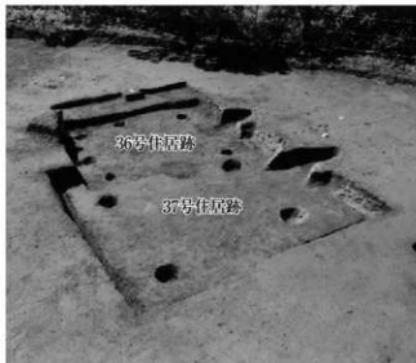
34号住居跡



35号住居跡



35号住居跡



36号・37号住居跡



36号住居跡



36号住居跡



37号住居跡



38号住居跡



38号住居跡



39号住居跡



39号住居跡



39号住居跡



39号住居跡



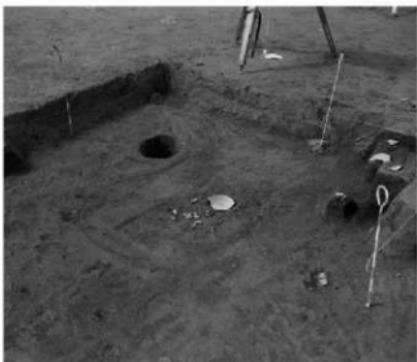
40号住居跡



40号住居跡



40号住居跡



40号住居跡



40号住居跡



40号住居跡



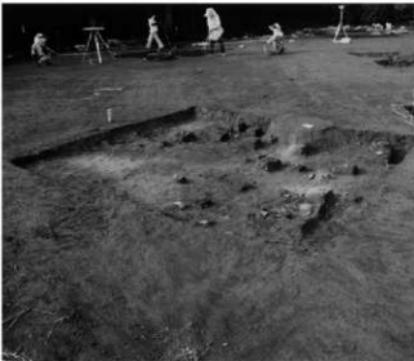
40号住居跡



40号住居跡



41号住居跡



41号住居跡



42号住居跡



42号住居跡



42号住居跡



42号住居跡



43号住居跡



43号住居跡



44号住居跡



44号住居跡



45号・46号住居跡



45号住居跡



46号住居跡



46号住居跡



47号住居跡



47号住居跡



48号住居跡



48号住居跡



49号住居跡



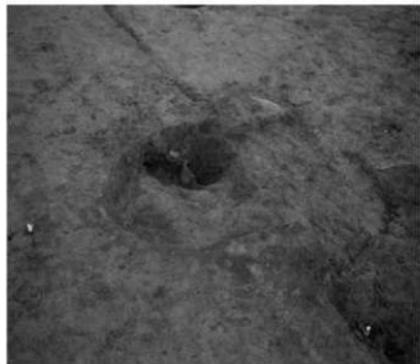
49号住居跡



50号住居跡



50号住居跡



50号住居跡



51号住居跡



51号住居跡



51号住居跡



特殊遺構



特殊遺構



塚状遺構



塚状遺構



塚状遺構



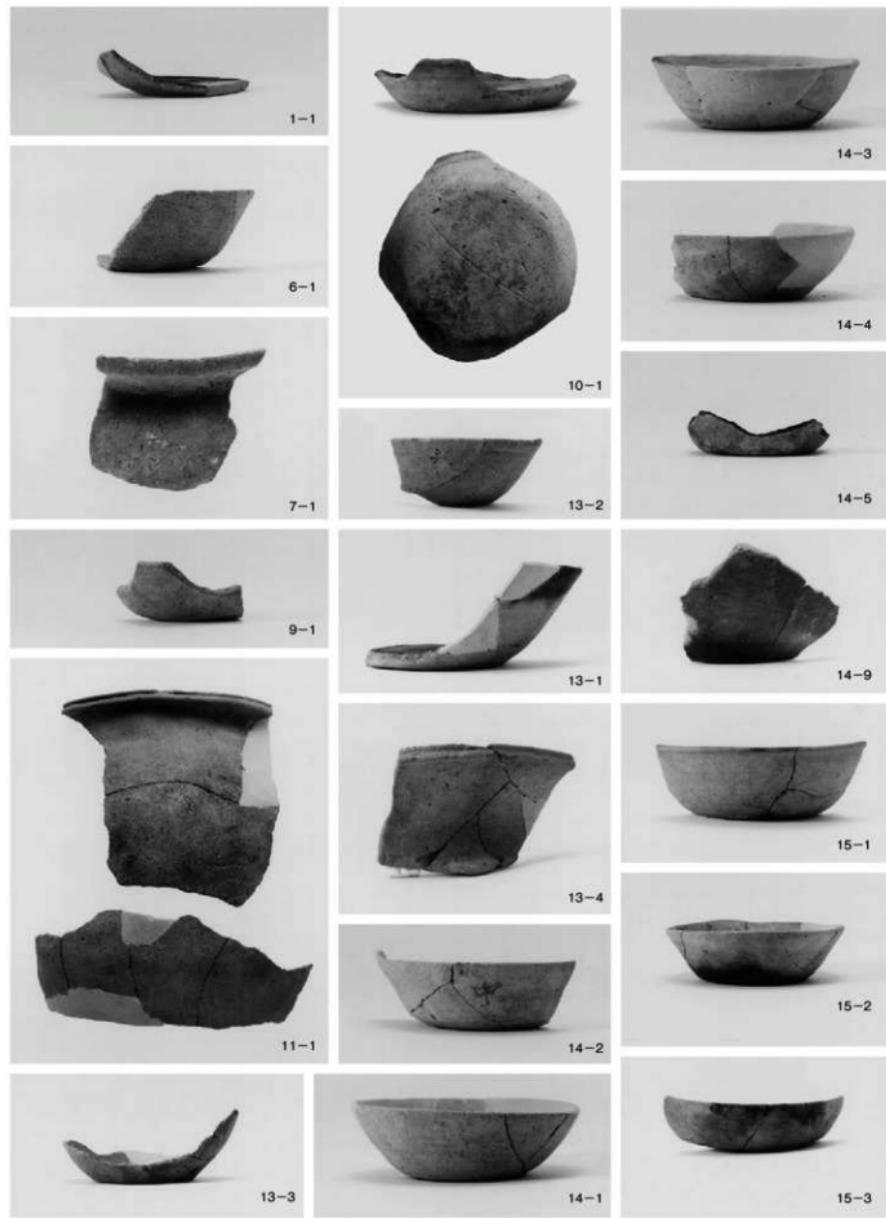
1号土坑



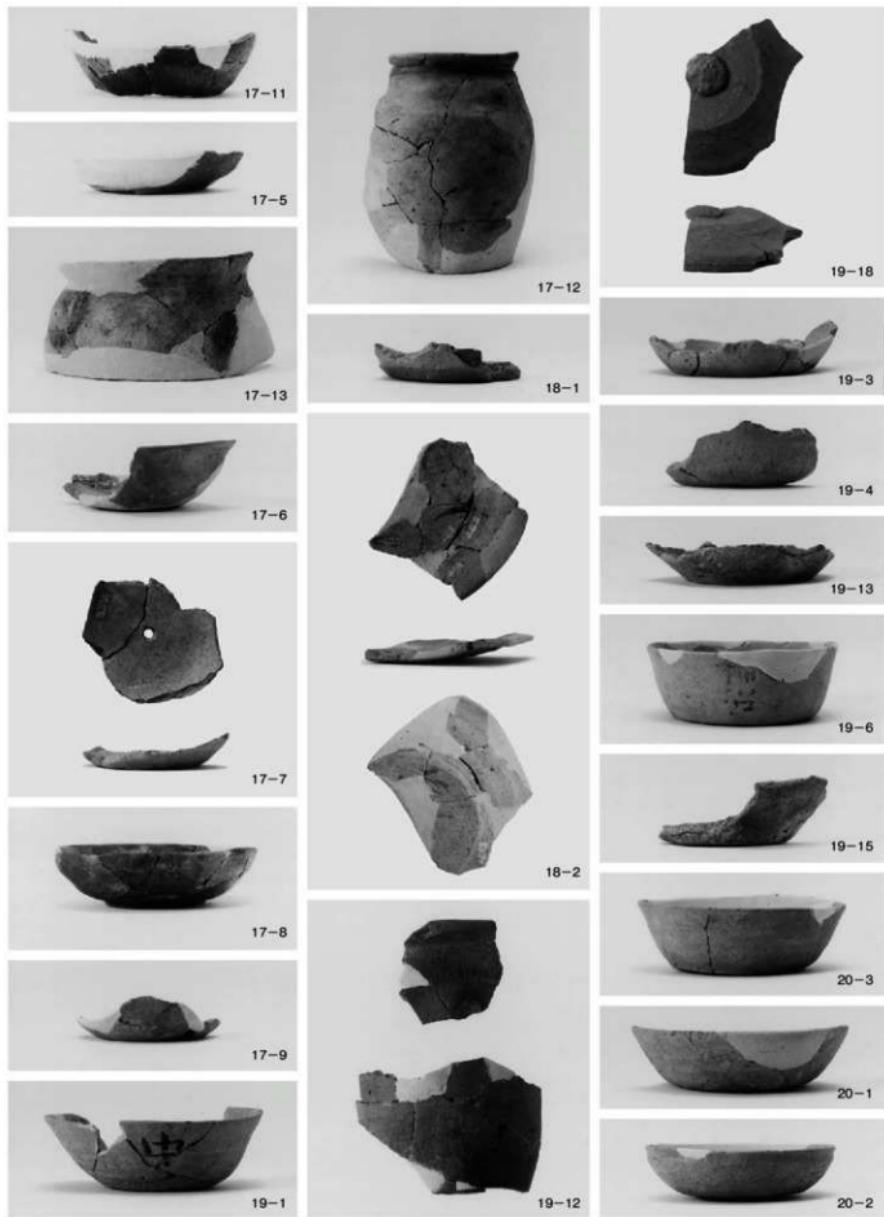
2号土坑



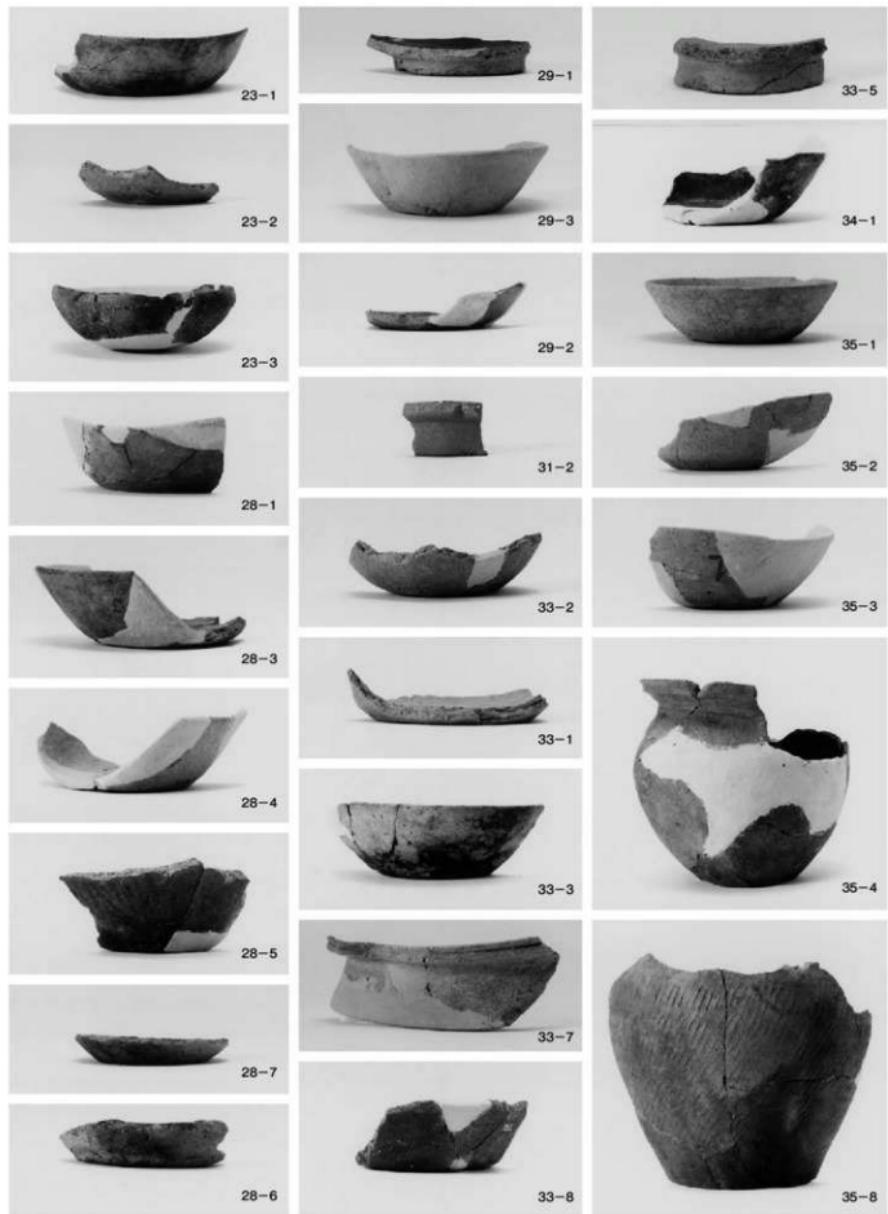
2号土坑



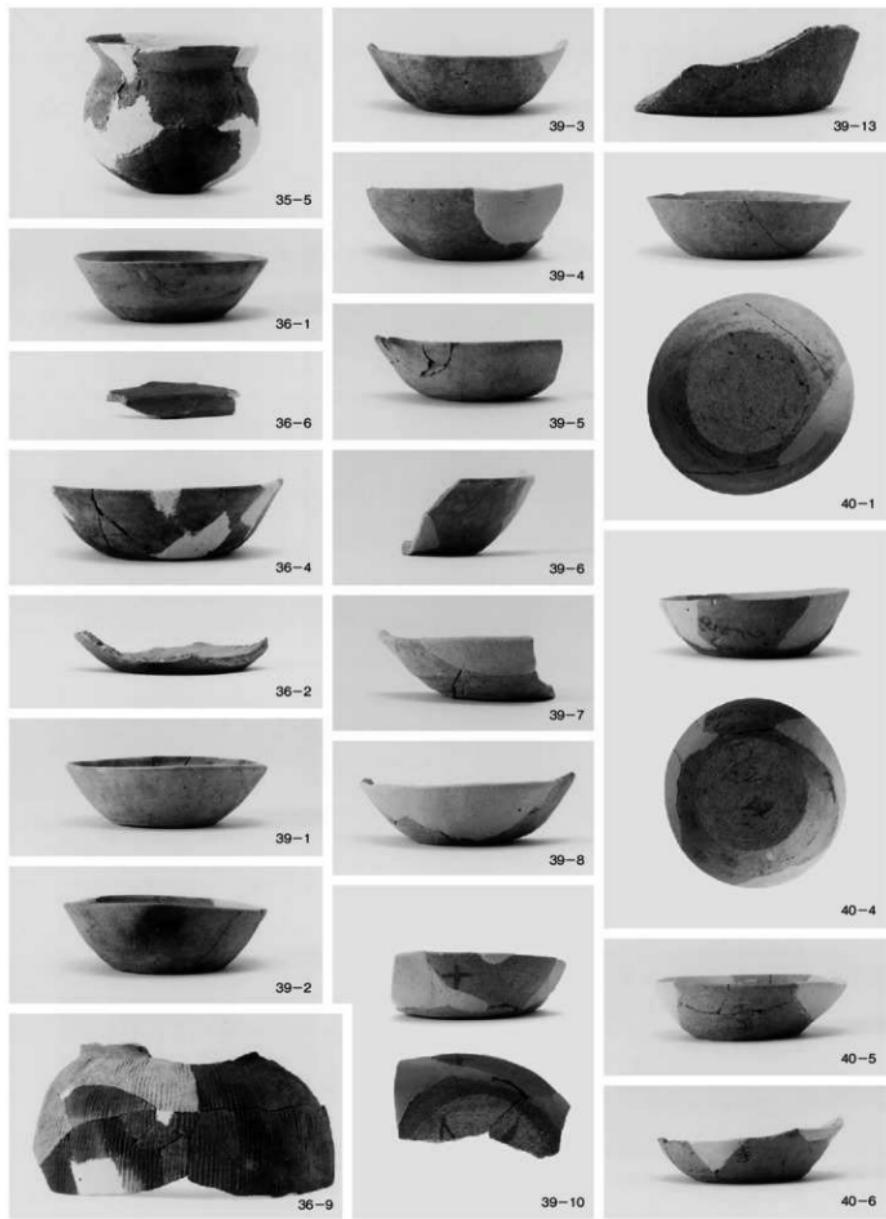
遺構出土遺物（1号住居跡～15号住居跡）



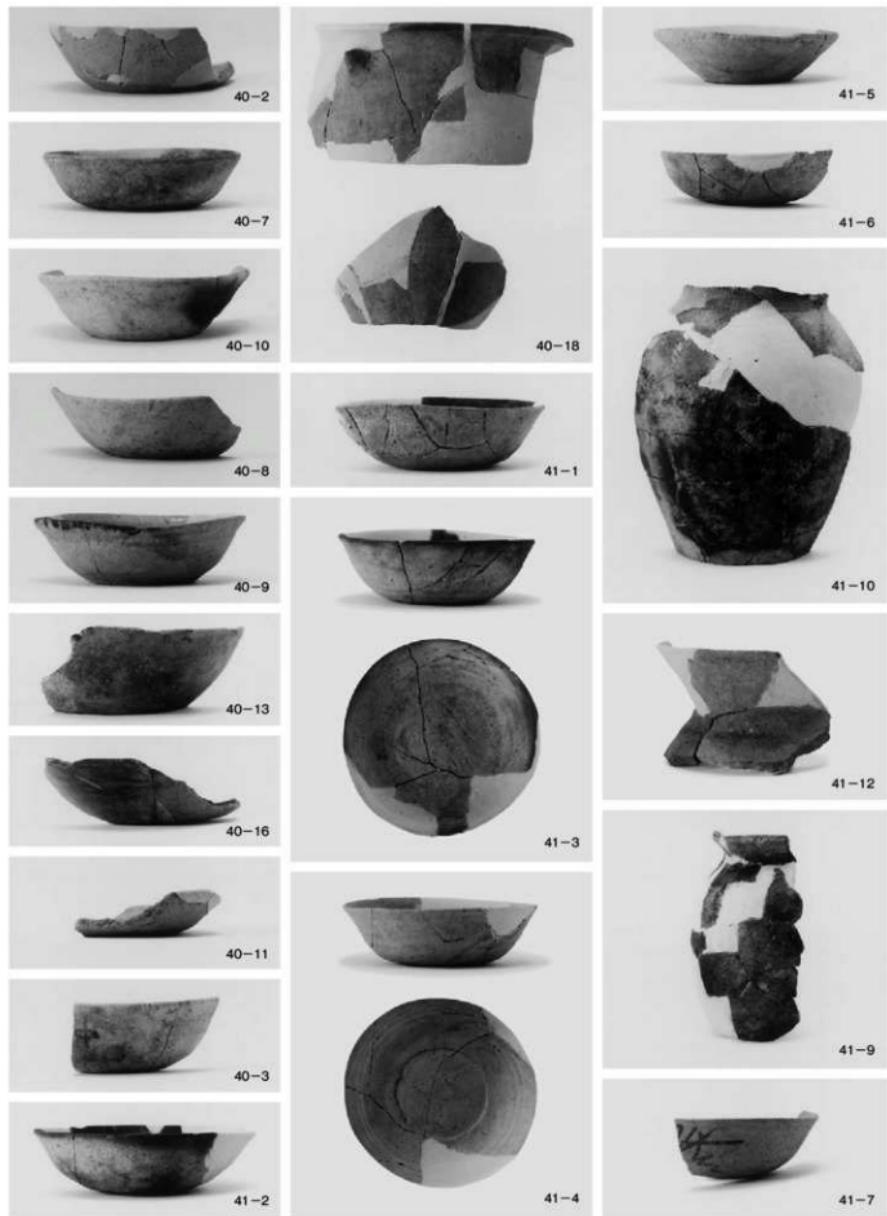
遺構出土遺物（17号住居跡～20号住居跡）



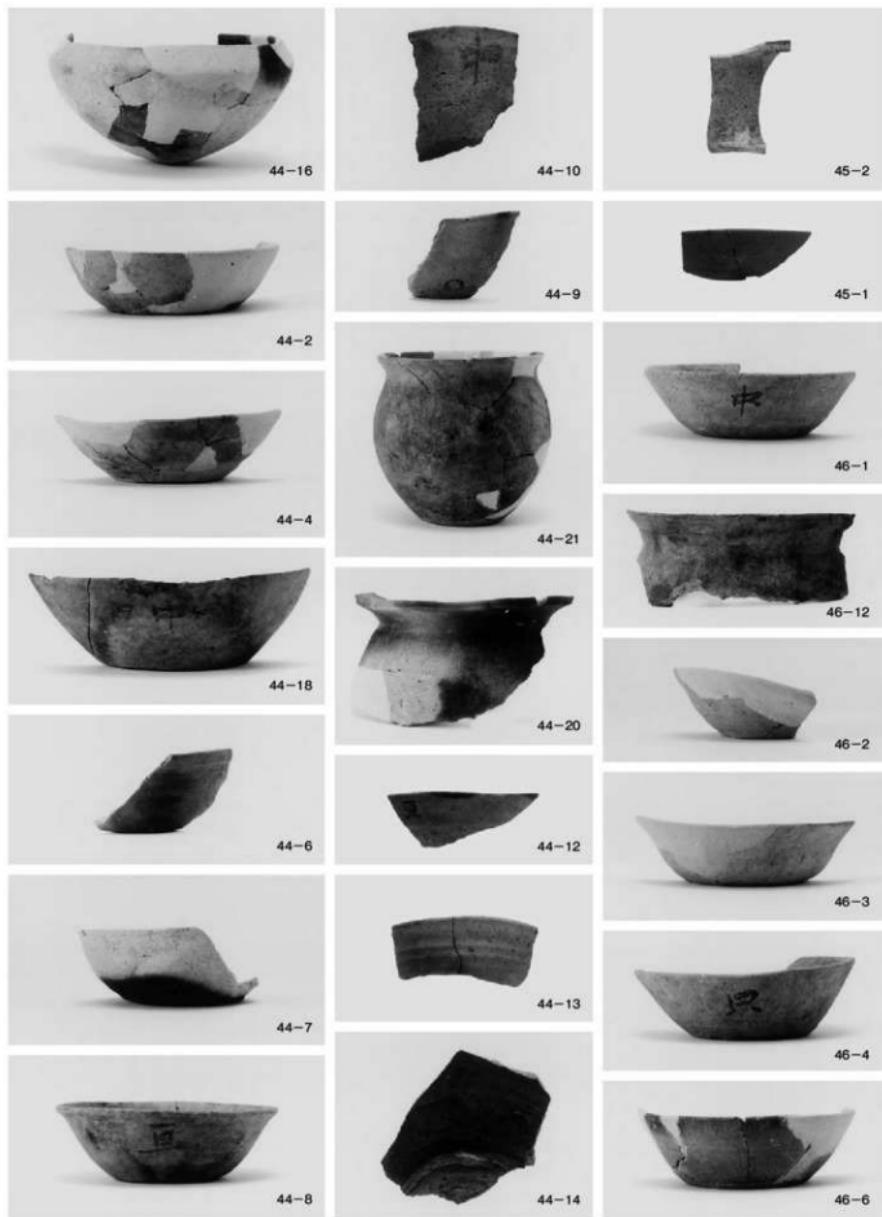
造構出土遺物（23号住居跡～35号住居跡）



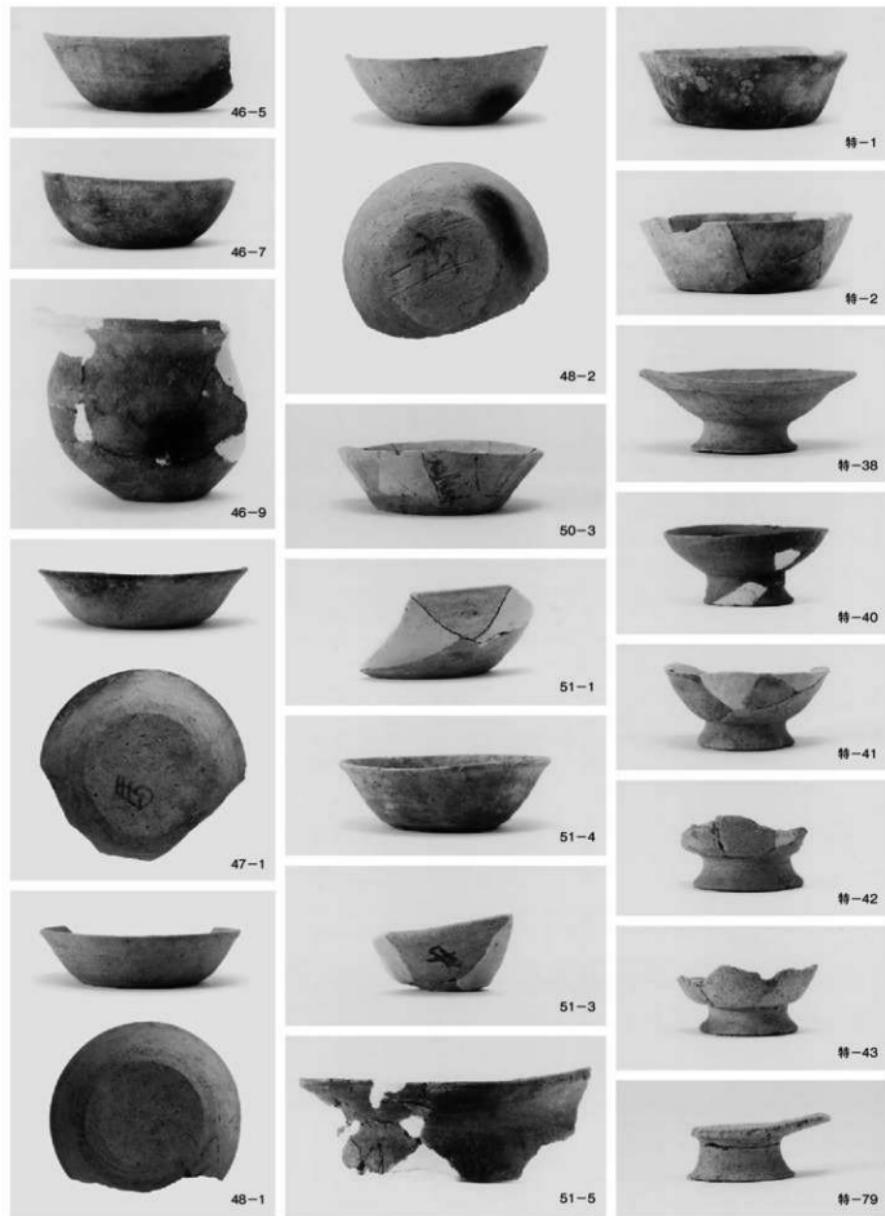
遺構出土遺物（35号住居跡～40号住居跡）



遺構出土遺物（40号住居跡～41号住居跡）



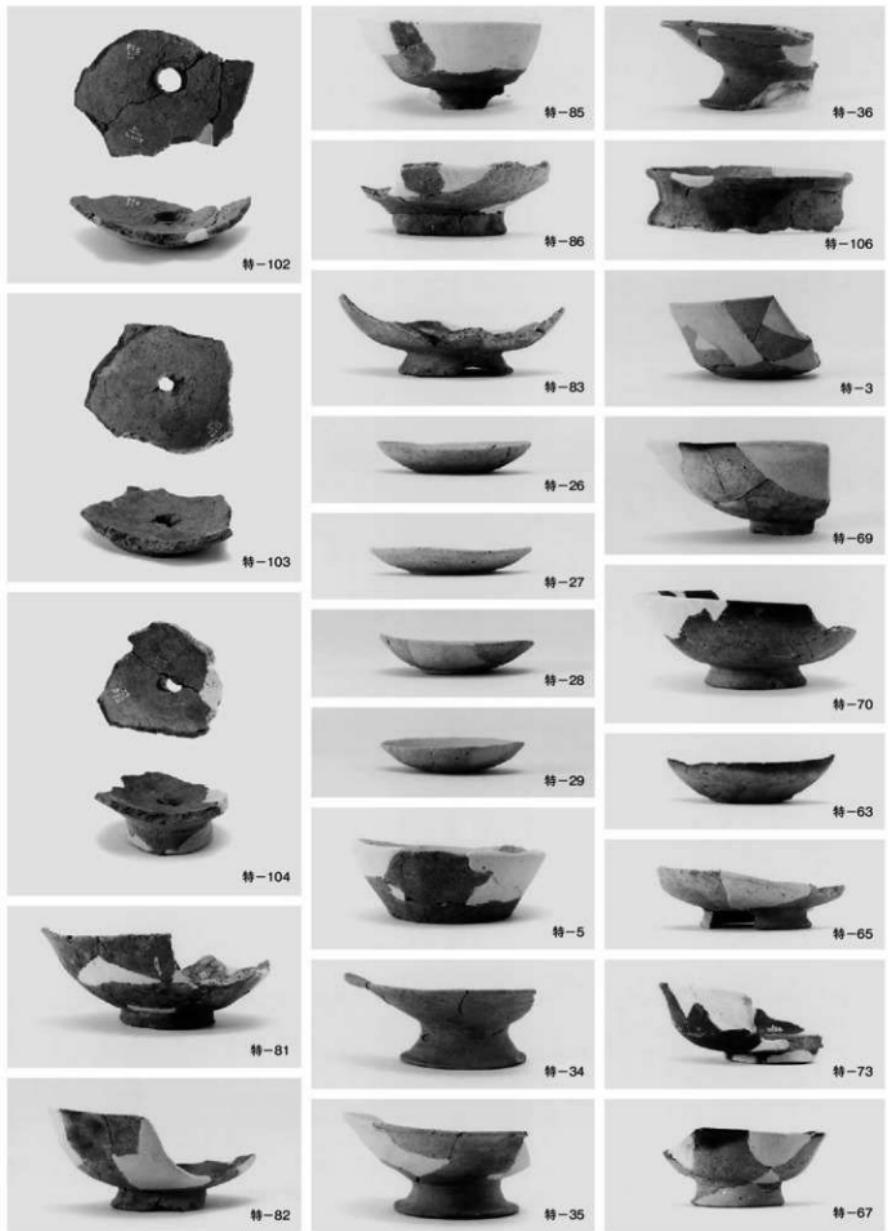
遺構出土遺物 (44号住居跡～46号住居跡)



遺構出土遺物（46号住居跡～特殊遺構）



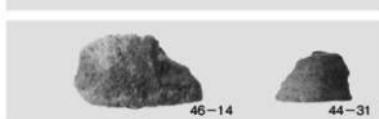
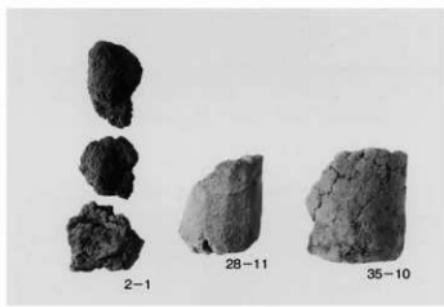
遺構出土遺物（特殊遺構）



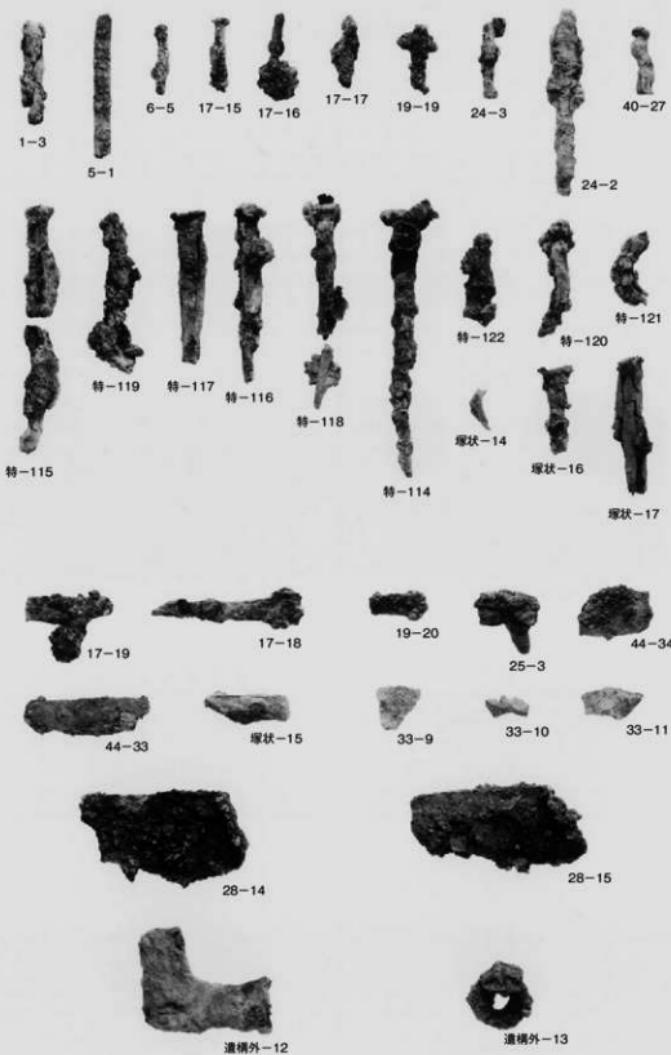
造構出土遺物（特殊造構）



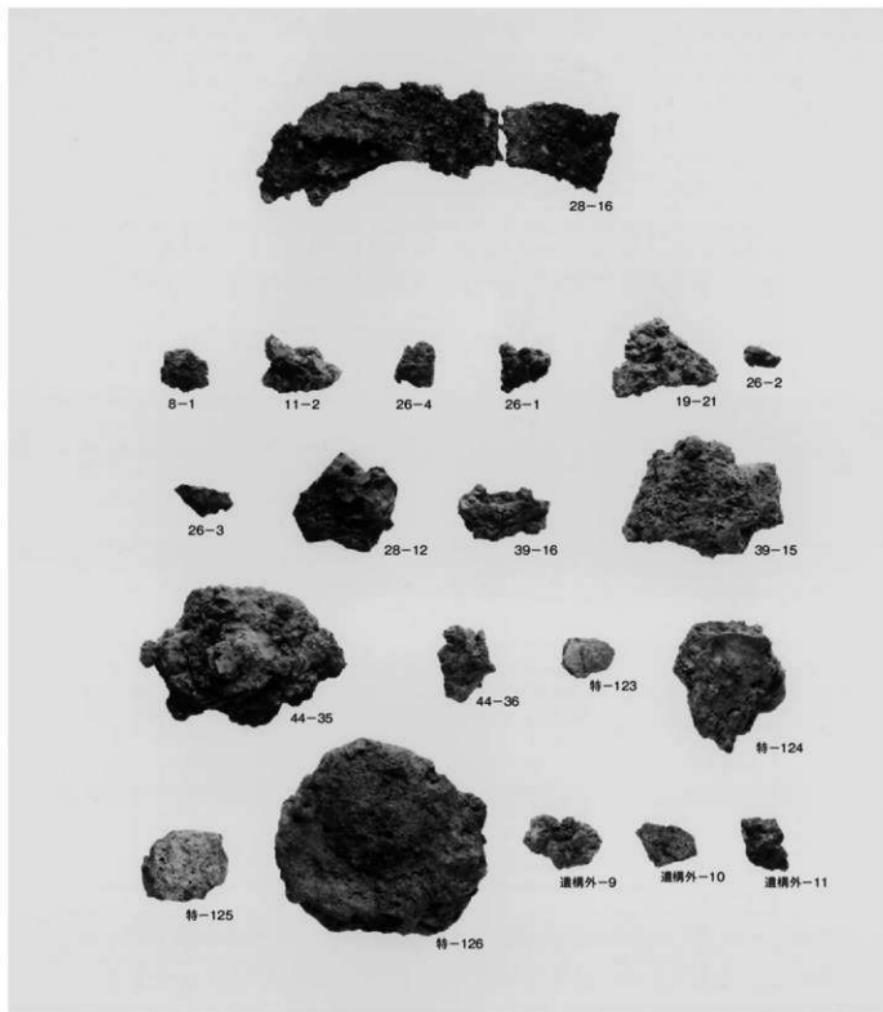
遺構出土遺物（特殊遺構）



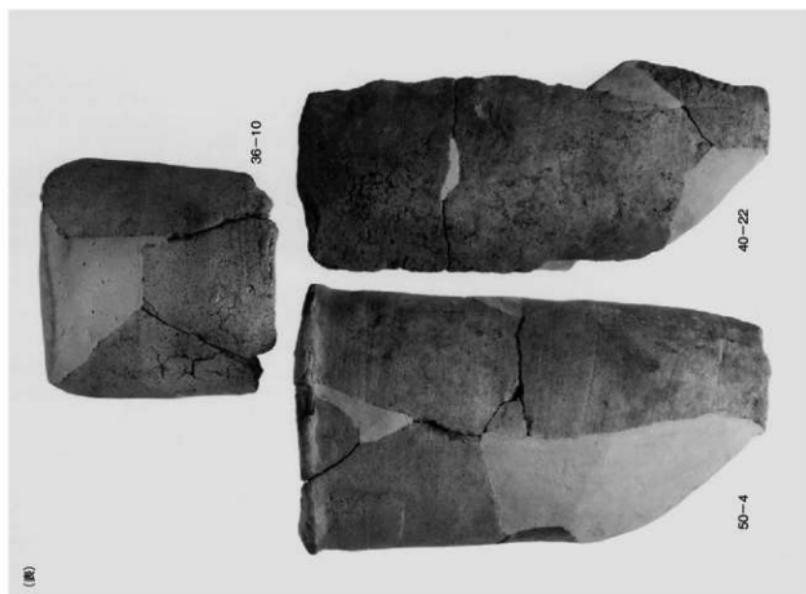
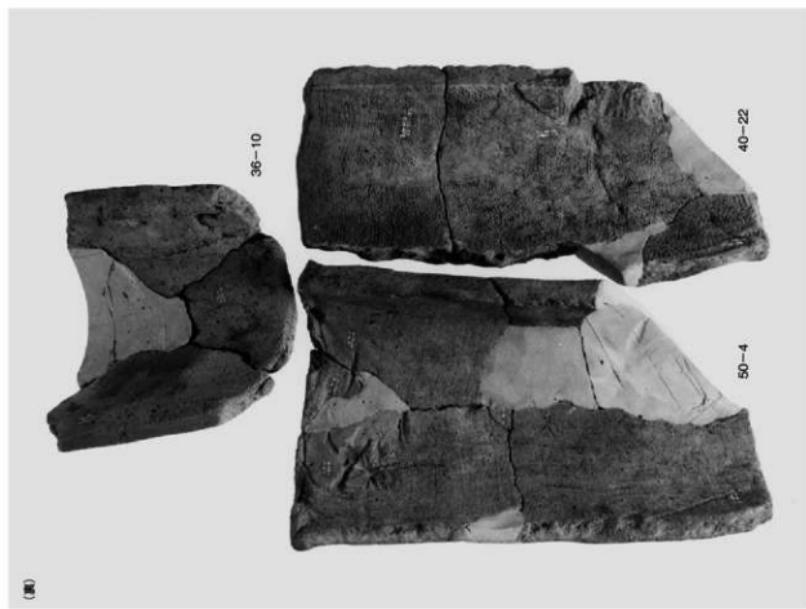
出土遺物（転用硯・土製品・鉆石）



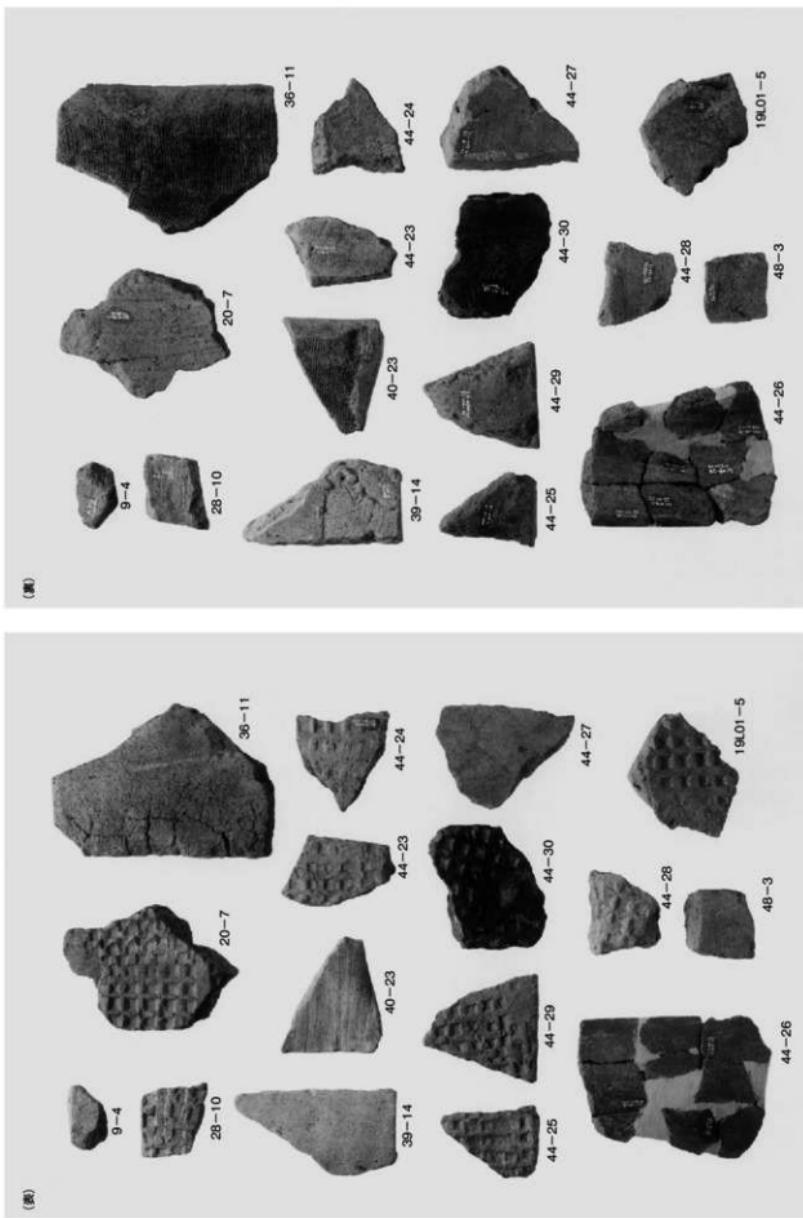
出土遺物（鉄製品）

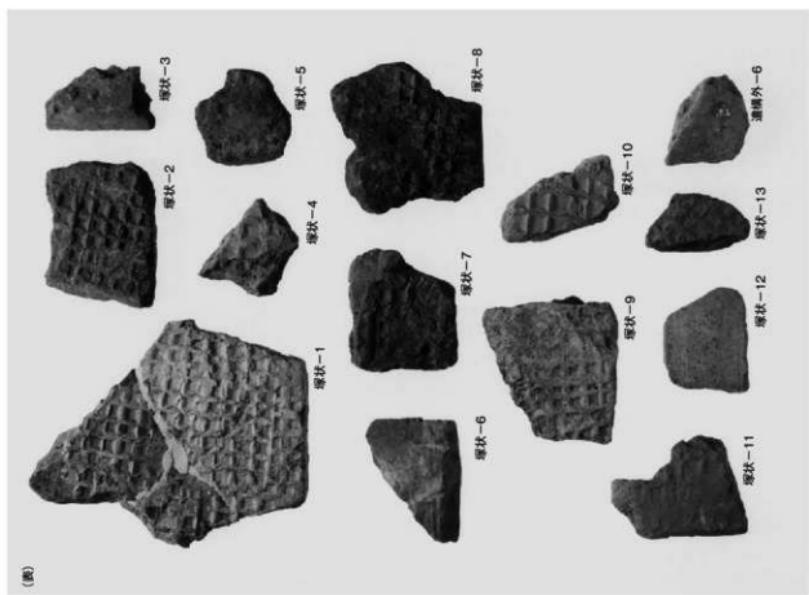
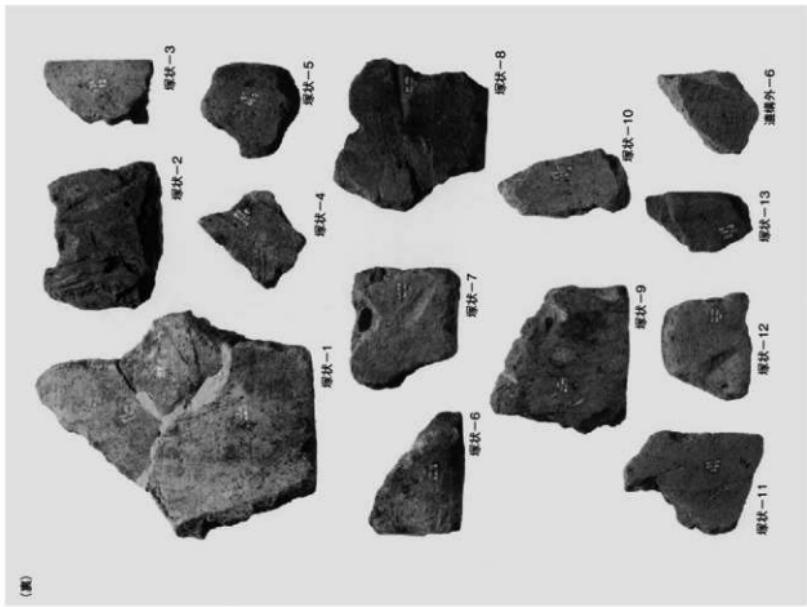


出土遺物（鉄製品・スラグ）

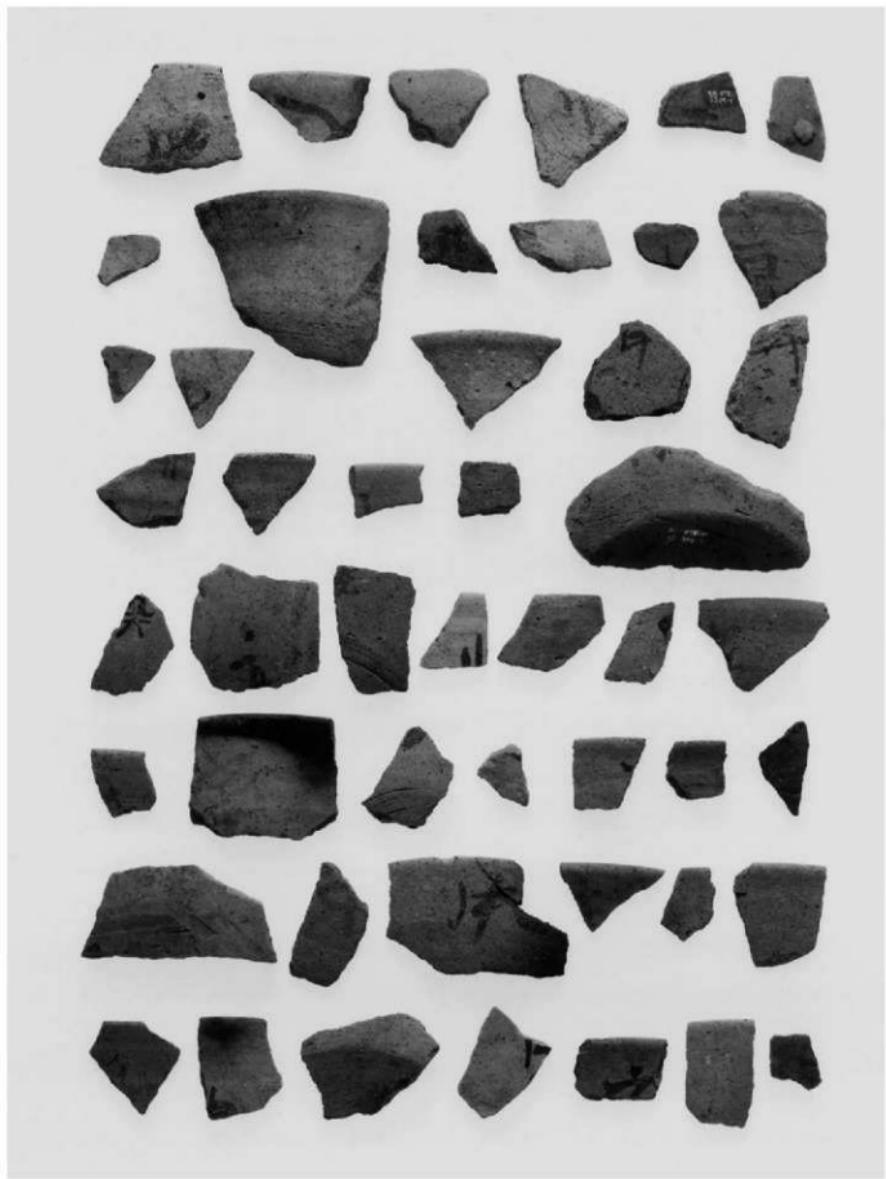


出土遺物 (B)

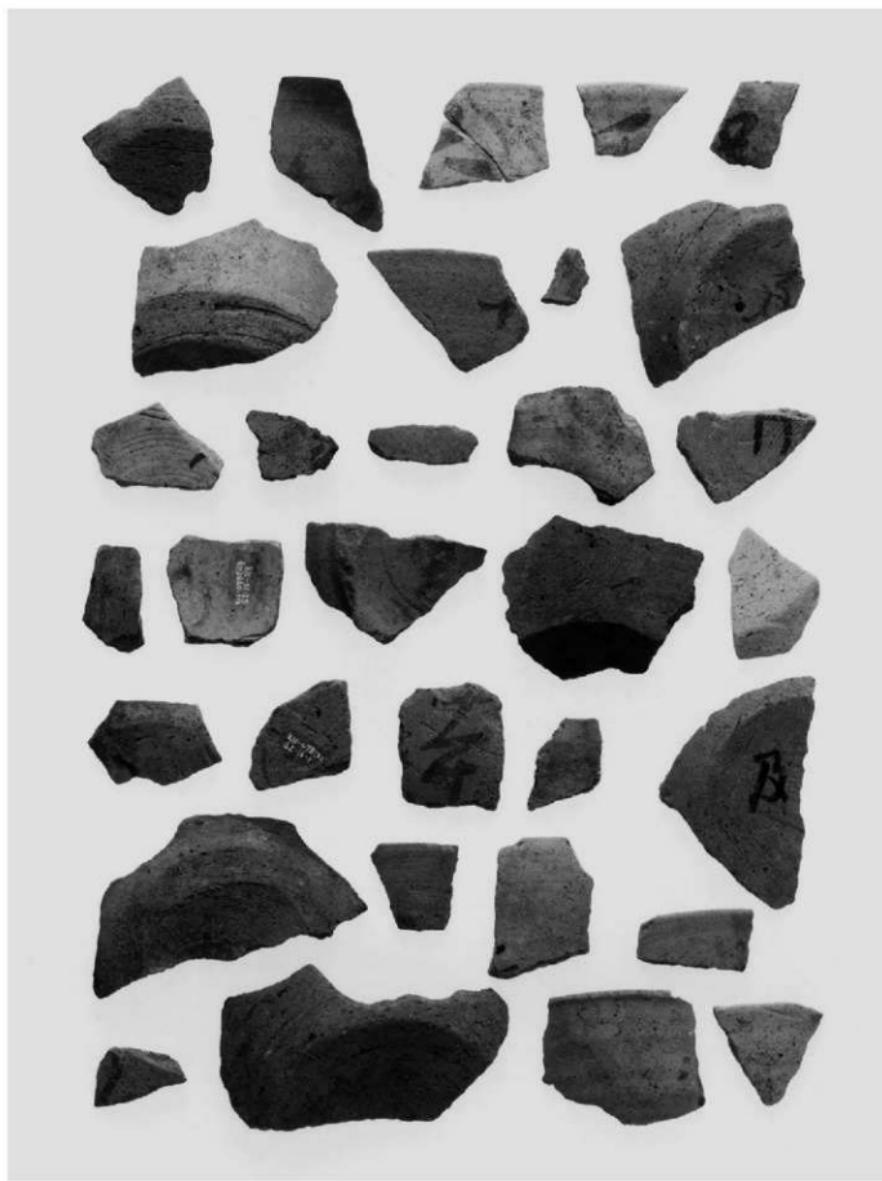




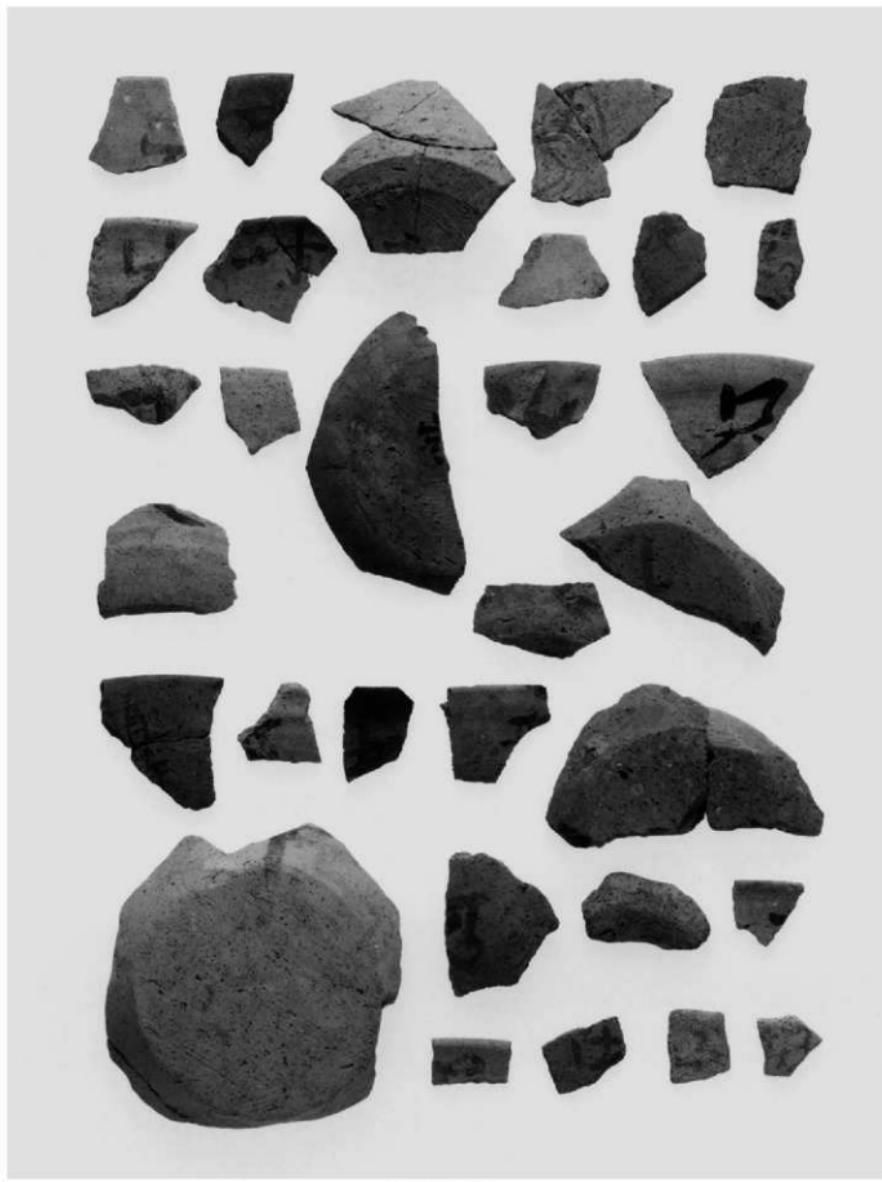
出土遺物 (瓦)



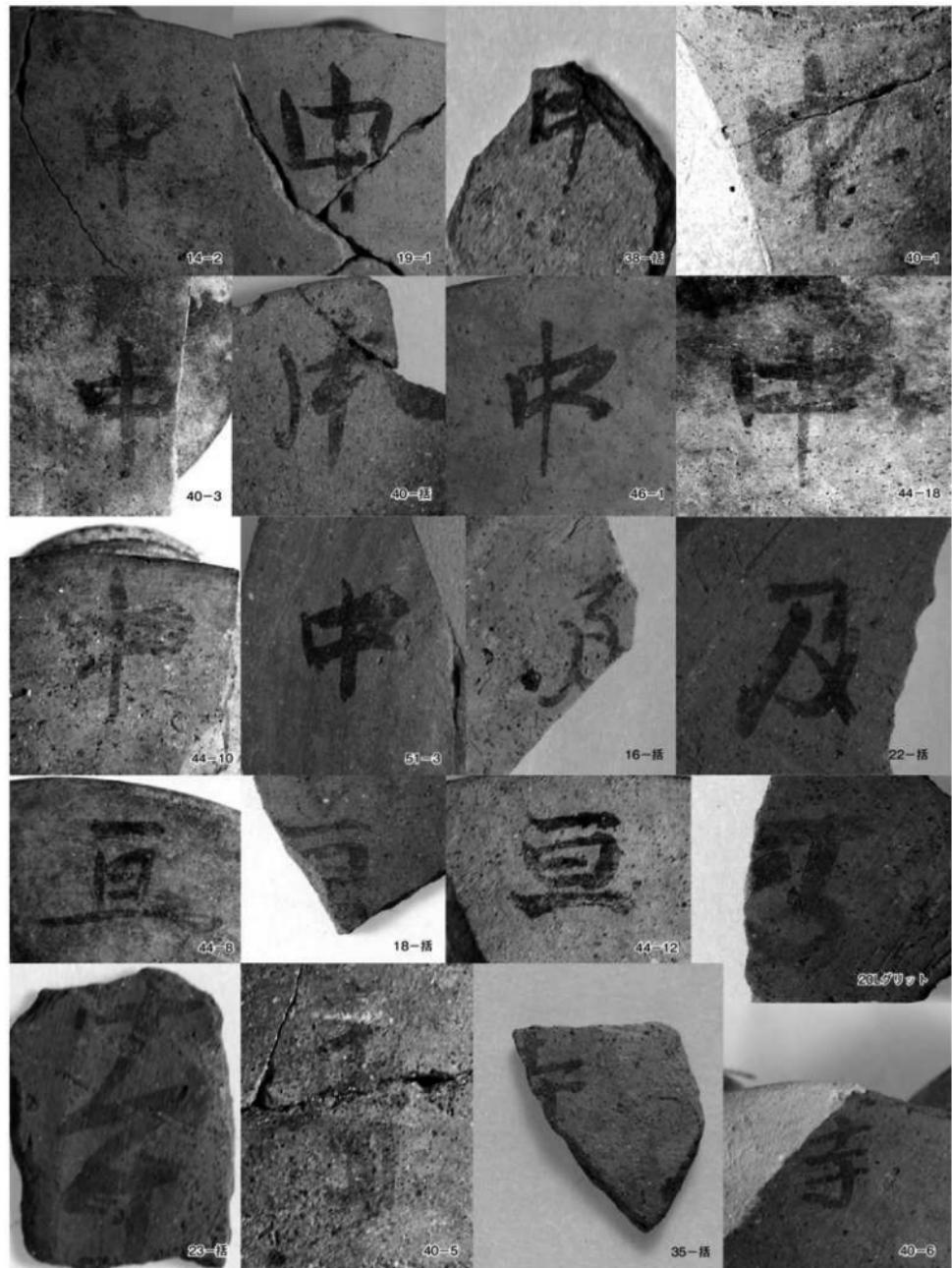
墨書き土器（1）



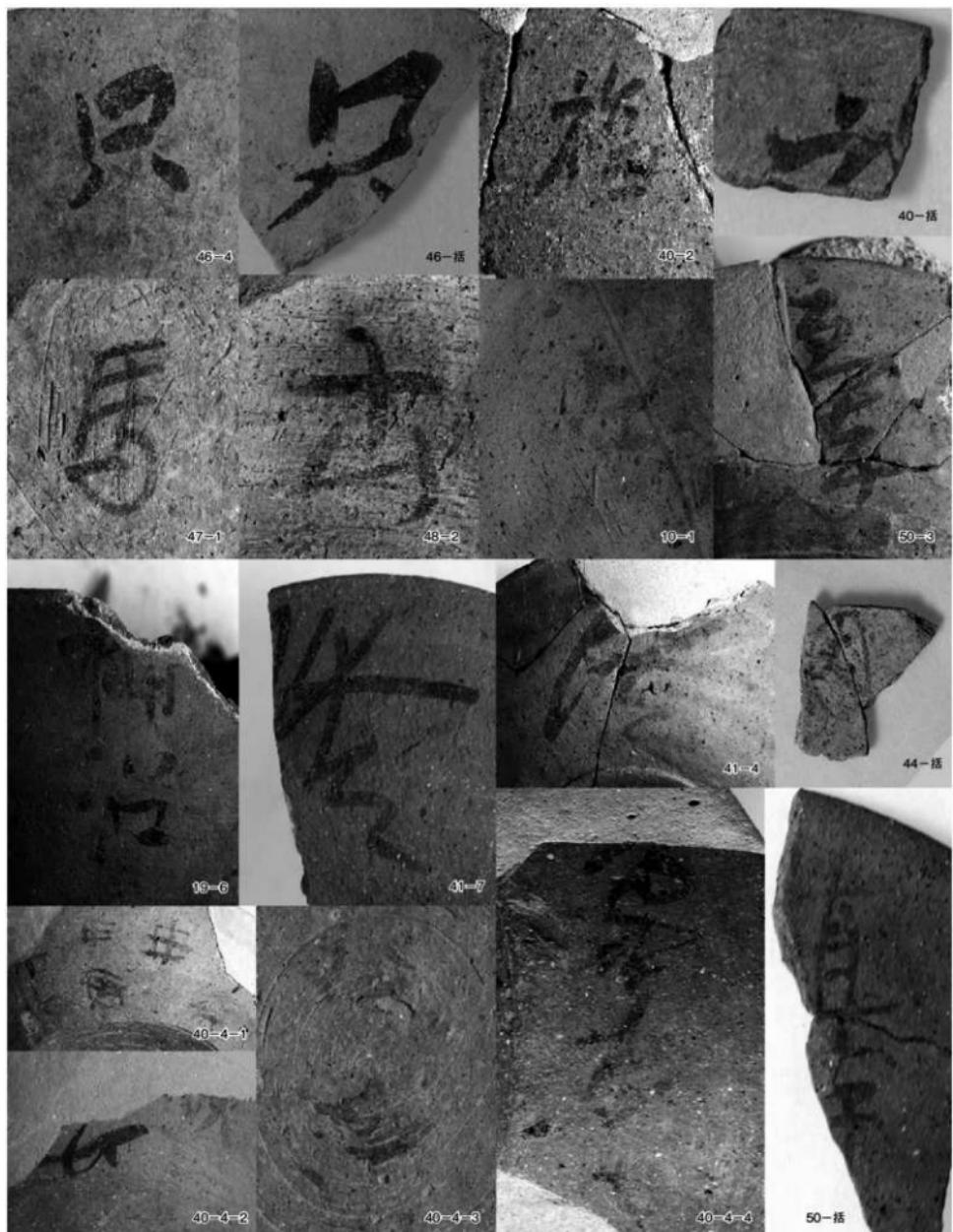
墨書き器（2）



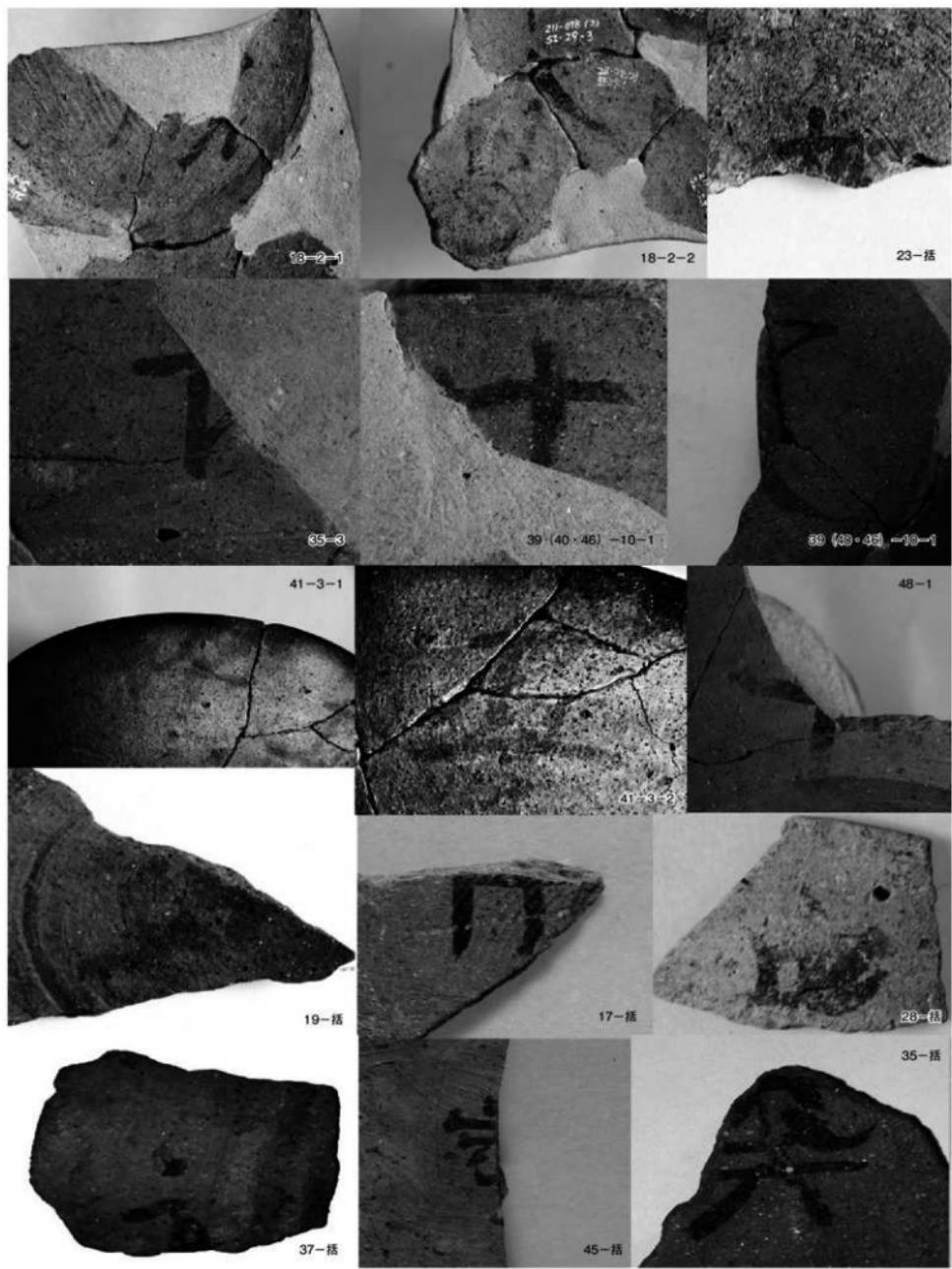
墨書き土器（3）



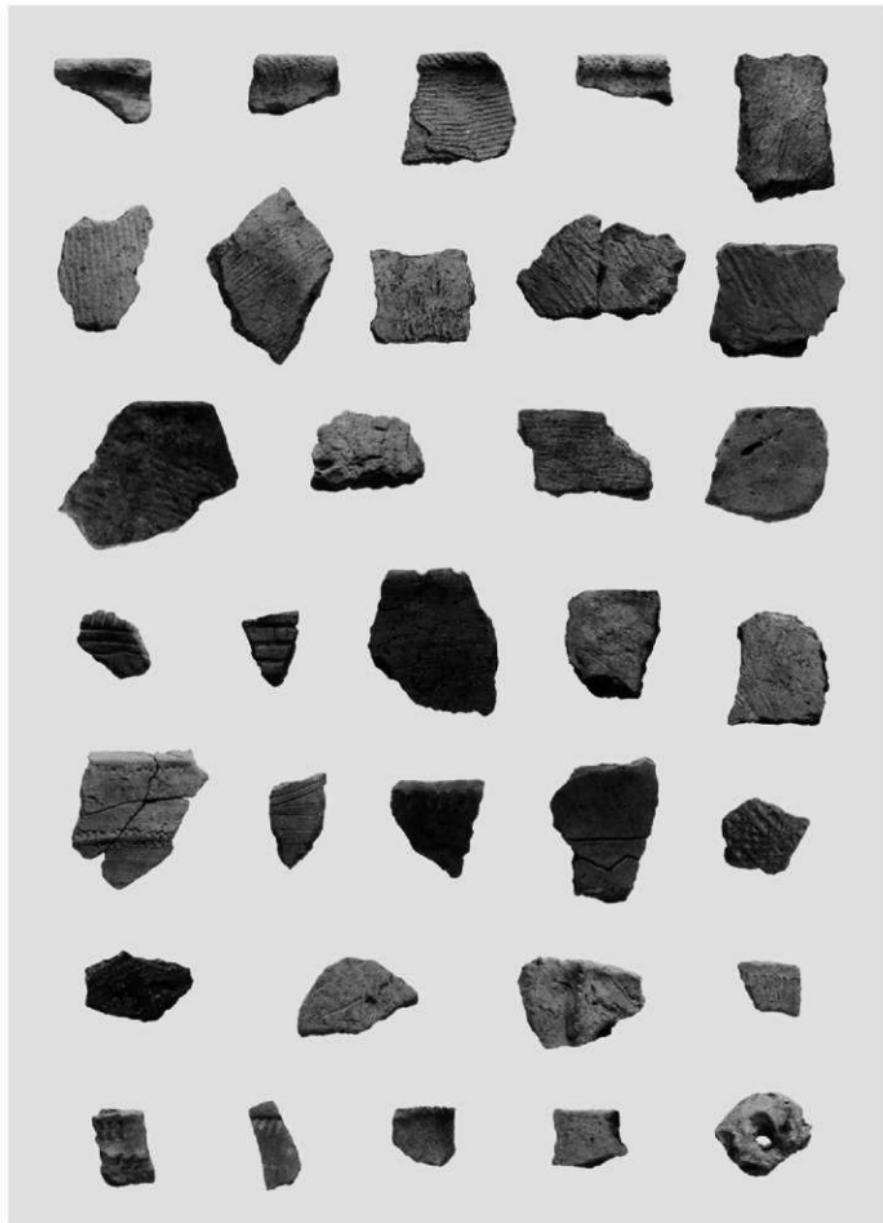
墨書文字集成（1）



墨書文字集成（2）



墨書文字集成（3）



その他の遺物（1）



(表)



その他の遺物 (2)

報告書抄録

千葉県教育振興財団調査報告第672集
首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書13
—成田市名木鎌部遺跡—

平成24年1月31日発行

編 集 財団法人 千葉県教育振興財団
文化財センター

発 行 国 土 交 通 省
常 総 国 道 事 務 所

茨城県土浦市川口1-1-26
アーバンスクエア土浦ビル4F

財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 株式会社 弘 文 社
市川市市川南2-7-2
